



2020年度
東洋大学
社会貢献センター一年報

TOYO University Center for Social Contribution 2020 Annual Report



目次

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長	1
---------------	---

社会貢献センターについて

東洋大学社会貢献センター規程	3
社会貢献センター組織図	5
2020年度 社会貢献センター運営委員会名簿	5
社会貢献センター運営委員会活動記録	6

生涯学習部門

生涯学習部門の歴史的背景	9
2020年度 公開講座と講師派遣事業の概要	12
公開講座	
2020年度 公開講座実績一覧	15
公開講座アンケート結果	17
過去5年間の受講者数	25
PICK UP	33
資格講座	
2020年度資格講座	36
講師派遣	
2020年度「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告	37
2020年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧	40
PICK UP	43

社会貢献部門

社会貢献情報収集	
社会貢献情報収集の概要	49
2020年度調査 社会貢献活動一覧	51
PICK UP	64
地域活性化活動支援事業	
地域活性化活動支援事業の概要	71
2020年度 地域活性化活動支援事業一覧・活動報告	72
社会貢献活動助成・表彰制度	
社会貢献活動助成・表彰制度	88
2020年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会	91
被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業	
被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業	95

社会貢献センター 外部評価

社会貢献センター 外部評価	97
---------------	----

刊行にあたって



東洋大学社会貢献センター長
森田 明美

東洋大学社会貢献センターは、本学の創立125周年を記念した事業の一環として構想され、2013年4月より本学が目指す「哲学・国際化・キャリア」という3つの柱に加えて社会貢献という第4の柱を構成するための拠点として位置づけ、開設されたものです。

大学は、次代の社会の中核を担う人たちの養成という重要な役割を担う非営利の組織であり、その役割をこれまでも担ってきました。また、なにより本学は創立者井上円了による「大学の教育を広く民衆に届ける」という思想を有しています。そうしたことから、その具体化を大学生に対してのみならず、広く社会に押し広げるといことは、今後の大学の在り方を探る重要な改革です。

その志をどのように具体化するのかということについては、学生と教職員のたゆまない挑戦と法人の理解と協力がなければ、こうした手探りの改革は発展しません。

当センターは、それまで生涯学習センターが担当してきた公開講座や講師派遣事業等のいわゆる生涯学習部門を一つの軸とし、社会貢献事業の掌握とその促進に関わる情報収集・提供等の役割をもう一つの軸として、関係教学部局と全学部からの参加による運営委員会方式で事業を推進してきました。

近年、こうした活動に社会貢献活動を直接応援する事業として、2015年度に急きょ実施したネパール地震支援に加えて、2016年度は熊本地震応援活動を実施しました。また、2016年度には、地域活性化に関して、学生と教員が一緒になって活動する企画への支援事業を始めました。

そうした活動を踏まえて、2017年度はボランティア支援室を開設する運びになりました。念願であった学生のボランティア活動を大学全体として応援する仕組みをつくることができました。ボランティアコーディネータとして配置された専門家の力を借りながら、専門性を持たれる先生と学生の協力で大きな活動が生まれました。事務局は、エクステンション課の職員が担っています。2年目の2018年度には学生主体のボランティア活動を進めるために、災害時の故郷の復興を学生が応援する際の助成金制度、東洋大学学生課外活動育成会の支援を受けて学生たちが主体になって企画実施をするボランティア活動も始まりました。

そうした意味では、これまでの事業を継承しながら、事務局と教学が一体となって、大学における社会貢献の在り方を探る新たな段階を迎えたと言えます。

この年次報告書は、当センター7年目の事業について、生涯学習部門の事業の概要と、社会貢献活動についての情報収集結果を中心にまとめています。2020年度は、コロナ禍の中で移動や三密を避けるという、厳しい制限がかかった中での取り組みとなりました。社会貢献やボランティア活動には、移動や人とのふれあいが求められるだけに、この制限の下での取り組みの実現には相当な工夫が求められことになり、学生と教職員が一丸となって工夫し、粘り強く挑戦しました。

今年の経験は、今後の取り組みに大きな影響を与えたいと思います。どうぞ、皆様の忌憚ないご感想とご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

社会貢献センターについて

改正 平成27年6月1日 平成28年6月1日

平成29年4月1日

東洋大学生涯学習センター規則（平成8年規則第131号）の全部を改正する。

（設置）

第1条 東洋大学学則第8条第1項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）に「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 社会貢献センターは、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与し、もって社会に開かれた大学としての本学の発展に資することを目的とする。

（構成）

第3条 社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第4条 社会貢献センターは、第2条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

2 生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 生涯学習プログラムの開発
- (2) 公開講座等の開催
- (3) 生涯学習に関する広報活動及び案内
- (4) 生涯学習に関する資料の収集
- (5) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

3 社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 社会貢献プログラムの開発
- (2) 本学各部局で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信
- (3) ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項
- (4) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

4 前項第3号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第5条 社会貢献センターに、センター長を置く

2 センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

3 センター長は、本学の専任教授のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

4 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第6条 社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教授のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は2年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(社会貢献センター運営委員会)

第7条 社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(運営委員会の組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 各学部及び大学院が推薦する専任教員 各1名
- (3) 学長が推薦する者 若干名
- (4) 通信教育部長
- (5) 学生部長
- (6) 教務部長

(委員の任期)

第9条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生涯学習プログラムの基本方針
- (2) 社会貢献プログラムの基本方針
- (3) 社会貢献センターの事業計画に関する事項
- (4) 学長から諮問された事項
- (5) その他社会貢献センターに関する重要事項

(議長)

第11条 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第12条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事業計画)

第14条 センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(事務の所管)

第15条 社会貢献センターの事務は、エクステンション課が所管する。

(細則)

第16条 この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則(平成9年4月1日施行)は、廃止する。

附 則(平成27年規程第153号)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

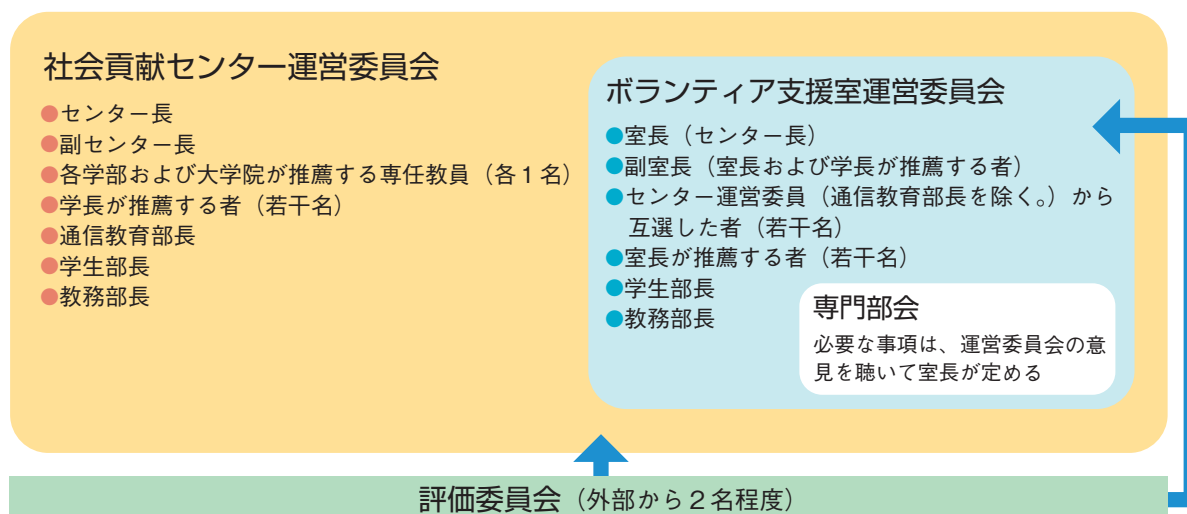
附 則(平成28年規程第90号)

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年規程第2号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

社会貢献センター組織図



2020年度 社会貢献センター運営委員会名簿

2021年3月31日現在

No.	役職	学部等	氏名	規程	
1	センター長	社会学部	森田 明美	第5条、第8条第1号	
2	運営委員	文学部	相楽 勉	第8条第1項第2号 (各学部及び大学院推薦)	
3		経済学部	澁澤 健太郎		
4		経営学部	松村 良平		
5		法学部	今井 雅子		
6		社会学部	山本 須美子		
7		ライフデザイン学部	嶺 也守寛		
8		理工学部	及川 康		
9		総合情報学部	小瀬 博之		
10		生命科学部	藤村 真		
11		食環境科学部	佐藤 順		
12		国際学部	山崎 義人		
13		国際観光学部	黒崎 文雄		
14		情報連携学部	浅野 泰仁		
15		大学院	吉田 明子		
16		ライフデザイン学部	山本 美香		第8条第1項第3号(学長推薦)
17		法学部	宮原 均		第8条第1項第4号(通信教育部長)
18		法学部	早川 和宏		第8条第1項第5号(学生部長)
19	国際観光学部	東海林 克彦	第8条第1項第6号(教務部長)		

※規程は「東洋大学社会貢献センター規程」を指す。

社会貢献センター運営委員会活動記録

<p>第1回：2020年4月6日(月) 【書面会議】</p> <p>報告事項：</p> <p>① 2020年度 社会貢献センター運営委員の交代について</p> <p>② 2020年度 春期 公開講座、資格講座の延期および中止等について</p>
<p>第2回：2020年5月13日(水) 【書面会議】</p> <p>報告事項：</p> <p>① 2020年度 地域活性化活動支援事業(追加募集)について</p> <p>② 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度(追加募集)について</p> <p>③ 講師派遣事業について</p> <p>④ 資格取得講座(FP3級)講座について</p> <p>⑤ ボランティア活動に関する意識調査(東洋大学ボランティア支援室)</p>
<p>第3回：2020年7月10日(金) 【書面会議】</p> <p>報告事項：</p> <p>① 公開講座および資格取得講座について</p> <p>② 社会貢献活動(学外での活動等)の実施について</p> <p> 〈地域活性化活動支援事業の実施について〉</p> <p> 〈東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成事業の実施について〉</p> <p> 〈学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画事業の実施について〉</p> <p>③ 講師派遣事業について</p> <p>④ ボランティア支援室「しゃべり場(オンライン窓口)」オープン</p> <p>⑤ ボランティア活動に関する意識調査(東洋大学ボランティア支援室)</p> <p>⑥ ボランティア支援室 「東洋大学生がワークショップで考える」初めてのSDGs(オンライン実施)</p>
<p>第4回：2020年7月24日(金) 【書面会議】</p> <p>審議依頼事項：</p> <p>① 2020年度 自己点検・評価について</p> <p>② 公開講座の実施について</p> <p>③ 講師派遣について</p> <p>報告事項：</p> <p>① 資格取得講座について</p> <p>② 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室活動について</p> <p>③ 学生課外活動育成会費に伴う各種ボランティア支援室活動支援に伴う取扱要領等の制定について(ボランティア支援室運営委員会承認済)</p>
<p>第5回：2020年8月22日(土) 【書面会議】</p> <p>審議依頼事項：</p> <p>① 2021年度 公開講座開講方針について</p> <p>② 2021年度 講師派遣方針について</p> <p>報告事項：</p> <p>① ボランティア支援室各種オンラインイベント</p>
<p>第6回：2020年9月30日(水) 【書面会議】</p> <p>報告事項：</p> <p>① 2020年度 秋期 公開講座開講について</p> <p>② 講師派遣事業申し込み状況について</p> <p>③ 地域活性化活動支援事業について</p> <p>④ 「Hands to Hands -みんなで乗り越える、コロナ禍-」について</p> <p>⑤ SDGs オンライン関連イベント(ボランティア支援室)</p> <p>⑥ 資格取得講座(FP2級講座)について</p>
<p>第7回：2020年10月14日(水) 【書面会議】</p> <p>審議依頼事項：</p> <p>① 予算要求について</p> <p>報告事項：</p> <p>① ボランティア支援室報告</p>

第8回：2020年10月29日(木) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2021年度 講師派遣事業実施に伴う「講師派遣テーマ」の募集について

報告事項：

- ① 2020年度 育成会事業および地域活性化活動支援事業の実施計画
② 東洋大学・ボランティア WEEK2020 ～人権と SDGs について考えよう～
③ 「Hands to Hands- みんなで乗り越える、コロナ禍-」第2弾実施について
④ 東洋大学 ボランティアカフェ (ボランティア支援室オンラインイベント)

第9回：2020年11月26日(木) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2021年度 地域活性化活動支援事業について(教員と学生と一緒に活動)
② 2021年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び2020年度社会貢献活動に対する表彰について(学生のための活動)
③ 文化公演会(芸術系) 企画教員への謝礼について

報告事項：

- ① 「ボランティア WEEK」実施計画(ボランティア支援室報告)
② 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ募集
③ 「Hands to Hands - みんなで乗り越える、コロナ禍-」について

第10回：2020年12月22日(火) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 東洋大学における社会貢献事業の実施状況調査について
② 2021年度 東洋大学公開講座 マスタープラン(案)について

報告事項：

- ① 2020年度 講師派遣実施報告
② 2020年度 公開講座の実施報告
③ 地域活性化活動支援事業について
④ 課外活動育成会活動について

第11回：2021年2月5日(金) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 社会貢献活動に対する表彰制度について
② 2021年度 舞鶴市との「エクステンション講座 C [連携講座] に関する申し合わせ(案)」

報告事項：

- ① 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成および社会貢献活動表彰・表彰金等について
② 2021年度 春期 公開講座企画
③ 公開講座アンケート結果
④ 2021年度 資格取得対策講座 一覧(予定)
⑤ ボランティア支援室報告

第12回：2021年2月27日(土) 【書面会議】

報告事項：

- ① 2021年度 地域活性化活動支援事業選考結果について
② 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成(学生による活動)、地域活性化活動支援事業(教員と学生による活動) 報告会他について
③ 新学期ガイダンス概要について
④ 外部評価の受審について
⑤ 各種イベント実施報告について

第13回：2021年3月25日(木) 【書面会議】

報告事項：

- ① 社会貢献センター、ボランティア支援室に対する外部評価について
② 2021年度 社会貢献センター予算執行計画について
③ 2021年度 学生団体による社会貢献活動助成 選考結果について
④ 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成(学生による活動)、地域活性化活動支援事業(教員と学生による活動) 報告会について

生涯學習部門

- 公開講座
- 資格講座
- 講師派遣

生涯学習部門の歴史的背景

1. 公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向けて仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、新しい情報として入手していたアメリカ等で行われていた「サマースクール」とその日本版とも呼ぶべき通信講学会でその実施を経験していた夏期学校等に影響を受けつつ実施されたものであると思われる。日本でも非常に早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果そうとしてきたことの証でもある。

第2次世界大戦後、多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ、その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回も開講したという歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起され、地域のひとびとに、大学の持つ知的な資源を提供する社会貢献事業は一貫して重視されてきたものであった。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への要求はますます高いものとなり、その期待を受けて、1975（昭和50）年代後半になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の拡張を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史があった。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成2）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり、人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであったため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置においては大学自身の方が早く対応していたことになる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成9）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経ながら発展して現在に至る。また、2020年度は、コロナウイルス「COVID-19」の影響により、春期は全て中止となったが、秋期に本学公開講座としては初めてのWebを利用したオンライン講座を行なった。

2. 講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学の講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888(明治21)年、井上円了は1年間の欧米視察に出かけたがそのことを通じて、「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至る。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し大学設立のための開設資金を得るために、全国を巡回し講演をすると共にその後募金をお願いするという計画を立てる。既に卒業生を輩出していたことや講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そして、いよいよ1890(明治23)年11月より、円了は自らが全国各地に赴いて講演をする教育活動に着手したのである。欧米への視察により、ケンブリッジ大学を起点としてイギリス各地及びアメリカにおいて急速に発展していた大学の構外講義、いわゆるユニバーシティ・エクステンション事業をつぶさに見聞して来た円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったと言えよう。

その後、1898(明治31)年～1902(明治35)年、1906(明治39)年～1919(大正8)年と講演旅行を続け、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。講演は、村や町の小学校の講堂やお寺等で開催され、延べ130万人を超える人々がその講演を聴いたとされる。この偉業は、今日まで、誰も手の届かない回数 of 講演である。受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎したとされる。当時こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子が、円了による記録のみならず、全国各地で記録され今日まで保存されている。こうした講演をきっかけとして、ご寄付を頂くこととなり、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたと言っても過言ではない。

1997(平成9)年に設立110年を迎えていたこともあり、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999(平成11)年度には創立者井上円了の没後80周年を記念した事業が構想された。そのひとつが、創立時に社会から受けた支援(寄付金)への御礼と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。同年度から始まった講師派遣回数は、21年間で2,294回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、この事業は今後も継続し続けなければならないものである。

1999(平成11)年に開始された講師派遣事業は、21年間で全国各地に2,294件の実績を残すことができた。本事業は、長く高校生を対象とした内容と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校では2000(平成12)年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によると、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」(文部科学省HPより引用)とされており、現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。講師派遣事業の存在が知られると、2001(平成13)年度には100件もの依頼が殺到した。ただし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で喧伝されるにつれて、総合的な学習の時間への評価は二分されるようになり、2011(平成23)年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減る。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導すること

となり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動するかのようになり、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012（平成24）年度より激減した。

一般成人を対象とした講師派遣は、公民館などの社会教育施設及び関連施設において開催される住民対象の講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学等、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多様であった。

2015（平成27）年度には、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に資するよう「企業研修支援プログラム」をスタートさせた。本プログラムは、2016（平成28）年度より有料とし、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と名称を改め、企業のみならず各種団体でのスキルアップ研修に対応した。2016（平成28）年度から2019年度にかけては、「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設け、小中高等学校や特別支援学校に向けて、五輪をはじめスポーツに関する講義を実施した。

2020年度では、新型コロナウイルス「COVID-19」の影響により、Web オンラインを利用した講師派遣を初めて実施した。また、本学のSDGs達成に向けた取り組みの一つとして、小中高等学校、特別支援学校を対象とした「SDGs達成学習支援プログラム」を開始した。

生涯学習部門

2020年度 公開講座と講師派遣事業の概要

1. 公開講座

例年、「オープン講座」、「エクステンション講座 A・B・C」、「文化公演」、「その他(文京アカデミア講座、川越小・中学生サマースクール等)」、「資格講座」という5区分で実施しているが、春期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため全講座中止にした。

秋期は、感染防止対策(定員の削減、座席間距離の確保、検温、机等の消毒など)を講じた対面形式の他に、オンライン形式も初めて実施した。それぞれの概要は次のとおりである。

1) オープン講座(無料)

2015(平成27)年度まで「市民大学講座」「学術講演会」として開講されていた無料講座を2016(平成28)年度より合わせて「オープン講座」と名称変更し、各キャンパスを会場として実施している。当該年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため秋期に白山オープン「ウイルス排除に必要な免疫力とは」のみ実施された。申込者数は全体で40名に及んだ。

2) エクステンション講座(有料)

1人の講師が連続講座形式で担当する講座Aと、あるテーマに基づいてオムニバス形式で複数の講師が担当する講座B、外部団体との連携講座Cがあり、受講料等の面での差別化を図った。

講座Aは9講座(うち1講座は講師の都合により中止)、講座Bは4講座、講座Cは1講座(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)、受講者は全エクステンション講座合計で196名となった。これは講座ごとに受講者として登録した人数であり、延べ人数は1,000人以上であった。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため葉書申込を廃止し、Webのみの申込へ変更した。

講座Aでは、例年、春学期と秋学期で実施される『源氏物語』全巻を読む講座は定番となっており、リピーターの多い講座である。

講座Bは、現代的な課題を取り上げ、それに関わる研究や実践を進めている教員がそれぞれの角度から考察を加えるオムニバス方式の講座であり、学際性を生かしたチーム編成による講座は、本学における研究の特徴を示すものでもある。「アイドル・ビジネスの現状と将来像」、「大人のひきこもりと老親(8050)問題を考える」、「ドイツ語圏の日常」、「キリスト教芸術の醍醐味」等、総合大学ならではのテーマ設定で多様な講座を提供することができた。

3) 文化公演

文化公演は、実演を伴う文化・芸術に関する公演を無料で提供するもので、今年度は本学出身の落語家を招いて「日本の話芸-落語」と題して、抽選で80名を募集し、58名が円了ホー

ルにて受講した。なお、東京都の感染者数が増加しつつある時期と重なり、今回は当選後の辞退者も多かった。

4) 資格講座

2016(平成28)年度より始まった当講座は、社会人の学び直しによるキャリアアップまたは再雇用や、学生の就職活動時または就職後に必要な資格の取得を目的としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として対面講座は、大学の行動指針に基づき中止となり、1講座も開講できない結果となった。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行いながら、学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

2. 講師派遣事業

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、派遣スタートを5月から9月に変更し、大学の行動指針レベルに合わせながら対面とWebの2種での実施方法となった。3つのプログラム全体で41件の申込みがあったが、コロナ禍により中止を余儀なくされ、派遣に至ったのは31件(このうち研修支援プログラムは2件、SDGsプログラムは7件)であり、前年度に比べ64件ほど減少した。

地域的な分布については、関東地方が約65%を占めており、昨年度よりも偏りのある結果となった。

また、実施団体は前年度に比べ大幅に減ってはいるが、団体の種別は昨年度とほぼ変わらない比率であった。

実際に派遣に応じた講師は、専任教員が20件と多数を占めており、東洋大学専任教員にとっても重要な役割であると認識されている。さらに、名誉教授・元教授8名による11件という数字も明記しておきたい。講演の内容については、全区分において要請があり、地域社会からの期待に応えるようなテーマを準備していた。

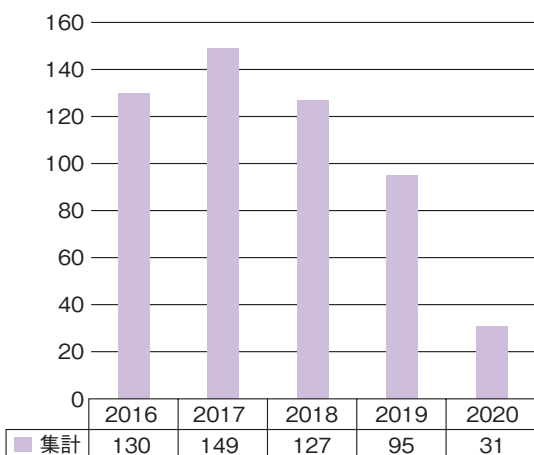
東洋大学講師派遣事業件数一覧(1999年度～2020年度)

※プログラム名は現名称、地方内訳は過去5年のみ。

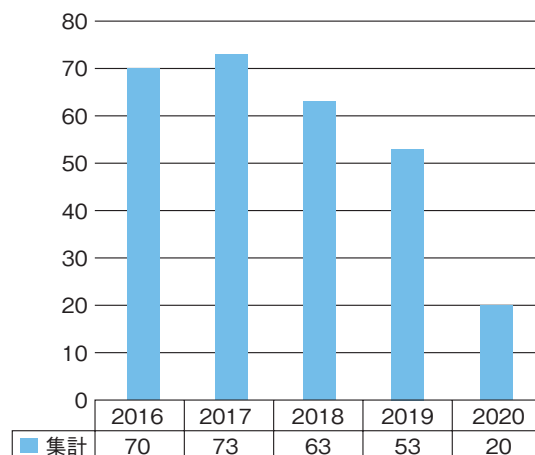
年度	地方	生涯	研修	SDGs	オリパラ	計	年度	地方	生涯	研修	SDGs	オリパラ	計
1999	年度計	231	-	-	-	231	2013	年度計	79	-	-	-	79
2000	年度計	78	-	-	-	78	2014	年度計	99	-	-	-	99
2001	年度計	135	-	-	-	135	2015	年度計	105	6	-	-	111
2002	年度計	223	-	-	-	223	2016	北海道	5	-	-	-	5
2003	年度計	119	-	-	-	119		東北	16	-	-	-	16
2003	年度計	96	-	-	-	96		関東	61	-	-	9	70
2005	年度計	47	-	-	-	47		中部	12	-	-	-	12
2006	年度計	57	-	-	-	57		北陸	5	-	-	-	5
2007	年度計	58	-	-	-	58		近畿	9	-	-	-	9
2008	年度計	67	-	-	-	67		中国	5	-	-	-	5
2009	年度計	64	-	-	-	64		四国	3	-	-	-	3
2010	年度計	70	-	-	-	70		九州	5	-	-	-	5
2011	年度計	79	-	-	-	79	年度計	121	-	-	9	130	
2012	年度計	85	-	-	-	85							

年度	地方	生涯	研修	SDGs	オリパラ	計	年度	地方	生涯	研修	SDGs	オリパラ	計
2017	北海道	9	-	-	-	9	2019	北海道	5	-	-	-	5
	東北	14	-	-	-	14		東北	10	-	-	-	10
	関東	60	5	-	8	73		関東	41	2	-	10	53
	中部	12	1	-	2	15		中部	8	-	-	1	9
	北陸	6	-	-	-	6		北陸	1	-	-	-	1
	近畿	9	2	-	-	11		近畿	6	-	-	-	6
	中国	7	-	-	-	7		中国	4	-	-	-	4
	四国	2	-	-	-	2		四国	0	-	-	-	0
	九州	12	-	-	-	12		九州	7	-	-	-	7
	年度計	131	8	-	10	149		年度計	82	2	-	11	95
2018	北海道	10	-	-	-	10	2020	北海道	2	-	-	-	2
	東北	11	2	-	-	13		東北	2	-	-	-	2
	関東	50	6	-	7	63		関東	11	2	7	-	20
	中部	10	-	-	1	11		中部	1	-	-	-	1
	北陸	7	1	-	-	8		北陸	3	-	-	-	3
	近畿	9	-	-	-	9		近畿	1	-	-	-	1
	中国	4	-	-	-	4		中国	-	-	-	-	-
	四国	3	-	-	-	3		四国	1	-	-	-	1
	九州	6	-	-	-	6		九州	1	-	-	-	1
	年度計	110	9	-	8	127		年度計	22	2	7	-	31

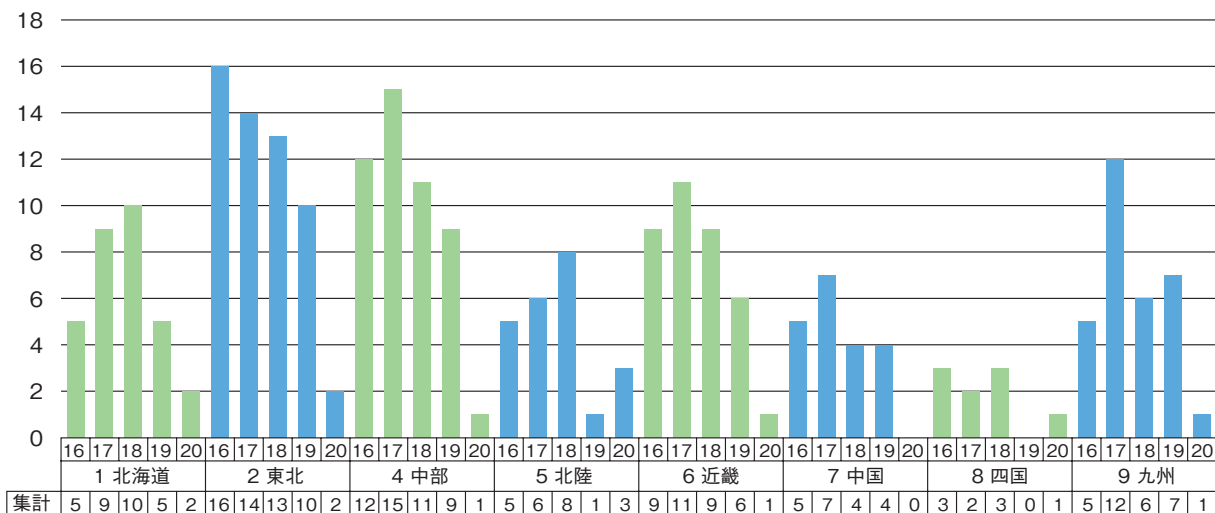
過去5年の派遣数



過去5年間の派遣数(地方毎／関東地方)



過去5年間の派遣数(地方毎／除く関東)



公開講座

2020年度 公開講座実績一覧

〈春期全講座〉

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

〈秋期：オープン講座〉

場所	講座名	講師	形式	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	ウイルス排除に必要な免疫力とは	加藤 和則	対面	2020年12月19日	1回	40名	無料	90

〈秋期：エクステンション講座A〉

場所	講座名	講師	形式	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	運動習慣が身体に及ぼす効果について考える	小河 繁彦	対面	2020年10月24日	講師の都合により中止			
	『源氏物語』全巻を読む - 「宿木」- 浮舟の登場 -	河地 修	対面	2020年10月19日 ～12月21日 ※11月2日・23日 は除く	全8回	一般：13名 学生：3名	一般：13,200 学生：4,400	960
	明日からできる健康意識改革 - 健康寿命を延伸しよう -	大瀬良知子	オンデマンド	2020年10月17日	全1回	一般：5名 学生：3名	一般：550 学生：550	90
	これならわかる！最新・介護 保険制度～「人生100年時代」 を生きるために～	高野 龍昭	対面	2020年11月14日	全1回	一般：8名 学生：2名	一般：1,650 学生：550	90
	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	対面	2020年12月12日・ 12月19日	全2回	一般：15名 学生：2名	一般：3,300 学生：1,100	180
	「幕末維新の古文書」を読む 日米和親条約～日米修好通商 条約	岩下 哲典	Live 配信	2020年10月10日・ 11月14日・ 12月12日	全3回	一般：8名 学生：1名	一般：1,650 学生：1,650	270
	大乘仏教はどのように起こっ たのか-その成立と展開-	渡辺 章悟	※Live 配信	2021年1月9日・ 1月23日・1月30日	全3回	一般：19名 学生：0名	一般：1,650 学生：1,650	270
	おひとりさまの「終活」	井上 治代	対面	2020年12月12日	全1回	一般：22名 学生：0名	一般：1,650 学生：550	120
	仏教思想を考える-その哲学・ 宗教・倫理	竹村 牧男	対面	2020年10月3日・ 11月21日・ 12月5日	全3回	一般：20名 学生：0名	一般：4,950 学生：1,650	270

※対面からLive 配信に変更。

〈秋期：エクステンション講座B〉

場所	講座名	講師	形式	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	アイドル・ビジネスの現状と 将来像	安藤 和宏 加藤 邦明 原 一博 丸谷マナブ	対面	2020年11月21日	3回	一般：24名 学生：34名	一般：4,950 学生：1,650	300
	福祉社会システム専攻シリー ズ／大人のひきこもりと老親 (8050)問題を考える	綿貫 公平 (コーディネーター) 小澤 浩明 須田木綿子	対面	2020年11月5日	1回	一般：2名 学生：9名	一般：1,650 学生：550	90

場所	講座名	講師	形式	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	ドイツ語圏の日常	田中 雅敏	Live 配信	2020年11月14日	3回	一般：7名 学生：0名	一般：1,650 学生：1,650	270
		山田 香織		2020年11月21日				
		パウアー・ラース		2020年11月28日				
	キリスト教芸術の醍醐味－儀 礼・聖画・イコン・聖歌－	中里 巧	対面	2020年10月10日	3回	一般：10名 学生：0名	一般：4,950 学生：1,650	360
		山舘 順		2020年10月17日				
		折田 真樹		2020年10月24日				

〈文化公演〉

場所	講座名	出演者	形式	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	日本の話芸－落語	林家 時蔵 林家 あんこ 柳亭 市寿 入船亭扇ぼう 〈コーディネーター〉 中山 尚夫	対面	2020年11月14日	1回	80名	無料	120

公開講座アンケート結果

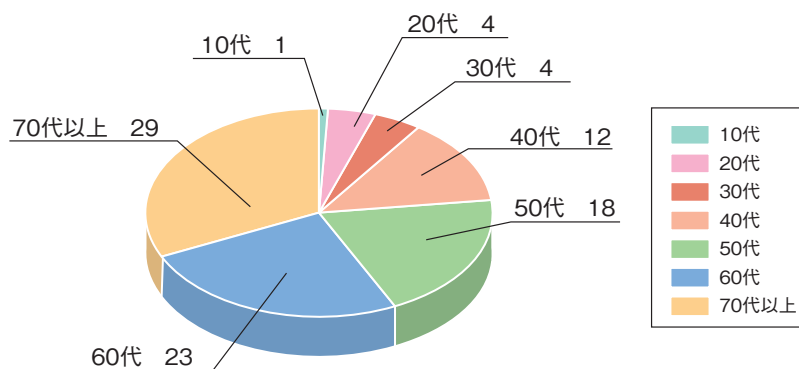
2020年度 A講座アンケート結果

申込総数：135名

回収枚数：93枚

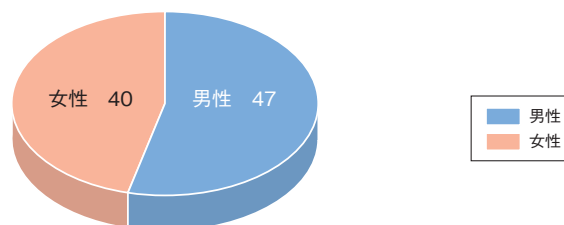
【年齢】無回答：2名

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	4	4	12	18	23	29



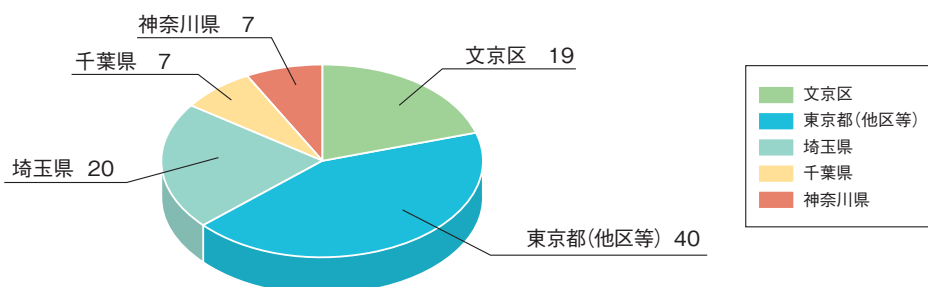
【性別】無回答：6名

男性	女性
47	40



【住所】

文京区	東京都(他区等)	埼玉県	千葉県	神奈川県
19	40	20	7	7

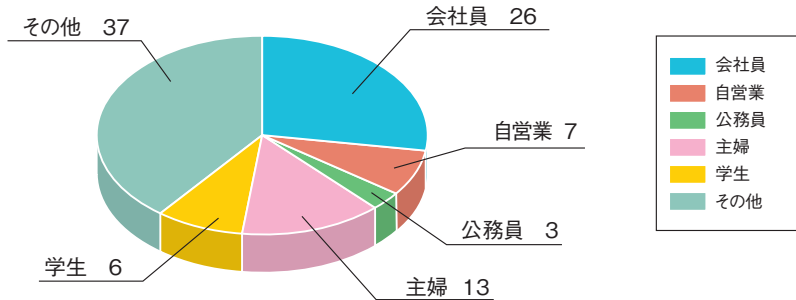


【職業】

会社員	自営業	公務員	主婦	学生	その他
26	7	3	13	6	37

〈参考〉

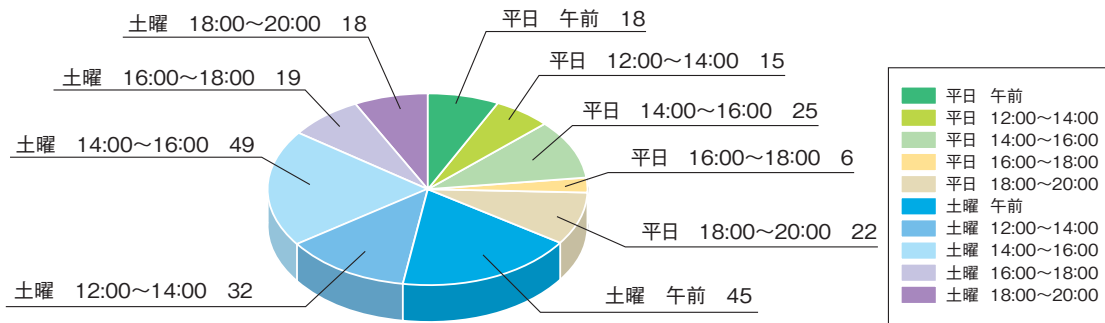
「その他」内訳… 通信OG：1名、無回答：8名、パート：4名、無職：13名、医師：1名、
 団体職員：1名、リタイヤ生活：1名、契約社員：1名、弁護士：1名、
 年金生活者：3名、フリー：2名、不明：1名



【公開講座に参加しやすい日時】 ※複数回答あり

平日				
午前	12:00~14:00	14:00~16:00	16:00~18:00	18:00~20:00
18	15	25	6	22

土曜				
午前	12:00~14:00	14:00~16:00	16:00~18:00	18:00~20:00
45	32	49	19	18



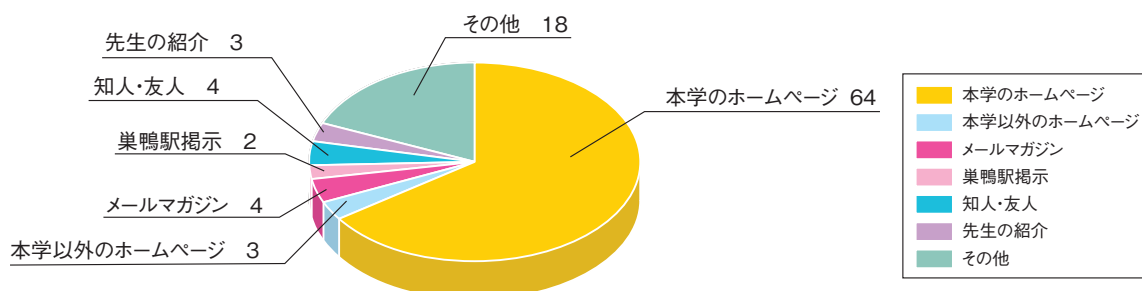
【この講演会を知った方法】※複数回答あり

本学のホームページ	本学以外のホームページ	メールマガジン	巣鴨駅掲示	知人・友人	先生の紹介	その他
64	3	4	2	4	3	18

＜参考＞

「先生の紹介」内訳…… 松田英子先生：1名、竹村先生：1名、無回答：1名

「その他」内訳…… パンフレット：3名、講座継続：1名、新聞：1名、Toyonet-G：1名、フリーペーパー：1名、文京スクエア：7名、案内状：2名、セカンドアカデミーサイト：1名、無回答：1名



【講座の感想等】

[秋期：A2 『源氏物語』全巻を読む－「宿木」－浮船の登場～薫の執拗な接近に困惑する中の君、異母妹の存在を打ち明けられる～]

- ・物語の背景、周辺のことも含めて教えていただき、大変興味深い内容でした。
- ・コロナ禍でも対面式の講義を開催して下さい、感謝しております。先生のお話で、ただ現代語訳を読んでいるだけでは分からなかった、細部まで理解が出来るようになりました。講義中先生が投げかける様々な問いかけであれこれ考えるきっかけを頂き、脳ミソの活性化にもなり刺激にもなりました。次回も是非対面式での講義を期待しております。
- ・前の週の講座の内容をその都度説明があり、複雑な源氏も楽しく学べました。ありがとうございました。

[秋期：A3 明日からできる健康意識改革－健康寿命を延伸しよう－]

- ・いろいろな資料を見ながら栄養や健康意識について考えることができた。また、幼児期の好き嫌いについても学ぶことができて良かった。
- ・復習できて学び直しの授業でした。
- ・はじめてこういう講座を受けました。関心を以て臨んだので、新鮮さがありました。

[秋期：A4 これならわかる！最新・介護保険制度～「人生100年時代」を生きるために～]

- ・データや数字を具体的に提示していただき、興味深く、より理解ができました。ありがとうございました。

- ・親が介護が必要な時期になっているので、大変参考になりました。説明もわかりやすかったです。
- ・家族に認定を受けている者がおり、仕事で医療、介護保険分野のことを扱っているので大変参考になりました。

[秋期：A5 睡眠中の夢と心の健康]

- ・とても面白く、もっと聞きたいと思いました。実生活にも役立つし、人間の不思議さに興味を持ち、もっと知りたくなり勉強意欲もわいた。来て良かったと思いました。ありがとうございました。
- ・薬を使わずにという方法に感動しました。とてもわかりやすく楽しく聴かせていただきました。ありがとうございます。
- ・悪夢を専門に研究されている先生のお話しで、夢というテーマの奥深さを感じました。とても興味深いテーマで、とてもためになりました。

[秋期：A6 「幕末維新の古文書」を読む 日米和親条約～日米修好通商条約]

- ・幕末維新期の背景がわかり、大変勉強になりました。ありがとうございました！
- ・古文書の読み方だけでなく、歴史的背景など詳しくかつ面白く解説していただきとても興味深く拝聴しました。
- ・古文書を読むことで歴史をすることができました。

[秋期：A7 大乘仏教はどのように起こったのかーその成立と展開ー]

- ・資料も大変素晴らしいものを作成して頂き、感謝しております。短い時間の中で大変要領よく説明していただいたと思っております。
- ・盛りだくさんな内容を分かりやすく説明していただき、ありがとうございました。
- ・今回初めての Web での講座で、不慣れながらも受講できて良かったです。
難しいところ(私の理解度の問題かと思いますが)もありましたが、大乘仏教の成立と展開について知ることができ、意義深い時間を過ごすことができました。
今回の学びが更に深まるような講座があればまた受講したいです。
コロナ禍の大変な時期に開講くださり、ありがとうございました。

[秋期：A8 おひとりさまの「終活」]

- ・一日のばしにして来た終活について、真剣に考えなくてはならないと、身にしみて感じました。準備を一日も早くして行こうと考えました。
- ・社会の現状、将来のほか、実務上の問題点等もご説明いただき、大変勉強になりました。具体的な事例(特に苦勞された)をご紹介いただき、参考になりました。
- ・具体的なエピソードを加えて講義いただき、とても興味深くききました。ありがとうございました。

[秋期：A9 仏教思想を考えるーその哲学・宗教・倫理]

- ・今まで断片的に仏教を学んで来たが、今回の講義で一連の仏教のつながりがよく理解出来た。有難うございました。
- ・仏教思想の基本を短時間で、コンパクトに学べて大変満足している。
- ・仏教思想として多面的な整理をしていただき、わかりやすかったです。

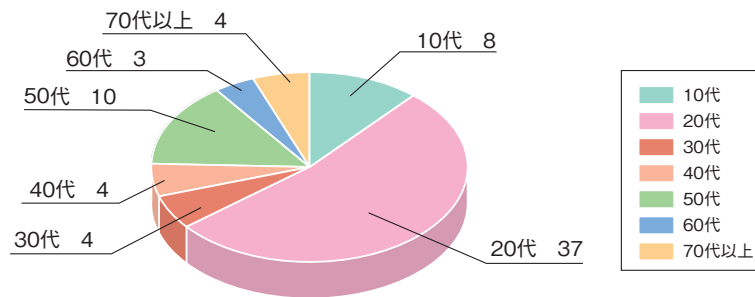
2020 年度 B 講座アンケート結果

申込総数：88名

回収枚数：70枚

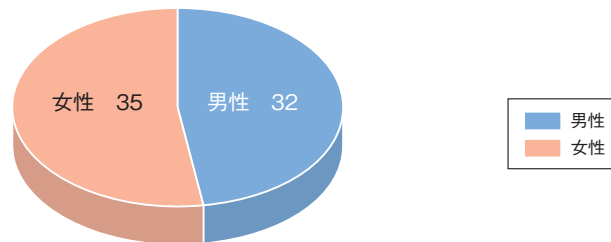
【年齢】

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
8	37	4	4	10	3	4



【性別】 無回答：3名

男性	女性
32	35

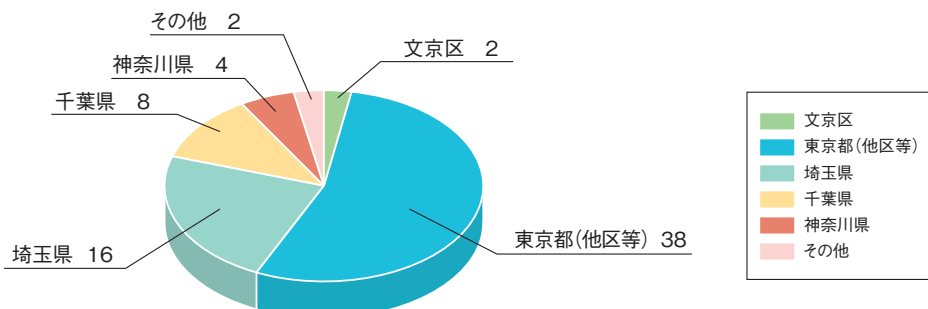


【住所】

文京区	東京都(他区等)	埼玉県	千葉県	神奈川県	その他
2	38	16	8	4	2

《参考》

「その他」内訳…沖縄県：1名、栃木県：1名

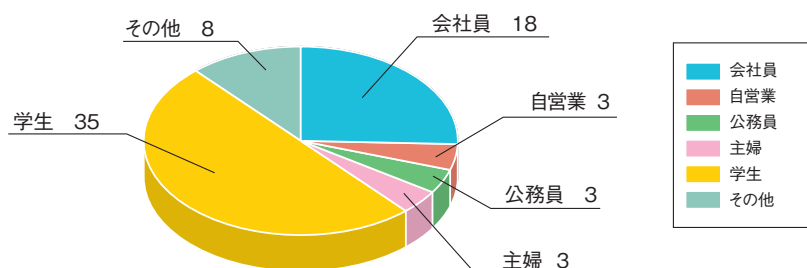


【職業】

会社員	自営業	公務員	主婦	学生	その他
18	3	3	3	35	8

＜参考＞

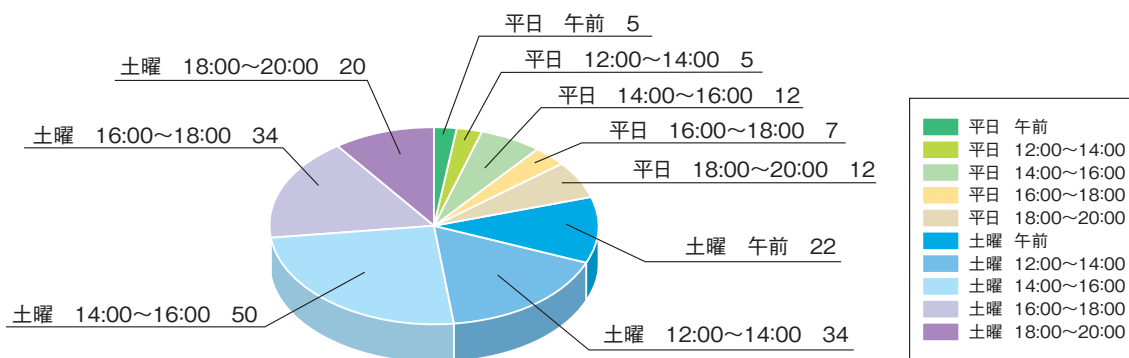
「その他」内訳… 団体職員：1名、取締役：1名、パート：3名、無職：2名、無回答：1名



【公開講座に参加しやすい日時】 ※複数回答あり

平日				
午前	12:00~14:00	14:00~16:00	16:00~18:00	18:00~20:00
5	5	12	7	12

土曜				
午前	12:00~14:00	14:00~16:00	16:00~18:00	18:00~20:00
22	34	50	34	20



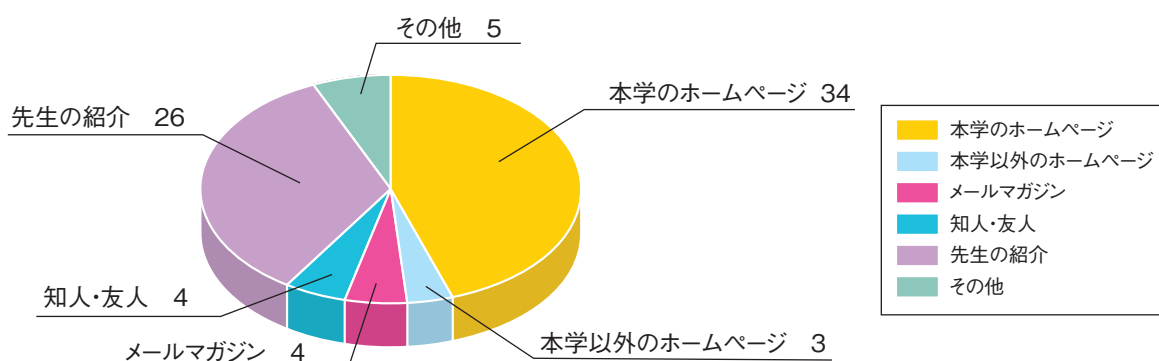
【この講演会を知った方法】※複数回答あり

本学のホームページ	本学以外のホームページ	メールマガジン	知人・友人	先生の紹介	その他
34	3	4	4	26	5

＜参考＞

「先生の紹介」内訳… 安藤先生：20名、小澤先生：2名、須田先生：2名、加藤先生：1名
上田先生：1名

「その他」内訳…………… 講師：1名、ToyoNet-G：1名、親：1名、チラシ：1名
ニュースサイト：1名



【講座の感想等】

[秋期：B1 アイドル・ビジネスの現状と将来像]

- ・この講座に参加することによって、あまり聞きなじみのないことを知り、様々な角度からアイドル・ビジネスに触れることができました。とても楽しかったので、是非次回も開催してほしいと思いました。
- ・普段では絶対に聞くことができない、アイドル・ビジネスの裏側についてのお話を多く聞くことができ、勉強になりました。
- ・普段なら聞くことができないお話ばかりで、とても興味深い内容ばかりでした。今回の話を聞くと、音楽の見方が少し変わりました。丸谷さんの作曲のお話がとても印象に残りました。アイドルが好きなので、5時間すごく楽しい時間を過ごせました。

[春期：B2 福祉社会システム専攻シリーズー大人のひきこもりと老親(8050)問題を考える ～元中学校教員として若者を支援する現場から～]

- ・普段意識していない社会的な問題を意識することができました。仕事がメイクやラピーをしていて健常者が社会で一般に働いている方でも心に問題を抱えている「潜在的なひきこもり」の人たちは多くいると感じます。私ができることで子供達、大人も希望がもてる世界を作りたい。ありがとうございました。

- ・とてもわかりやすく、考えさせられるお話でした。ありがとうございました。
- ・引きこもりの現状、社会の問題、先生のお考えと非常に分かりやすく学びました。自分の考えに自信を持ち、あらたな価値観・考え方も知ることができました。ありがとうございました。

[秋期：B3 ドイツ語圏の日常]

- ・「日常と世界観」が全三回の講義の纏めのように、印象深かった。
- ・このテーマの受講を選択したのは、日中韓の間における同様の比較に興味があった故である。大変学ぶところが多かった。
- ・今もあるドイツに対する好印象や尊敬の念は、明治期の文明開化のときドイツを評価し、森鷗外など優秀な留学生を送ったことに始まる。
- ・文明とは別種の文化の移入は社会全体としては拒んだように思う。だから今でも文化的な相違は色濃い。
- ・現在、先ずドイツから学びたいものの一つは、メルケル首相のような「説明する政治トップリーダー」である。日本では、お神輿に乗るトップとは説明しない、指示しない者が長らくの常識であった。

[秋期：B4 キリスト教美術の醍醐味 ー儀礼・聖画・イコン・聖歌ー]

- ・正教会については、日本では触れる機会が少ないので、大変勉強になった。音楽理論とキリスト教の関係の活と新鮮だった。
- ・毎回先生が変わる講座に、初めて申し込みました。良かったです。
- ・ロシア正教会の歴史と様相について、初めて知ることができ感謝です。折田先生の話から宇宙と音楽の不思議な関係を知らされました。

過去5年間の受講者数

エクステンション講座／2016年～2020年

※中止講座は未掲載

年度	期	形式	テーマ(一部省略有)	主な講師	講師 人数	回数	総時間 (分)	申込者数						
								一般			学生			申込 合計
								対面	Web	計	対面	Web	計	
2016	春	対面	『源氏物語』全巻を読む-「御法」 「幻」-	河地 修	1	8	960分	36		36	4		4	40名
			百人一首を味わう-名歌へのい ざない-	菊地 義裕	1	6	540分	24		24	3		3	27名
			コーチング講座(ベーシック)	室松 慶子	1	4	360分	22		22	6		6	28名
			日本の国際化と多文化共生-増 加する外国籍民といかに共生し ていくのか-	井沢 泰樹	1	4	360分	11		11	3		3	14名
			東洋思想文化への誘い-東洋思 想と民衆文化-	山田 利明 他	4	4	450分	33		33	1		1	34名
			音楽ビジネスの現状と課題	安藤 和宏 他	4	5	450分	39		39	24		24	63名
			ヨガ療法の理論と実践を学ば う!	加藤千恵子 他	4	5	450分	11		11	2		2	13名
			坂口安吾と現代	山崎 甲一 他	6	6	540分	11		11	2		2	13名
			「社会に生きる」をガクモンす る	紀 葉子 他	7	5	450分	16		16	-		-	16名
			「海の京都」をめぐる歴史と観 光(舞鶴市(京都府)協力、支援 事業)	須賀 忠芳 他	5	5	450分	12		12	3		3	15名
2016	秋	対面	書道実技講座 古典に学ぶ-北 宋時代の行書-	蓮見 行廣	1	5	675分	13		13	1		1	14名
			日本の美をめぐる-江戸時代絵 画と都市文化の華やき-	藤澤 紫	1	2	180分	41		41	7		7	48名
			個人のライフサイクルを通じた 税金との関わり	依田 俊伸	1	5	450分	7		7	2		2	9名
			『源氏物語』全巻を読む-「匂兵 部卿」「紅梅」「竹河」、流れゆ く時とともに-	河地 修	1	8	960分	33		33	3		3	36名
			百人一首を味わう-名歌へのい ざない-	菊地 義裕	1	6	540分	29		29	3		3	32名
			クラシックバレエ鑑賞入門-20 世紀の古典バレエを味わう-	海野 敏	1	3	270分	28		28	2		2	30名
			「終活」講座 自分らしい最期を デザインする-基礎編-	井上 治代	1	2	180分	22		22	1		1	23名
			音楽著作権ビジネスの基礎知識	安藤 和宏	1	4	360分	42		42	6		6	48名
			幸福度と長寿の都道府県格差ラ ンキングを考える-生活環境や 暮らし、健康との関係-	鈴木 孝弘	1	2	180分	18		18	-		-	18名
			古典に描かれた男女両主人公像 -王朝文学と江戸文学を中心に-	河地 修 他	2	5	450分	14		14	5		5	19名
			東京2020を考える -東洋大学とオリンピック・パ ラリンピック-	谷釜 尋徳 他	2	3	270分	6		6	-		-	6名
			ドイツ的なものと日本的なもの -よりよい異文化理解のために-	斎藤 佑史 他	4	4	360分	16		16	-		-	16名
心理学とスポーツ/文学/アート との融合を学ぼう!	加藤千恵子 他	4	5	450分	6		6	-		-	6名			

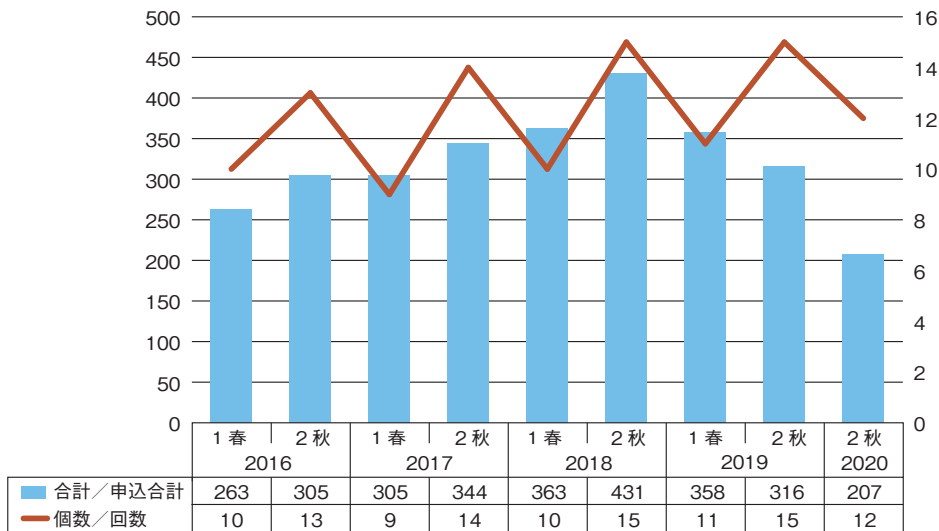
年度	期	形式	テーマ(一部省略有)	主な講師	講師 人数	回数	総時間 (分)	申込者数						申込 合計
								一般			学生			
								対面	Web	一般	対面	Web	計	
2017	春	対面	百人一首を味わう－名歌へのいざない－	菊地 義裕	1	6	540分	28		28	3		3	31名
			『源氏物語』全巻を読む－「橋姫」巻、〈宇治十帖〉への招待－	河地 修	1	8	960分	32		32	4		4	36名
			介護する覚悟、介護される覚悟	八木 裕子	1	2	180分	27		27	－		－	27名
			Google Earthで遺跡をさがす－シルクロード探検隊の報告と現状－	西村 陽子	1	2	180分	25		25	－		－	25名
			交渉学入門	清水 宏	1	2	180分	24		24	12		12	36名
			日本の食環境を考える	大熊 廣一	1	2	180分	15		15	－		－	15名
			坂口安吾と現代	山崎 甲一 他	5	5	450分	10		10	2		2	12名
			映像と音楽の融合－CM音楽、映画音楽、ゲーム音楽の制作現場－	安藤 和宏 他	4	5	450分	49		49	35		35	84名
			旧海軍鎮守府のまちと日本遺産	吉岡 博之 他	4	3	270分	39		39	－		－	39名
	秋	対面	百人一首を味わう－名歌へのいざない－	菊地 義裕	1	6	540分	29		29	5		5	34名
			『源氏物語』全巻を読む－「椎本」巻、八の宮の死、姫君たちの運命は？－	河地 修	1	8	960分	31		31	3		3	34名
			コーチング講座(ベーシック)	室松 慶子	1	4	360分	11		11	3		3	14名
			クラシックバレエ鑑賞入門－『くるみ割り人形』再考－	海野 敏	1	3	270分	19		19	－		－	19名
			音楽著作権ビジネス講座－契約書編－	安藤 和宏	1	4	360分	54		54	16		16	70名
			「終活」講座－子の世話にならずに逝きたい！－	井上 治代	1	2	180分	30		30	1		1	31名
			毎日の健康と長寿の決定要因は？	鈴木 孝弘	1	1	120分	24		24	2		2	26名
			「モード都市」バリができるまで	角田 奈歩	1	1	120分	6		6	3		3	9名
			敦煌文献から見る中国人の死後世界について－『十王経』写本を見てみよう－	川崎ミチコ	1	2	180分	6		6	2		2	8名
			介護殺人の思想－現代の知的状況・介護の歴史・介護の諸問題とその行方－	中里 巧 他	2	5	600分	6		6	2		2	8名
写本・板本に親しむ－王朝の古典から江戸の戯作まで－	河地 修 他	2	5	450分	9		9	2		2	11名			
グローバル化する難民問題－イスラーム教徒の視点から考える－	子島 進 他	3	3	270分	4		4	4		4	8名			
都市と街道を行く－ドイツとスイスをめぐる－	山室 信高 他	4	3	360分	13		13	1		1	14名			
森鷗外と慶応3年生まれの文化人－文京区立森鷗外記念館連携講座－	石田 仁志 他	5	5	450分	58		58	－		－	58名			
2018	春	対面	百人一首を味わう－名歌へのいざない－	菊地 義裕	1	6	540分	37		37	5		5	42名
			2020東京オリンピック後の建設経営について	鈴木 信行	1	2	180分	11		11	3		3	14名

年度	期	形式	テーマ(一部省略有)	主な講師	講師 人数	回数	総時間 (分)	申込者数						申込 合計
								一般			学生			
								対面	Web	一般	対面	Web	計	
2018	春	対面	定子後宮と女房たち -『枕草子』の世界を読む-	山中 悠希	1	1	120分	39		39	2		2	41名
			『源氏物語』全巻を読む -「総角」巻(上)、薫と大君-	河地 修	1	8	960分	29		29	1		1	30名
			交渉学入門(実践編)	清水 宏	1	2	180分	11		11	-		-	11名
			健康維持における免疫の大切さ -免疫力を維持するコツ-	加藤 和則	1	1	90分	64		64	3		3	67名
			介護保険制度の賢い使い方 -福祉社会システム専攻シリー ズⅢ-	須田木綿子 他	2	1	90分	54		54	1		1	55名
			坂口安吾と現代	山崎 甲一 他	5	5	450分	11		11	6		6	17名
			ライブビジネスの現状と課題	安藤 和宏 他	4	5	450分	42		42	37		37	79名
			海の京都 DMO から見る新たな 観光	須賀 忠芳 他	3	1	90分	6		6	1		1	7名
	秋	対面	人生100歳時代をどう生き抜く -まだまだ成れるなりたい自分-	幸田 浩文	1	1	90分	32		32	1		1	33名
			『源氏物語』全巻を読む-「総角」 巻(中)、匂宮と中の君、そして 大君の死-	河地 修	1	8	960分	24		24	2		2	26名
			万葉集講座-万葉の歌・生活・ 文化-	菊地 義裕	1	6	540分	43		43	5		5	48名
			クラシックバレエ鑑賞入門 -バレエとコンテンポラリーダ ンス-	海野 敏	1	2	180分	26		26	-		-	26名
			トクホ、機能性表示食品、健康 食品の違いと使い分け	加藤 和則	1	1	90分	27		27	1		1	28名
			江戸無血開城の真実を語る	岩下 哲典	1	3	270分	54		54	-		-	54名
			音楽著作権ビジネスの基礎知識	安藤 和宏	1	4	360分	34		34	18		18	52名
			認知症をめぐる最近の話題	白石 弘巳	1	1	120分	41		41	1		1	42名
			激変する朝鮮半島情勢の展望	藤本 典嗣 他	3	3	270分	8		8	3		3	11名
			75歳からの健康術-福祉社会シ ステム専攻シリーズⅢ-	藤林 慶子 他	2	1	90分	19		19	-		-	19名
			メディアと社会にむしばまれる 子どもや若者-電子メディアの 脅威と学校の再生-	中里 巧 他	2	5	600分	8		8	-		-	8名
			古典文学と旅 -奈良・平安朝・江戸-	河地 修 他	2	5	450分	20		20	3		3	23名
人生のセカンドステージと大学 院進学-退職後25年間の計は勉 学にあり-福祉社会システム専 攻シリーズⅢ-	村尾祐美子 他	2	1	90分	13		13	-		-	13名			
都市と街道を行く-ドイツとそ の周辺をめぐる-	山室 信高 他	4	5	360分	11		11	-		-	11名			
森鷗外と歩む近代・東京150年 -文京区立森鷗外記念館連携講 座-	石田 仁志 他	4	6	360分	32		32	5		5	37名			
2019	春	対面	詩を楽しむ	近藤 裕子	1	2	90分	13		13	3		3	16名
			『源氏物語』全巻を読む-「総 角」・「早蕨」・「宿木」-	河地 修	1	8	960分	24		24	1		1	25名
			万葉集講座-万葉の歌・生活・ 文化-	菊地 義裕	1	6	540分	53		53	5		5	58名

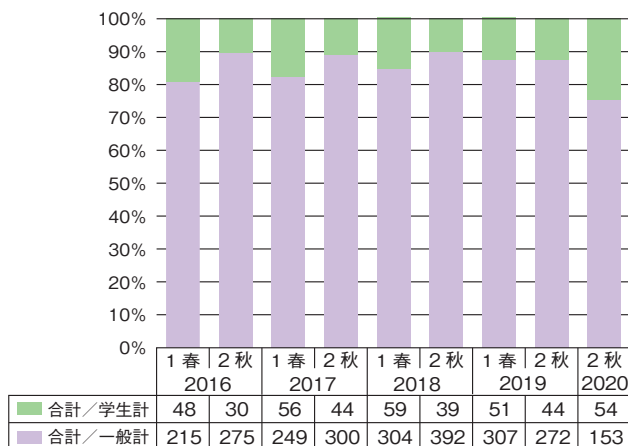
年度	期	形式	テーマ(一部省略有)	主な講師	講師人数	回数	総時間(分)	申込者数						申込合計
								一般			学生			
								対面	Web	一般	対面	Web	計	
2019	春	対面	般若心経の世界	渡辺 章悟	1	3	270分	38		38	3		3	41名
			「幕末維新の古文書」を読む	岩下 哲典	1	3	270分	32		32	1		1	33名
			思いやりを科学する	浅間 正道	1	1	120分	46		46	2		2	48名
			論語から社会人力を考える	吉田 善一	1	2	180分	14		14	-		-	14名
			世界中の中のオリンピック	高島 純夫 他	3	3	270分	6		6	-		-	6名
			(福祉社会システム専攻シリーズⅣ) 環境問題・エコライフ・持続可能社会	松本 誠一 他	2	3	90分	10		10	-		-	10名
			アーティストをサポートをするプロフェッショナルたち	安藤 和宏 他	4	5	450分	22		22	34		34	56名
			明智光秀の時代と丹後地方～NHK大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にして～	神村 和輝 他	3	3	270分	49		49	2		2	51名
	秋	対面	一向一揆と民衆	神田 千里	1	1	90分	27		27	1		1	28名
			東南アジア美術の旅－インドネシア、ジャワ島・バリ島の宗教美術を中心に－	山口しのぶ	1	4	360分	8		8	1		1	9名
			万葉集講座－万葉の歌・生活・文化－	菊地 義裕	1	6	540分	41		41	3		3	44名
			高齢社会における医療制度の現状を生活者の視点から理解する	堀田 真理	1	1	90分	18		18	-		-	18名
			『源氏物語』全巻を読む－「宿木」－～二条院の中の君、匂宮の婚儀と薫の未練に苦悩する～	河地 修	1	8	960分	23		23	2		2	25名
			思いやりを科学するⅡ	浅間 正道	1	1	120分	29		29	2		2	31名
			生と死の哲学－S.キルケゴールの実存思想の系譜と展望－	中里 巧 他	2	5	600分	11		11	1		1	12名
			(福祉社会システム専攻シリーズⅤ) これからの時代のキャリア・デザイン	榊原 圭子 他	3	1	90分	4		4	14		14	18名
			ビジネスリーダーを目指す女性のための「最新・観光学講座」	森下 晶美 他	5	5	450分	16		16	3		3	19名
			復興を生きる－東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦	三浦 友幸 他	6	4	240分	5		5	14		14	19名
			児童文学者・石井桃子の生涯と作品	竹内 美紀 他	2	3	270分	17		17	1		1	18名
			ドイツ語圏の祝祭と文化	山室 信高 他	4	4	360分	8		8	-		-	8名
日本文学文化における「都鄙」	河地 修 他	2	3	270分	15		15	1		1	16名			
書道実技講座	蓮見 行廣	1	5	600分	14		14	1		1	15名			
荷風と鷗外－文京区立森鷗外記念館連携講座－	石田 仁志 他	5	5	450分	36		36	-		-	36名			
2020	春	中止	新型コロナウイルスの影響により中止											
	秋	対面	『源氏物語』全巻を読む－「宿木」－浮舟の登場～	河地 修	1	8	960分	13	-	13	3	-	3	16名
		Web	明日からできる健康意識改革－健康寿命を延伸しよう－	大瀬良知子	1	1	90分	-	5	5	-	3	3	8名
秋	対面	これならわかる！最新・介護保険制度～「人生100年時代」を生きるために～	高野 龍昭	1	1	90分	8	-	8	2	-	2	10名	

年度	期	形式	テーマ(一部省略有)	主な講師	講師人数	回数	総時間(分)	申込者数						申込合計
								一般			学生			
								対面	Web	一般	対面	Web	計	
2020	秋	対面	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	1	2	180分	15	-	15	2	-	2	17名
		Web	「幕末維新の古文書」を読む 日米和親条約～日米修好通商条約	岩下 哲典	1	3	270分	-	8	8	-	1	1	9名
		Web	大乘仏教はどのように起こったのか-その成立と展開-	渡辺 章悟	1	3	270分	-	19	19	-	-	-	19名
		対面	おひとりさまの「終活」	井上 治代	1	1	120分	22	-	22	-	-	-	22名
		対面	仏教思想を考える-その哲学・宗教・倫理	竹村 牧男	1	3	270分	20	-	20	-	-	-	20名
		対面	アイドル・ビジネスの現状と将来像	安藤 和宏 他	4	3	270分	24	-	24	34	-	34	58名
		対面	福祉社会システム専攻シリーズ／大人のひきこもりと老親(8050)問題を考える	綿貫 公平	1	1	90分	2	-	2	9	-	9	11名
		対面	ドイツ語圏の日常	田中 雅敏 他	3	3	270分	7	-	7	-	-	-	7名
		対面	キリスト教芸術の醍醐味-儀礼・聖画・イコン・聖歌-	中里 巧 他	3	3	360分	10	-	10	-	-	-	10名

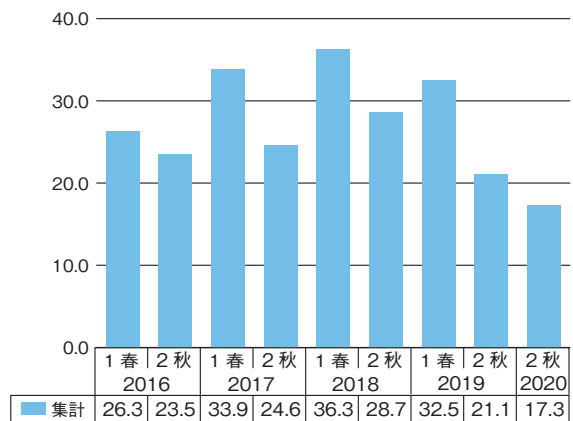
申込者数／開講数(エクステンション講座)



申込者内訳(エクステンション講座)



平均申込者数(各期申込者数／各期講座数)



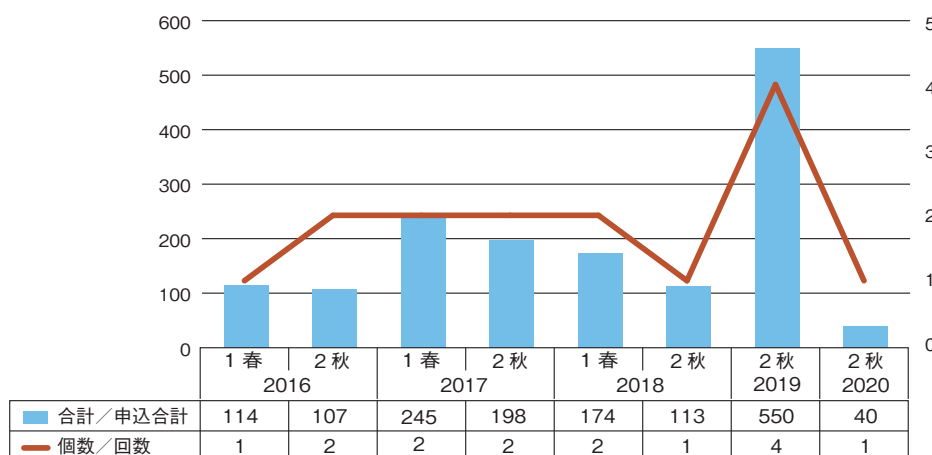
オープン講座／2016年～2020年

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。
 ※白山以外は、一般に学生を含める。 ※中止講座は未掲載

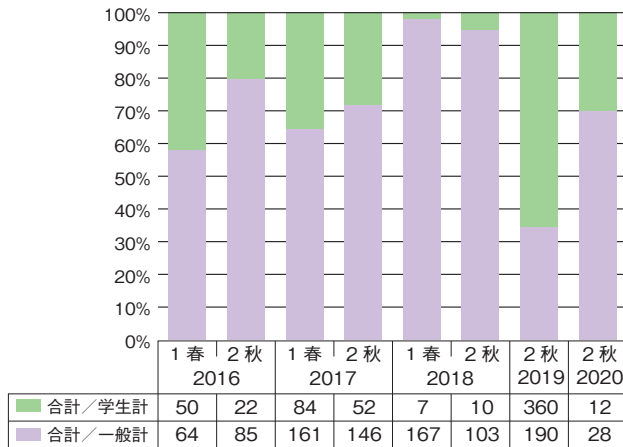
年度	期	形式	会場	テーマ(一部省略有)	主な講師 公演者等	講師等人数 (団体数)	回数	総時間 (分)	申込者数						
									一般			学生			申込 合計
									対面	Web	計	対面	Web	計	
2016	春	対面	白山	学校教育における合理的配慮の提供について一障害を理由とする差別の解消の推進に向けてー	宮崎 英憲 他	5	5	450分	64		64	50		50	114名
			朝霞	2020年の東京大会開催に向けてーオリンピック・パラリンピックムーブメントー	金子 元彦 他	2	1	90分	52		52	-		-	52名
			川越	これからの電力供給システムの姿	福井 伸太	1	1	90分	58		58	-		-	58名
			板倉	“滅び”の視点から読む『源氏物語』-「紫の上の生涯」を考えるー	河地 修	1	1	120分	91		91	-		-	91名
	秋	対面	白山	シリア・南スーダン・ロヒンギャ、そして日本ーグローバル化する難民問題を考えるー	NPO 法人 ワールド・ ビジョン・ ジャパン 他	3	5	450分	61		61	19		19	80名
			白山	〈社会貢献(NPO/NGO、企業の社会貢献等)〉という視点を通して、社会との関係を考える	文化シヤッター(株) 他	5	5	450分	24		24	3		3	27名
			朝霞	子ども・若者の自己肯定感を育む関わり方	内田 塔子	1	1	90分	58		58	-		-	58名
			川越	都市の環境を考える	村野 昭人 他	5	5	600分	49		49	-		-	49名
			板倉	シニア世代の健康体力づくり講座	佐藤 征夫	1	2	240分	52		52	-		-	52名
	2017	春	対面	白山	「子どもの貧困」はなぜなくなるのかー当事者と考えるー	猪狩 氷青 他	3	2	180分	124		124	67		67
白山				「NPO/NGO、CRS」という視点を通して考える社会貢献のあり方	林 大介	1	3	360分	37		37	17		17	54名
朝霞				電線・電柱は、何故、埋めたくなるのかー電線配電作法ー	内田 祥士	1	1	90分	80		80	-		-	80名
川越				住宅過剰社会の行方ー人口減少・空き家急増でもつくり続ける日本ー	野澤 千絵	1	1	90分	58		58	-		-	58名
板倉				『源氏物語』を読む子を思う親の愛情～人の親の心は闇にあらねども～	河地 修	1	1	90分	100		100	-		-	100名
秋		対面	白山	アクティブな地球人になる	小池アニー タ 他	3	3	270分	65		65	12		12	77名
			白山	子どもの貧困の解決策を支援者と探る	西野 博之 他	3	1	90分	81		81	40		40	121名
			朝霞	援助場面から学ぶコミュニケーション技法	稲沢 公一	1	1	90分	84		84	-		-	84名
			板倉	シニア世代の健康体力づくり講座	佐藤 征夫	1	2	240分	17		17	-		-	17名
2018		春	対面	白山	介護する覚悟ー映画「ケアン～あなたでよかった～」から考える仕事と親の介護の両立のためにー	八木 裕子	1	3	180分	153		153	5		5
	秋	対面	白山	小学校外国語活動指導のためのポイント講座	伊藤 摂子	1	1	120分	14		14	2		2	16名

年度	期	形式	会場	テーマ(一部省略有)	主な講師 公演者等	講師等人数 (団体数)	回数	総時間 (分)	申込者数						
									一般			学生			申込 合計
									対面	Web	計	対面	Web	計	
2018	春	対面	朝霞	活性酸素から考える健康のための運動と栄養	古川 覚	1	1	90分	120		120	-	-	120名	
			川越	雷-安心、安全な生活のために雷を理解しよう-	加藤 正平	1	1	90分	104		104	-	-	104名	
			板倉	鴨長明と『方丈記』-今、鴨長明の生き方に学ぶ-	河地 修	1	1	120分	114		114	-	-	114名	
	秋	対面	白山	働き方改革の現状と課題-なぜ働き方を変えなければならないのか-	久米 功一	1	1	90分	103		103	10	10	113名	
			朝霞	分かっていますか?「怒ると」「叱る」の違い	鈴木 崇之	1	1	90分	100		100	-	-	100名	
			板倉	シニア世代の健康体づくり講座	佐藤 征夫	1	1	120分	32		32	-	-	32名	
2019	春	対面	川越	アイデア創出の仕組み-アタマを活性化するテクニック-	柏樹 良	1	1	90分	64		64	-	-	64名	
			朝霞	コミュニティデザインとまちづくり-みんなの思いをカタチに-	二宮 仁志	1	1	90分	81		81	-	-	81名	
			板倉	読み継ごう、日本の名作古典『源氏物語』の名場面を原文で読み、楽しむ-「若紫」巻-	河地 修	1	1	120分	70		70	-	-	70名	
	秋	対面	白山	~国連子どもの権利条約採択30周年~世界中の子どもたちの人権が守られるために	大谷美紀子	1	1	90分	97		97	342	342	439名	
			白山	企業が取り組む社会貢献・CSR~具体的事例編	宮本 育昌 他	6	3	270分	15		15	5	5	20名	
			白山	企業が取り組む社会貢献・CSR~社会的トレンド編	伊藤 佐和 他	3	3	270分	22		22	8	8	30名	
			白山	私たちが暮らす町はどう変わる?~グローバル化時代の地域づくりと財政	沼尾 波子	1	1	90分	56		56	5	5	61名	
			板倉	シニア世代の健康体づくり講座	佐藤 征夫	1	1	120分	32		32	-	-	32名	
	2020	春	中止	全	新型コロナウイルスの影響により中止										
		秋	対面	白山	ウイルス排除に必要な免疫力とは	加藤 和則	1	1	90分	28	-	28	12	-	12

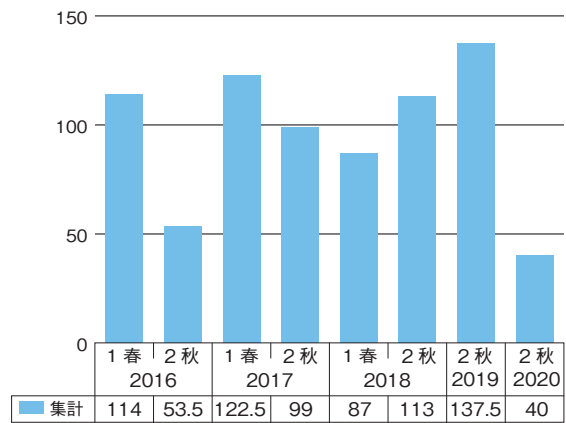
申込者数／開講数(白山オープン講座)



申込者内訳(白山オープン講座)



平均申込者数(白山オープン/授業振替含む)



文化講演/2016年~2020年

年度	期	形式	会場	テーマ	主な講師 出演者等	講師等人数 (団体数)	回数	総時間 (分)	申込者数						
									一般			学生			申込 合計
								対面	Web	計	対面	Web	計		
2016	春	対面	白山	日本の話芸-落語	林家 時蔵他	5	1	120	577		577	17		17	594名
2017				絵解きの世界 -物語と絵と語りの出会い-	小林 玲子他	4	1	120	427		427	31		31	458名
2018				津村禮次郎・能の新たな挑 戦-古典芸能と現代-	津村禮次郎他	3	1	120	469		469	30		30	499名
2019				アンサンブル・トランスア トランティコ・デ・フォーク クチレーノ演奏会	アンサンブル・トランス アトランティコ・デ・フォーク クチレーノ	1	1	90	135		135	135		135	270名
2020				秋	落語-日本の話芸	林家 時蔵他	5	1	120	68		68	12		12

文京アカデミア講座/2016年~2020年

年度	期	形式	会場	テーマ	講師	回数	総時間(分)	申込者数
2016	前	対面	白山	日本列島文学文化風土の旅	竹内 清己	5	450	55名
	後			日本列島文学文化風土の旅	竹内 清己	5	450	76名
	後II			外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	伊藤 摂子	8	560	20名
2017	前	対面	白山	日本人と妖怪 -井上円了などにみる、金・現代の心の変容-	三浦 節夫	3	270	38名
	後			外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	伊藤 摂子	8	720	20名
2018	前	対面	白山	暦・干支に見る中国文化 -"孟春""仲秋"とは何ですか-	川崎 ミチ子	3	270	73名
	後			外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	伊藤 摂子	8	720	20名
2019	前	対面	白山	江戸、城と町の歴史	大野 瑞男	3	270	115名
	後			異文化としてのドイツ	田中 雅敏	5	450	55名
2020	新型コロナウイルスの影響により中止							



エクステンション講座 A

仏教思想を考える－その哲学・宗教・倫理

日 時：2020年10月3日(土)・11月21日(土)・12月5日(土)
10：40～12：10(90分)

講 師：竹村 牧男(前東洋大学学長)

受講者数：20名

[受講者の感想]

- ・ 仏教思想として多面的な整理をしていただき、わかりやすかったです。
- ・ 大学時代、仏教・インド思想を学んだとは言え、その哲学・宗教・倫理的な面からひかりを当てて考えてみるという事は自身の努力不足、力量の無さ等から出来なかったもので、今回の様なテーマの講座はとても有意義なものでした。
- ・ 仏教思想の基本を短時間で、コンパクトに学べて大変満足している。
- ・ 今まで断片的に仏教を学んで来たが、今回の講義で一連の仏教のつながりがよく理解出来た。有難うございました。

[講演会の様子]





エクステンション講座B

アイドル・ビジネスの現状と将来像

日 時：2020年11月21日(土) 13:00～18:00 (300分)
講 師：安藤 和宏(法学部教授)
加藤 邦明(株式会社オフィス・トゥー・ワン/元 株式会社
AKS ライセンス開発部 部長)
原 一博(株式会社ゼスト制作事業本部ライツグループ)
丸谷 マナブ(作詞・作曲家/音楽プロデューサー)
受講者数：50名

[受講者の感想]

- ・ 同じ音楽業界の中でも、異なる立場の方々のお話が一度に聞けて、とても有意義でした。
- ・ 著作権やプロモーションなど様々な角度から学ぶことができ良かったです。
- ・ 各ジャンルに精通した先生にお越し頂き裏話を聞くことができ大変貴重な時間となりました。最後の座談会では先生同士のプロフェッショナルな姿・考え方を強く感じとることができました。
- ・ 音楽業界やアイドル・ビジネスの構造がとても分かりやすかった。コロナ禍で、本当に音楽業界は大変な局面であるが、音楽は人間の生活に欠かせないものにまでなっていることから、何とか立て直したいと感じた。

[講演会の様子]





白山オープン講座

ウイルス排除に必要な免疫力とは

日 時：2020年12月19日(土) 13:30～15:00 (90分)

講 師：加藤 和則(理工学部教授)

受講者数：28名

[受講者の感想]

- ・ パワーポイントがとてもわかりやすく、お話も具体的でわかりやすい講義でした。免疫力が三段階で体を守っていることがよくわかりました。マクロファージとか、キラー T 細胞とかの専門的な知識をもう少し深めたいなと思いました。ありがとうございました。日常生活の大切さを学びました。
- ・ 自分がこれからの時代でいつまで健康に生きていくために日常の生活の中で特に気を付けるべき事や、心がけたいことをよく理解できた。また、さまざまな細胞の持つ働きや特徴についても知ることができて良かった。とてもためになる講座だった。ありがとうございました。
- ・ 健康を維持するための方法を考えることができました。
- ・ 日常生活の中で、免疫力高める素材が沢山あることが解かり、実践していきたいと思います。生活に潤いをとということですね。

[講演会の様子]



資格講座

2020年度資格講座（春期）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、以下の全講座中止

開講地	講座名	講師
白山	FP 技能検定 3 級対策講座（※）	TAC 専任講師
	宅地建物取引士講座	LEC 専任講師
	MOS Excel 2019 講座	
	秘書検定 2 級対策講座	

※ 26 名（学生）の申込があったが、急遽 TAC の WEB 通信講座を斡旋し、受講者 16 名が受講した。

2020年度資格講座（秋期）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため全講座中止（募集せず）

講師派遣

2020年度「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告

1. 講師派遣要項

(1) 今年度は3つのプログラムを提供した。

①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』)
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および学校のPTA等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣。 ・高等学校の授業(『総合的な学習の時間』等)・講演に依頼があった場合、講師を派遣。対象は高等学校の生徒。
②研修支援プログラム(以下『研修』)
<ul style="list-style-type: none"> ・企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣。
③SDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラム(以下『SDGs』)
<ul style="list-style-type: none"> ・全国の小・中・高等学校、特別支援学校におけるSDGs目標達成のための教育を推進するため、本学教員を派遣。

【派遣期間等】

派遣期間	2020年9月1日(火)～12月18日(金)※
申込期間	2020年4月1日(水)～10月19日(月)
申込締切	開催希望日の2ヶ月前迄とし、原則として、①は年間1団体につき1回派遣。但し、9月および10月開催分は、7月10日(金)締切。
派遣予定件数	1,140件
派遣上限	本学専任教員並びに本学名誉教授で、1教員の派遣数は原則3回まで

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スタートを5月から9月に変更した。

2. 実施経過(概略)

- (1) 2019年10月18日：専任教員全員と元教員に対して、当事業への協力要請
- (2) 2019年11月30日：テーマ募集提出締切
- (3) 2020年1月～3月：テーマ集約・分類・HPアップ準備(事務局作業)
- (4) 2020年4月1日：ホームページ等にて受付開始
- (5) パンフレット送付件数

1	教育委員会	1,805
2	前年度派遣実績のない都道府県	17
3	大学施設関連地域の団体	3
4	過去数年間に派遣した団体(1～3を除く)	553
5	過去2年間の「研修」実施団体	19
6	維持会	98
7	就職懇親会参加企業	164
計		2,659

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：専任職員181名(全専任教員の約25%) 元教員 31名

種別	生涯	研修	SDGs	合計
募集時 テーマ数	229	28	67	609
	285 (共通テーマ)			
実施件数	22	2	7	31
受講者計	661	62	498	1,221
受講者 数	平均	300	31	71
	最大	100	32	138
	最小	10	30	16

(1) 地域別派遣実施件数

地 域	生涯				研修				SDGs				オリ・パラ				計			
	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%
北海道	2	9%	5	6%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	2	6%	5	5%
東 北	2	9%	10	12%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	2	6%	10	11%
関 東	11	50%	41	50%	2	100%	2	100%	7	100%	-	-%	-	-%	10	91%	20	65%	53	50%
中部/甲信越	1	5%	8	10%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	1	9%	1	3%	9	9%
北 陸	3	14%	1	1%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	3	10%	1	1%
近 畿	1	5%	6	7%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	1	3%	6	6%
中 国	-	0%	4	5%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	-	0%	4	4%
四 国	1	5%	-	0%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	1	3%	-	0%
九 州	1	5%	7	9%	-	0%	-	0%	-	0%	-	-%	-	-%	-	0%	1	3%	7	7%
合 計	22	100%	82	100%	2	100%	2	100%	7	100%	-	-%	-	-%	11	100%	31	100%	95	100%

※中止10件(生涯)は除く

(2) 実施した個別テーマ 別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。()内は派遣実人数。

新型コロナウイルスの影響により激減した。

年度	2020	2019	増減
専任教員	20件 (16名)	74件 (44名)	▲54件 (▲28名)
名誉教授	8件 (6名)	18件 (10名)	▲10件 (▲4名)
客員教授	0件 (0名)	0件 (0名)	-
元教授	3件 (2名)	3件 (2名)	-
計	31件 (24名)	95件 (56名)	▲64件 (▲32名)

(4) 申込者(団体) のリピーターの割合

昨年度も実施した団体は3団体で、全体の9%に当たる。

4. 次年度に向けて

2020年度の申し込み件数は41件であったが、10件が中止となり、実施は31件となった。申込件数・実施件数が例年の半数以下となったのは、新型コロナウイルス感染症流行による影響が大きい。例年5月中旬より派遣を開始していたが、緊急事態宣言発令により9月からの開始時期が遅れた。また地域の感染状況悪化によりオンライン実施に対応できない団体は中止となった。急遽開始したオンライン実施は全体の約26%（8件）を占め、大きなトラブルなく終えることができたものの、「受講者の反応がわかりにくい」等の非対面特有の課題が残された。ただ、予め打ち合わせも兼ねて接続テストを行っていたため、事前に担当者と講演内容のすり合わせを行うことができ、安心して当日を迎えることができたとの声もあがった。また、受講者からの反応も良く、通常の対面式で行う講演と比べても遜色ないというアンケート結果であった。

対面形式による講演であれば、教員が遠方へ出張し場合によっては宿泊する等、時間的拘束やそれに伴う出張費用等が発生していた。一方で、オンライン実施の場合は時間的拘束が最小限で済み、出張費用もかからないなどの利点がある。コロナ禍においては、現地にこだわらず、モニターを通して「学びの場」をつくることにも目を向けて、次年度も継続して行っていきたい。

また、本学のSDGs達成に向けた取り組みの一つとして、今年度より「SDGs達成学習支援プログラム」を開始した。受講者は小・中・高校生、教員と多岐に及んだが、それぞれの受講者のレベルに合わせた講演が行われ、満足度の高い講義であったとの声が多数寄せられた。

全国の小・中・高等学校、特別支援学校を対象に募集をしたところ7件の申し込みがあったが、すべて関東の学校であった。SDGsに対する理解を深める動きが高まる昨今、次年度はより多くの受講者に本事業が届くよう周知徹底に努めたい。

次年度は感染状況が落ち着くことを期待し、派遣回数160件を目標とする。オンラインも駆使しつつ、対面か非対面か選べる形での講座提供をすすめていく。

2020年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧

〈生涯学習支援〉

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2020年9月2日	北海道	稚内養護学校	教育講演会	学習指導要領改訂と特別支援教育の課題	宮崎 英憲	名誉教授	47
2	2020年10月8日	埼玉県	株式会社セイウン (指定管理者)	野火止公民館 公民館講座	江戸庶民の笑いと文学	中山 尚夫	名誉教授	15
3	2020年10月8日	群馬県	中之条町立中央公民館	中之条大学	運動効果を得るために知っておきたい身体の仕組みと運動を続けるコツを知る	小河 繁彦	理工学部	23
4	2020年10月8日	兵庫県	高砂市立中央公民館	高砂市立中央公民館	大人の理科実験—小学校理科実験はこんなにおもしろかった?—	寺木 秀一	元教授	10
5	2020年10月10日	埼玉県	吉川市立図書館 (指定管理者 OITグループ)	文学講座	日本の古典を楽しむ—『源氏物語』はおもしろい!	河地 修	名誉教授	20
6	2020年10月17日	福岡県	大浜保育園	子どもの育ち・健康を考える会	幼少児への障害理解教育アプローチ	嶋崎 博嗣	ライフデザイン学部	43
7	2020年10月24日	埼玉県	新座市東北コミュニティセンター	新座市東北コミュニティセンター	日本の建築と西洋の建築	篠崎 正彦	理工学部	25
8	2020年11月6日	岩手県	公益社団法人岩手県青少年育成県民会議	青少年育成セミナー	児童虐待の現状と支援の課題—子どもが健やかに暮らし育てがしやすい社会づくりのヒント—	鈴木 崇之	ライフデザイン学部	33
9	2020年11月14日	神奈川県	寒川町民センター	寒川町民センター	物の見方・考え方—科学を通して学ぶ生きる知恵	和田 直久	名誉教授	26
10	2020年11月14日	千葉県	鴨川市教育委員会	鴨川市教育委員会	ウイルス排除に大切な免疫力とは	加藤 和則	理工学部	18
11	2020年11月18日	栃木県	小山市立東城南小学校	教職員校内研修	これから求められる資質・能力と学習活動とは	後藤 顕一	食環境科学部	40
12	2020年11月20日	新潟県	長岡市立越路小学校	秋季校内研修会 ※オンライン実施	明治の先駆者・井上円了	三浦 節夫	ライフデザイン学部	30
13	2020年11月21日	埼玉県	宮代町立図書館 (指定管理者図書館流通センター)	図書館で学ぼう	ウイルス排除に大切な免疫力とは	加藤 和則	理工学部	13
14	2020年11月29日	埼玉県	鶴ヶ島市立図書館	令和2年 文学講座「日本の古典を楽しむ」	日本の古典を楽しむ—日本の古典の王道「古今和歌集」の謎に迫る	河地 修	名誉教授	13
15	2020年11月29日	福島県	白河市教育委員会	白河市教育委員会生涯学習スポーツ課	<恋愛>の日本文学—現代への架橋	竹内 清己	名誉教授	31
16	2020年11月30日	徳島県	藍住町教育委員会	藍住町人権講座	子ども・若者の貧困を考える	森田 明美	社会学部	41
17	2020年12月18日	東京都	永福和泉地域区民センター協議会	永福和泉地域区民センター協議会	東照宮の近代	内田 祥士	ライフデザイン学部	13
18	2020年12月12日	富山県	富山良寛会	富山良寛会	良寛の漢詩十選	竹村 牧男	元学長	37
19	2020年12月12日	愛知県	江南市民文化会館	江南市民文化会館 自主文化事業	大人の理科教室—化石のレプリカづくりを通して地球の歴史を探ろう—	寺木 秀一	元教授	32

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
20	2020年12月13日	埼玉県	伊奈町立図書館	文化教養講座	日本の昔話考	高橋 直美	ライフデザイン学部	13
21	2020年12月17日	新潟県	長岡市立越路小学校	秋季校内研修会 ※オンライン実施	明治の先駆者・井上円了	三浦 節夫	ライフデザイン学部	100
22	2020年12月19日	北海道	北師同窓会特別支援学校地区	令和2年度北師同窓会特別支援学校地区冬季研修会	障害者の生涯学習について考える	宮崎 英憲	名誉教授	38
受講者計 (生涯)								661

<企業研修支援>

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2020年11月30日	東京都	ナカバヤシ株式会社	児童サービス研修	「遊び」の中で育つ学びに向かう力	内田 千春	ライフデザイン学部	30
2	2020年12月3日	群馬県	みどり市教育委員会	人権教育啓発講座	子どもの心の成長を支えるーがまんする力、めげない強さー	中原 美恵	名誉教授	32
受講者計 (研修)								62

<SDGs 達成学習支援>

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2020年9月8日	千葉県	八千代市立新木戸小学校	海外のことについて知ろう	外国人とともにいきる	南野奈津子	ライフデザイン学部	93
2	2020年9月10日	千葉県	八千代市立勝田台南小学校	職員研修	持続可能な開発ってなに？ 私たちのまいにちは持続可能なのか？	米原 あき	社会学部	16
3	2020年10月8日	埼玉県	埼玉県立入間向陽高等学校	教職員対象の人権教育校内研修	働きやすい会社はどこ？ 「女性活躍推進企業データベース」を使おう	村尾祐美子	社会学部	50
4	2020年10月27日	埼玉県	埼玉県立入間わかき高等特別支援学校	総合的な学習の時間	日本で生活している難民	荻野 剛史	社会学部	40
5	2020年11月4日	東京都	東京都立足立高等学校	人間と社会	ウイルスと戦う免疫の仕組み	加藤 和則	理工学部	41
6	2020年11月18日	東京都	佼成学園女子中学校	SDGsについて学ぶ	子どもの貧困	南野奈津子	ライフデザイン学部	138
7	2021年1月28日	東京都	八王子市立別所中学校	総合的な学習の時間	フェアトレードについて学ぼう	箕曲 在弘	社会学部	120
受講者計 (SDGs)								498
受講者合計								1,221

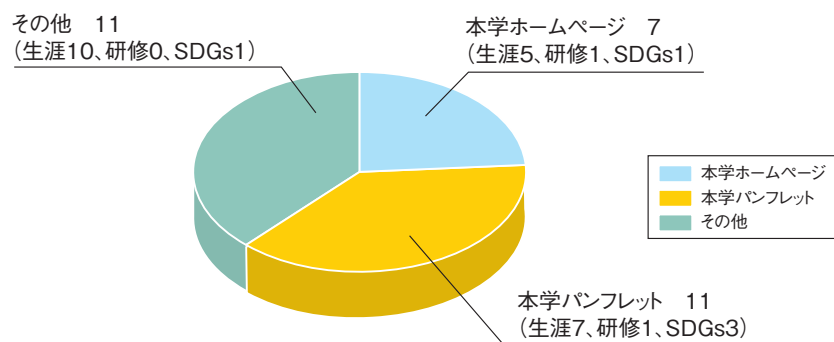
■2020年度 講師派遣事業 アンケート結果

※回答数 29 (うち企業2、SDGs 5)

※ Q2複数回答あり

【講師派遣事業を知った媒体】

	本学ホームページ	本学パンフレット	その他
生涯学習支援	5	7	10
研修支援	1	1	0
SDGs	1	3	1
計	7	11	11

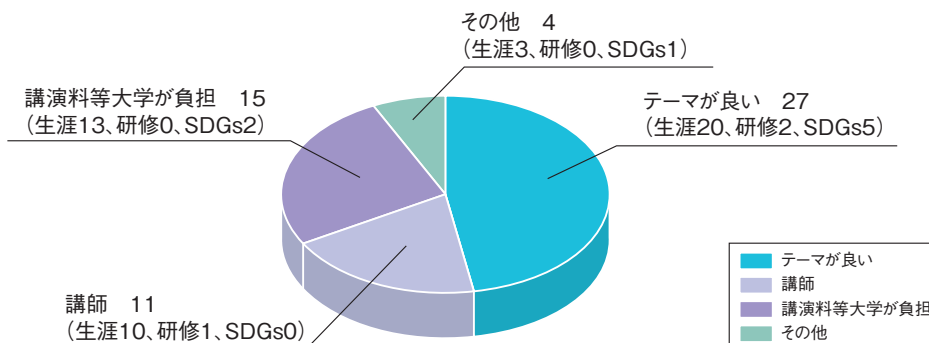


【その他の内容】

継続利用 4 以前利用したことがある
 情報提供 5 講演講師からの紹介
 知人からの情報提供
 本学職員の紹介
 市内公民館職員からの情報提供

【講師派遣事業への申込の理由】

	テーマが良い	講師	講演料等大学が負担	その他
生涯学習支援	20	10	13	3
研修支援	2	1	0	0
SDGs	5	0	2	1
計	27	11	15	4



【その他の内容】

例修学旅行で訪問していたが今年ではできなかったため
 過去の評判が良かった



①群馬県

人権教育啓発講座

主催団体：みどり市教育委員会

派遣講師：中原 美恵(名誉教授)

2020年12月3日(木)13:45～15:00(75分)参加者32名

◆テーマ 子ども心の成長を支えるーがまんする力、めげない強さー

◆当日の状況

受講者：30代～70代、女性8割、みどり市民(保護者、民生委員、人権教育推進委員)
コロナ禍のため、予定を変更しオンライン開催

◆受講者のご意見・感想等

市民の方に学ぶ機会をと思っても、実績があり、信頼できる講師を探すのはとても大変なことで、このような講師派遣事業を行っていただき、とてもありがたいです。大学の先生にご教授いただく機会はなかなかないので、ぜひ続けていただきたいです。今回、有料での研修支援プログラムを利用させていただいたので、日程と時間を早めに確定することができて良かったです。また、新型コロナの影響により事業実施が難しいなか、貴大学の設備を使わせていただきオンラインによる開催ができました。ありがとうございました。

専門的な内容なのかなと身構えていた聴講者も、先生のお話はとても分かりやすく、勉強になったのご意見をいただきました。また、大人だけでなく子どもにも聞かせたかった、もっと早く聞いておきたかったとの感想もありました。可能であれば、せっかくの貴重なお話なので、資料をいただければとの意見がありました。

市のアンケートによりますと、9割以上の方が今回の講義内容に「満足」とされており、有意義な時間となりました。(みどり市教育委員会)

◆当日の様子





②千葉県 職員研修

主催団体：八千代市立勝田台南小学校

派遣講師：米原 あき(社会学部 教授)

2020年9月10日(木)15:00～16:30(90分)参加者16名

◆テーマ 持続可能な開発ってなに？私たちのまいにちは持続可能なのか？

◆当日の状況

参加者：小学校教諭20代～50代

SDGsおよびESDに関する概説と教材紹介のあと、「身の回りで『持続可能だと思うもの・持続不可能だと思うもの』は何ですか？なぜそう思うのですか？」という問いを考えてもらうグループワークを行った。オンライン講義だったので、一方的な講演にならないよう、参加型のワークを組み込んだ。グループワークで気分転換を図ったのち、横浜市教育委員会ESDコンソーシアムの実践事例を紹介し、講義を終えた。

◆受講者のご意見・感想等

- ・ESDという言葉は知っていたが、具体的な活動はよくわかっていなかったで、勉強になった。
- ・ESDを教育にどのように結び付けていくのかを、現場にいる自分たちが考えていく必要があると感じた。
- ・普段、なかなか聴くことができないお話だったので、とてもためになった。
- ・まずは小さいこと、自分たちが出来そうなことを児童がを見つけ、授業中だけでなく、生活に取り入れる必要があると感じた。
- ・教科との関連も含め授業にどのように組み込むのか、もっと具体的な例を知りたいと思った。
- ・ESDをいつか授業で取り入れてみたいと思いました。子どもたちにもESDのことを知る機会を作りたい。

◆当日の様子





③福岡県

子どもの育ち・健康を考える会

主催団体：大浜保育園

派遣講師：嶋崎 博嗣(ライフデザイン学部 教授)

2020年10月17日(土)9:00～10:30(90分)参加者43名

◆テーマ 幼少児への障害理解教育アプローチ

◆当日の状況

大浜保育園・こばと保育園の保育者(20代～50代)、女性、保育士・事務職員

◆受講者のご意見・感想等

午前中の第1部(9:00～10:15)では、お願いをしていた「障害理解教育に関する保育実践の現状」についてお話ししていただきました。嶋崎先生が取り組まれていた実践事例をもとにお話ししていただきました。障害理解に対する保育者の意識が子どもに与える影響について、学びを深めることができました。さらに、日々の保育の中で、無理なく保育実践を行っていくための具体的な方法について、考え方やいくつかのアプローチを知ることができました。

また、上記のテーマに加え、普段の保育における遊びの展開方法についてお話が聞きたいことを要望したところ、嶋崎先生の派遣講座テーマである『あそぶ』をもとにお話ししていただきました(第2部;10:20～11:20)。現在の子どもの健康課題や運動遊びの展開方法及び環境構成についての内容です。展開方法や環境構成は、保育者の遊び心が大事であり、ねらい(願い)をしっかり持つことの大切さを教えていただきました。また、本園の園庭を散策し、どのような環境構成の可能性があるのかについてもお話を伺うことができ、今後の保育に活用していきたいと考えています。

今後とも、嶋崎先生から教えていただいた学びを園全体で共有し、ひいては保育士一人ひとりが日々の保育の中で意識し、行動し続けることができるよう努めていきたいと思えます。

◆当日の様子





④東京都

SDGs について学ぶ

主催団体：佼成学園女子中学校

派遣講師：南野 奈津子(ライフデザイン学部 教授)

2020年11月18日(水)14:20～15:10(50分)参加者138名

◆テーマ 子どもの貧困

◆当日の状況

受講者：中学1年生～3年生の女子生徒

生徒の学年・年齢を考慮していただき、非常にわかりやすい言葉を使ってくださってのご講演でした。

問いかけや質疑応答の時間も設定していただいたおかげで、SDGsの勉強をスタートさせたばかりの生徒たちでも、よく理解できたようです。今後の探究学習につながる素晴らしい機会となりました。

◆受講者のご意見・感想等

- ・家庭の貧困は、ただお金がないというだけでなく、子どもへの精神的な影響や勉強、将来のことにまで影響してしまうということがわかった。また、虐待との関係が貧困は深く関係していることもわかった。
- ・先生の講演を聞いて、世界には貧困に苦しんでいる国がたくさんあるということを知りました。また、日本も私が思っていた以上に貧困に苦しんでいる人たちがいることを知り驚きました。
- ・先生の言っていたとおり、貧困と聞くとアフリカなどの発展途上国の子どものことを思い浮かべてしまいがちだが、自分の身近にある貧困にも目を向けて、自分にできることを探し、実行していこうと思った。
- ・1つ疑問だったのは、この統計をどのようにとったのか、というところ。国からとはいえ、多くの方がこの質問に答えているのか、そもそも全国民に質問する形式なのか、疑問が残りました。私は、初めてここまで詳しく貧困についての話を聞いたので、たくさん知らないことを知れて良かったなと思いました。

◆当日の様子





⑤東京都

児童サービス研修

主催団体：ナカバヤシ株式会社

派遣講師：内田 千春(ライフデザイン学部 教授)

2020年11月30日(月) 10:30～11:30(60分) 参加者30名

◆テーマ 「遊び」の中で育つ学びに向かう力

◆当日の状況

【年齢】20代から60代 【性別】男性約1割：女性約9割 【職種】図書館で働く司書

◆受講者のご意見・感想等

- ・図書館が子育て世代にとって重要な役割を担っていることを改めて感じた。さらに、子育て支援の分野でできることがまだまだあると認識し、考えるきっかけになった。
- ・保護者が望んでいる情報を具体的に教えていただけたのがよかった。「身近にある材料で作る手作りおもちゃ工作会」という例が出ていたが、そのようなイベントを企画してみたいと思った。
- ・写真やアルバムに関する保護者向け支援という視点は、これまでやったことがないので、図書館でもできることがあるかもしれないと思った。
- ・保育園や子育て広場と図書館の違いについての話が印象的だった。子育て広場が保護者・子ども同士の交流が一つの目的であるのに対して、図書館はそのようなことが苦手な方にとって行きやすい場所であり、間口を広げて居心地の良い空間を作ることが大切だと感じた。
- ・絵本の読み聞かせや選書について、具体的な話があり業務に活かせると感じた。
- ・図書館という特殊な環境に内容を合わせてくださり、大変参考になりました。
- ・研修の内容や時間を柔軟にご相談できるのがよかったです。
- ・コロナウイルス感染症対策もあり、複数の図書館をオンラインで同時につないで実施することをご了承いただき、より多くの職員に聞いていただくことができました。

◆当日の様子



社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- 被災地支援
ふるさとボランティア活動助成事業

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013（平成25）年4月1日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の2つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること、及び本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定並びに情報収集・発信・提供することを通じて、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。

1. 社会貢献情報収集

(1) 経緯

2月中旬～ 調査開始

3月中旬～下旬 調査票回収

(2) 情報の収集

2020年度の調査では、全学への協力依頼と同時に、前年度調査に回答のあった事業に対して、内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

調査対象事業：2020年度に実施している、次の事業を対象とし、取りまとめをお願いする。

1) 職員が(東洋大学教職員個人として)実施または協力 ⇒ 教職員

2) 学部単位、学科単位で実施 ⇒ 学部長 ※事務局を經由して

3) 本学の研究所やセンターなどが実施 ⇒ 所長、センター長 ※事務局を經由して

4) 本学の事務担当部局が中心となって実施(市民大学講座など) ⇒ 担当部署の課長

〈記入上の諸注意等〉

1) 試関係業務(模擬授業、オープンキャンパス、附属校高大連携等)は、含みません。

2) 各種委員等の委嘱は、稟議起案にて所管部署が把握していますので、本調査から除きます。

3) 寄付等の個人的な活動は、除きます。

4) 公開講座や講師派遣事業は、社会貢献センターで記載しますので、ご記入は不要です。

5) 本調査結果は抜粋し、社会貢献センター年報にも掲載いたします(年報は本学ホームページにも掲載します)。

※ご回答内容において、趣旨に合わない又は他部署との重複などは、割愛させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

(3) 「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第1に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第2に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第3に

地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、前年と同様に『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域(国内外)や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を調査対象とした。なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び研究推進課がその実態を把握していることと、「東洋大学研究者データベース」の掲載にて一般公開している（もしくは公開可能）と考えられたことから、2020年度調査においても調査対象とはしないこととした。

(4) 調査結果及び公表

教員が実施している社会貢献活動が83事業、事務局や研究所・センターが中心になって実施している社会貢献活動が34事業であった。

【学部等】

文	経済	経営	法	社会	国際	国際 観光	理工	総合 情報	生命科	食環境科	ライフ デザイン	情報 連携	大学院
10	1	0	6	26	0	4	11	6	4	9	3	2	1

【その他】

事務局 (※)	研究所・ センター	合計
11	23	117

※事務局には学科単位の件数を含む。

調査結果は、社会貢献センター年報の中に含め本センターのホームページに掲載するとともに、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動の中から、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページにて紹介している。

2020年度調査 社会貢献活動一覧

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
1	リハビリ講習会	NPO神経現象学 リハビリ開発機 構	③すべての人に 健康と福祉を	理学療法士、作 業療法士	関心のある市民も含め、理学療法士 を含めた研修プログラムを実施する。	河本 英夫	哲学科
2	記念館アカデミー	賀茂真淵記念館	該当無し	一般市民	静岡県浜松市の賀茂真淵記念館が 行っている市民講座である記念館ア カデミーで「賀茂真淵と上田秋成」と 題して全3回の講座を行った。	高松 亮太	日本文学文化 学科
3	Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	株式会社アルク	④質の高い教育 をみんなに	高校または中高 一貫校の英語教 員、英語教員志 望者	2010年(H22)3月に、立ち上げたプロ ジェクトで、高校英語授業改善に貢 献することを目的とした活動。授業 モデルや方法を、セミナー・書籍・ 教材を通じて提案。そこでの経験や 現職教員とのネットワークを、本学 で担当する教職科目を通して履修学 生に還元。	大田 悦子	英米文学科
4	(青森県)進学力 を高める高校支援 事業	青森県立三本木 高等学校	④質の高い教育 をみんなに	三本木高校・附 属中学校英語科 教員、周辺地区 の中高英語教員	生徒の発信力強化のための英語指導 力向上を目的に当該校で取り組んで いる英語授業指導改善研究会(年3回) に助言者として参加。	大田 悦子	英米文学科
5	英語科教員研修	京北中学校高等 学校	④質の高い教育 をみんなに	京北中学校高等 学校英語科教員	2021年度の中学校指導要領改訂に伴 い、新教科書の効果的な使い方と生 徒の英語4技能の伸長を目指す指導 法について検討する校内研修会(外部 講師による講演会3回を含む)。		
6	調布市東部公民館 「歴史講座 史料 で読み解くペリー 来航から幕末ま で」	東京都調布市	該当無し	一般市民	2020年9月26日(土)、10月24日(土)、 11月21日(土)の3日間にわたり「歴史 講座 史料で読み解くペリー来航か ら幕末まで」の講座を調布市東部公 民館で行った。		
7	神奈川県寒川町 民センター講座 「江戸無血開城、 本当の功労者は誰 か、その時、寒川 は？」	神奈川県寒川町	⑩住み続けられ るまちづくりを	一般市民	2020年11月7日(土)「江戸無血開城、 本当の功労者は誰か、その時、寒川 は？」と題して神奈川県寒川町町民セ ンターで講演した。		
8	岡山県立津山高 等学校「ソーシャ ルサイエンスI」講 座「ペリー来航と 日本社会の変容－ 仙台藩儒大槻磐 編『金海奇観』と 津山藩」	岡山県立津山高 等学校	該当無し	高校生・高校教 員	2020年11月28日(土)、岡山県立津山 高等学校「ソーシャルサイエンスI」 講座で「ペリー来航と日本社会の変容 －仙台藩儒大槻磐編『金海奇観』と 津山藩」を講演した。	岩下 哲典	史学科
9	エジプトスミル科 学技術大学外国語 翻訳学部日本語学 科主催「近代日本 語におけるヨー ロッパ系専門用 語」セッション 「ペリー来航と言 説・言語環境」	エジプトスミル 科学技術大学	⑨産業と技術革 新の基盤をつく ろう	外国人学生・大 学教員	2020年12月26日エジプトスミル科 学技術大学外国語翻訳学部日本語学 科主催「近代日本語におけるヨー ロッパ系専門用語」セッションで「ペ リー来航と言説・言語環境」を講演 した。国際交流基金支援事業で、 テレビ会議システムによるリモート で行った。		
10	東京都立北特別支 援学校 病弱部門夏季研修 講師	教員個人	④質の高い教育 をみんなに	特別支援学校教 員	東京都立特別支援学校教員の支 援力向上をめざした研修会におい て、「ICTを活用した病弱児支援」に 関する講演会講師を務めた。	谷口 明子	教育学科

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
11	「稲岡工業株式会社文書」の整理保存活動	「稲岡工業株式会社文書」保存会	⑪住み続けられるまちづくりを	兵庫県加古川市	兵庫県加古川市の明治～昭和にかけての代表的産業の一つであったタオル工業「稲岡商店」が残した歴史史料がある。同社倒産に伴い廃棄されたが、2014年に地元の有志が「稲岡工業株式会社文書」保存会を組織し、同史料の整理を行うとともに、「わたの里」アイデンティティを形成するためのイベントを行ったり、文書館設立の必要性を訴えたりしている。私は保存会の立ち上げから関与し、地域史の形成に関わっている。	渡辺 千尋	国際経済学科
12	実演芸術連携交流事業・専門人材向けセミナー	文化庁・芸団協	⑩人や国の不平等をなくそう	芸術関係者	演劇、舞踊、コンサート、朗読といった芸術活動をネット配信する場合に留意すべき法律上の問題について、著作権法を中心に詳しく解説した。	安藤 和宏	法律学科
13	令和2年度専門性向上研修	東京都教職員研修センター	該当無し	小学校教員	教員が、外国語活動及び外国語の授業実践に必要な高度な理論と発展的な指導技術を身に付けられるよう、大学と連携した研修を受けることにより、東京都における英語教育を推進する上での中核となる資質・能力の一層の向上を図ります。	高橋 豊美	法律学科
14	「情報公開と個人情報保護」	市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）	⑯平和と公正をすべての人に	全国の市町村職員	講義「公文書管理のあり方」 講師		
15	「公文書管理統括責任者（所屬長）研修」	相模原市	⑯平和と公正をすべての人に	相模原市の公文書管理統括責任者	適切な公文書管理について、60分程度の動画を撮影し、研修で利用。		
16	三多摩図書館研究所学習会	三多摩図書館研究所	⑯平和と公正をすべての人に	図書館に興味のある市民	講演「公文書管理と公立図書館 —アーカイブズ機能が公立図書館にもたらすもの—」 講師	早川 和宏	法律学科
17	公文書管理に関する講演	公益財団法人沖縄県文化振興会	⑯平和と公正をすべての人に	県職員	講演「沖縄県の公文書管理に求められること」の動画を撮影し、DVDで県の諸機関に配布するとともに、沖縄県公文書館ホームページにて公開する。		
18	タイ国小規模起業家支援プロジェクト	JICA（国際協力機構）	⑧働きがいも経済成長も	タイ国政府およびタイ地方県で小規模事業に携わる地域住民と地方の行政官	タイ地方部の、「一村一品運動」が実施されている地域において、さらに小規模な起業家による自作事業を支援している。また、タイ地方部のローカルガバメントの担当者に対して、ガバナンス能力向上のための研修を行っている。		
19	JICA業績評価アドバイザー	JICA	⑰パートナーシップで目標を達成しよう	JICAおよび日本の一般市民	JICAが外務省に提出する事業報告書の内容・書き方についてアドバイスしている。		
20	SDGs社会的インパクト・マネジメント検討委員会	神奈川県	⑰パートナーシップで目標を達成しよう	神奈川県民および日本の一般市民	SDGsに貢献しようとする、事業者、中間支援団体、金融を有機的につなぐためのマネジメントモデルについて議論を深めると同時に、実証事業を行い、また、上記の3者を対象とした研修を実施している。	米原 あき	社会学科
21	学校運営協議会	横浜市立みなとみらい本町小学校	④質の高い教育をみんなに	当該小学校の児童・保護者および地域の関係者	PTAや地域の関係者とともに学校運営を検討するために設置された学校運営協議会において、定期的な会議を通じて、学校の様々な活動の方針について検討している。		

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
22	開発協力事業の新たなマネジメント方式に関する検討会(および「開発協力事業の新たなマネジメント方式に関する能力強化研修」講師)	JICA	⑰パートナーシップで目標を達成しよう	JICA関係者およびODAに関わる国際開発コンサルタント	JICAが新たに導入しようとしているマネジメント・評価のスキームについて議論を深め、そのスキームをJICA職員及びODA事業にかかわるコンサルタントの関係者に周知・研修する。	米原 あき	社会学科
23	資金分配団体PO研修	JANPIA(日本民間公益活動連携機構)	⑰パートナーシップで目標を達成しよう	社会的事業を担うNPO団体	休眠預金を社会的事業に有効活用してもらうため、中間支援を行う団体のプログラム・オフィサー(PO)および事業者に対する研修を行っている。		
24	コラボ授業によるESDの実践	神戸大学附属中等教育学校	④質の高い教育をみんなに	神戸大学附属の教員および生徒	理科教員と社会科教員のボランティアによるESDの授業の評価について、プログラム評価の手法を用いて支援している。		
25	横浜市教育委員会ESDコンソーシアム	横浜市教育委員会 文部科学省	④質の高い教育をみんなに	横浜市教育委員会および横浜市内のESD推進校(小・中・高)の教員および児童生徒	横浜市教育委員会ESDコンソーシアムはESDを推進する日本の拠点として、文科省より認定をうけ、ESDの推進にかかる各種の取り組みを行っている。昨年度に続き今年度も『文部科学省SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業』に採択され、モデル校における推進事業を行った。		
26	朝日新聞社グループ人権差別問題社員研修会	朝日新聞社	⑩人や国の不平等をなくそう	朝日新聞社グループ社員	朝日新聞社、テレビ朝日、朝日出版社の社員約150名を対象に、報道活動を行う上で留意すべき人権差別問題等について紹介する講座	井沢 泰樹	社会文化システム学科
27	ラオス産フェアトレードコーヒーの製造販売プロジェクト	学生国際協力団体 Smile F LAOS	⑫つくる責任つかう責任	ジャイカフェ農民協同組合(JCFC)	ラオスの農民協同組合が生産したフェアトレードコーヒーを静岡の焙煎工場で製品化し、学内を中心に販売することにより、その利益を現地の教育支援に充てることを目的とした事業である。毎年、現地におけるニーズを探求し、浄水器や絵本を小学校に寄贈する活動を行っている。	箕曲 在弘	社会文化システム学科
28	ラオスのコーヒー栽培地域における農業の多様化促進を通じた生態系保全プロジェクト	NPO法人APLA	⑮陸の豊かさを守ろう	ジャイカフェ農民協同組合(JCFC)他	ラオス南部ポーラヴェーン高原におけるコーヒー単一栽培への依存からの脱却と、持続可能な農法での多様な作物の栽培とそれらの計画的な販売によって年間を通じた安定的な収入の確保に配慮しながら、多様な生物と植物が共生する生態系の回復をめざす。(2018年度りそなアジアオセアニア財団助成プログラム)		
29	兵庫県尼崎市街頭犯罪防止事業アドバイザー	兵庫県尼崎市総務局防災安全部	⑪住み続けられるまちづくりを	兵庫県尼崎市民	ひたたくり防止の対策を検討するための「犯罪情報分析」および調査を継続的に行い、また自転車盗の対策を行った。また、特殊詐欺対策も検討を開始している。	桐生 正幸	社会心理学科
30	北区青少年地区委員会委員研修会	北区生涯学習・学校地域連携課	⑪住み続けられるまちづくりを	北区青少年地区委員会委員	今後の青少年による非行や、犯罪被害に対し、犯罪心理学的な観点から講演を行った。		
31	クレーム対策の検討	各企業の消費者窓口担当者による研究会	⑧働きがいも経済成長も	苦情相談担当者	各企業における苦情、クレームについて事例をあげ、対策などを検討した。メンバーによる本を作成した。		
32	NHK-BS「ダークサイドミステリー」『草加次郎事件』	NHK	④質の高い教育をみんなに	一般市民	未解決事件である「草加次郎事件」について、制作協力、番組への出演をした。		

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
33	爆破予告などの犯罪予告を行う犯罪者心理について	NHKNEWS WEB	④質の高い教育をみんなに	一般市民	全国の自治体に対する爆破予告事件についての犯人の心理に関する解説。		
34	カスタマーハラスメント実態調査の実施と議員会館での説明	UAゼンセン	⑧働きがいも経済成長も	一般市民、国会議員	UAゼンセンが行った調査を分析し報告書にまとめ、法整備について国会議員などに説明を行った。	桐生 正幸	社会心理学科
35	障害者自立支援協議会	文京区	③すべての人に健康と福祉を	文京区在住の障害者、関係者	障害者自立支援協議会の副会長として、自立支援協議会の全体会に出席している。また相談支援部会等の委員として、専門部会の活動に従事している。これらの活動を通じ、障害者計画策定等に参画している。		
36	ALS患者支援	NPO法人 チーム浅沼屋 for Children and ALS	③すべての人に健康と福祉を	児童養護施設入所者、ALS患者・家族	ALS患者と家族とともに児童養護施設の子どもたちに食事を提供し、ALSの理解普及に努める。	志村 健一	社会福祉学科
37	知的障がいのある人々へのスポーツ活動を通じた社会参加支援	公益社団法人スペシャルオリンピックス日本	③すべての人に健康と福祉を	知的障がい者	全国的な活動を推進するための組織運営に関する相談に応じ、また活動に参加している。		
38	東日本大震災子ども支援活動 山田町ゾンタハウス	本学社会学部と特定非営利活動法人 こども福祉研究所 (NPO法人)	⑪住み続けられるまちづくりを	山田町の中高校生を中心とした町民全員	東日本大震災復興支援事業として、岩手県山田町にゾンタハウスを開設したNPO法人の代表として事業実施を担う。また、そこに社会学部の学生や大学院生の参加を実現し、長期休暇には学習支援や地域支援活動の場として、提供している。		
39	東日本大震災子ども支援活動	一般社団法人東日本大震災子ども・若者支援センター	⑪住み続けられるまちづくりを	東日本大震災で被災した子ども・若者	東日本大震災で被災した子ども・若者を2031年までの20年間応援し続けようという活動のために、設置された一般社団法人被災地での子ども・若者自身の居場所、交流、活動、子ども支援者の研修会、居場所事業、研究などを仙台レインボーハウスを拠点に展開している。	森田 明美	社会福祉学科
40	子どもの権利条約の国内普及活動	子どもの人権連(市民団体)	③すべての人に健康と福祉を	市民社会	国連子どもの権利条約の日本での批准と、批准後の普及活動をすすめる団体。 具体的には、この団体の代表委員として活動する。 国連での日本の子どもの権利条約の普及状況に関する審査などにNGO代表として報告書作成や審査に関わる。		
41	東日本大震災子ども支援活動	東日本大震災子ども支援ネットワーク	③すべての人に健康と福祉を	市民社会	東日本大震災で被災した子どもや子育て家庭、被災地域での子ども施策について、支援者のネットワーク、意見交換などをふまえて、継続的な支援活動と啓発を進める活動		
42	障害者のリアルに迫るゼミ	東京大学教養学部	③すべての人に健康と福祉を	東京大学学生	東京大学教養学部の「障害者のリアルに迫るゼミ」(第8回:2020年6月18日開催)において「障害者の性暴力」についての講演を行った(受講者数約50名)。	岩田千亜紀	社会福祉学科
43	わたカフェ(女の子のための安全な居場所)	公益財団法人ブランインターナショナルジャパン	⑤ジェンダー平等を実現しよう	15歳~24歳の女の子	ブランインターナショナルジャパンが運営する女の子のための居場所である「わたカフェ」に関してのアドバイス業務などを提供		

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
44	“JOINT UIC-FSR TRANSPORT WEBINAR”での発表および議論への参加	欧州大学院と国際鉄道連合の共催	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう	鉄道政策担当者・鉄道関係者（Webinar視聴者）	各国の鉄道政策と運営手法についてまとめた“Handbook on Railway Regulation”（共著）の発刊を機に、著者数名がそれぞれの国の鉄道の特徴について説明するとともに議論を行った。	黒崎 文雄	国際観光学科
45	豊の国商人塾	大分県商工観光労働部 商業・サービス業振興課、大分県商店街振興組合連合会	④質の高い教育をみんなに	大分県内の商工業の経営者、金融機関の幹部など地域を代表する事業経営の関係者	年間を通じたビジネス研修。年に6回開催。佐々木茂が塾頭を務め、講師は、毎回のテーマに合わせて国内外の多様な事業分野の第一線で活躍する経営者や団体役員を招聘している。	佐々木 茂	国際観光学科
46	城沼・多々良沼の親水性向上プランの作成	群馬県館林土木事務所、館林市、城沼・多々良沼自然再生協議会	⑮陸の豊かさを守ろう	一般市民	自然再生推進法に基づき、群馬県庁や館林市などが、城沼・多々良沼の自然再生事業を実施している。水質改善や外来種対策などの他にも、親水性の向上が主要課題となっているが、東洋大学国際観光学部東海林ゼミのゼミ活動の一環として、親水性の向上を図るための地域計画を策定し、自然再生協議会などに対して発表や提言を行うもの。	東海林克彦	国際観光学科
47	根津・千駄木下町まつりへの参加協力事業	東海林ゼミ、根津・千駄木下町まつり実行委員会（文京区・地元町会など）	⑪住み続けられるまちづくりを	一般市民	地域の観光振興に貢献するため、教員の指導監督のもとで学生が中心となって、(1)情報発信事業（HP作成）、(2)利用実態調査報告書のとりまとめ、(3)地域振興プロジェクトの成果の展示の3事業を実施。★本年度は、コロナ禍により、(1)情報発信事業（HP作成）のみを実施。		
48	令和2年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」	福島県教育委員会（義務教育課）	④質の高い教育をみんなに	①福島県内の教員 ②福島県東北事務所管内の学校の担当者	①東日本大震災後10年間継続された放射線・防災教育を推進する事業。 ②福島県教育委員会による事業の実践協力校として指定を受けた学校に向け、放射線教育を通じた教科等横断的な視点による資質・能力及び活用力の育成について講演を行った。		
49	令和2年度 福島県学校安全指導者養成研修会	福島県教育委員会（健康教育課）	④質の高い教育をみんなに	学校安全教育担当者 ①いわき地区 ②会津地区	「学校安全のカリキュラムマネジメントについて」と題する講演を三密を避けるために10:00-11:05と13:20-14:25の2回に分けて実施。	大辻 永	機械工学科
50	川越市理科授業づくり研修会（指導力向上コース）	川越市教育委員会	④質の高い教育をみんなに	市立小学校教員、中学校理科教員のうち希望者	主体的対話的深い学びや探究活動を実現する従来からの理科授業のエッセンスを、実践ビデオとプロトコルを用いて明示的に示した。		
51	実際の設計研究会	実際の設計研究会	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう	工学系の技術者や学生	機械系の技術者を中心として「実際の設計研究会」を作り、創造的設計論の研究および「実際の設計」シリーズの本の執筆活動を行っている。研究開発等で得られた知識をまとめて本の形で出版することを通して、社会貢献を行っている。	松本 潔	機械工学科
52	おがわ学	地域との協働による高等学校教育改革推進事業（埼玉県立小川高等学校）	⑪住み続けられるまちづくりを	高校生・中学生・小学生	高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアム（小中学校、小川町教育委員会、地元企業、など）を構築する。	吉田 善一	生体医工学科

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
53	Advanced Program in Japanese style International Business at FTU [Japanese style Production system MONOZUKURI]	ベトナム貿易大学 (FTU) (ベトナム・ハノイ)	④質の高い教育をみんなに	大学3年生 (Bachelor of International Business)	JICA の援助により設置されたベトナム日本人材開発インスティテュート (VJCC) の招聘で、FTU の日本式国際ビジネス学士課程の3年生に「ものづくり精神」の講義を36時間行う。	吉田 善一	生体医工学科
54	EMG 19F; School of Industrial Engineering and Engineering Management	Mapua University (フィリピン・マニラ)	④質の高い教育をみんなに	大学生	マプア大学の生産工学の学生にオンラインで「ものづくり精神」の講義を実施した。講義の配信、宿題として講義後に学生同士オンラインでグループワーク、試験、アンケートを実施。		
55	アトピーフリーコム	アトピーフリーコム	③すべての人に健康と福祉を	アトピー患者と医師	アトピー患者の相互支援を行っている。季刊誌発行、講演会、フォーラムなどを通じ、患者がより社会で過ごしやすい状況を作れるよう、サポートを行っている。	安藤 直子	応用化学科
56	高木仁三郎市民科学基金	高木仁三郎市民科学基金	⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに	一般市民	「市民科学」を助成する市民ファンドとして活動している。		
57	ホイアン町並み保存協力	ベトナム・ホイアン市・史跡管理保存センター	⑪住み続けられるまちづくりを	現地行政、住民、観光客	現地行政機関、研究者および日本側研究者と連携しながら、世界遺産に指定されているホイアン市旧市街の町並み保存について課題の抽出や提言を行っている。	篠崎 正彦	建築学科
58	哲学堂公園学習展示施設の検討	(公社) 日本建築家協会関東甲信越支部中野地域会	④質の高い教育をみんなに	一般市民	哲学堂公園に中野区が計画している学習展示施設をより広い視点から検討し、井上円了の思想をより良く伝え、市民に親しまれる公園とすることを旨とする。		
59	重度障がい者社会支援フォーラム「障がいと教育」	「重度障がい者社会支援フォーラム」実行委員会	⑩人や国の不平等をなくそう	一般市民	障がい者と健常者が共に働ける場を目指して、就労前に重要な役割を果たす障がい者教育に関し、幼児期、そしてその後の『愛着形成』が働き方にどのような影響があるのかをテーマとする。	石原 次郎	総合情報学科
60	東村山市いのち支える自殺対策推進協議会 ゲートキーパー	東村山市健康増進課	③すべての人に健康と福祉を	東村山市民	地域ケア会議の開催を通じて、関係者同士の連携を深めることにより、地域包括ケアと自殺対策を連動させていく上での基盤を構築する。地域包括支援センターにおける種々の活動を通じて、地域の問題を察知し支援先へつなげ、地域包括ケアと自殺対策との連動を進める。	加藤 千恵子	総合情報学科
61	生きものを育む田んぼプロジェクト	NPO法人かわごえ里山イニシアチブ、高梨農園	⑮陸の豊かさを守ろう	市民、地元農家	2014年度から任意団体、2017年度からNPO法人として活動しているかわごえ里山イニシアチブの運営に協力している。今年度はコロナ禍で活動の制約もあったが、オンラインでの懇談会や会場・オンラインハイブリッド形式での講演会開催の協力などを行った。	小瀬 博之	総合情報学科
62	川越キャンパス「こもればの森」における里山林保全活動	川越キャンパスこもればの森・里山支援隊	⑮陸の豊かさを守ろう	市民、大学教職員、学生	今年度はコロナ禍により活動を休止したが、メーリングリストによる「こもればの森」の自然環境を報告するなど、外部の構成員や参加したことのある市民とのコミュニケーションを図った。		

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
63	2020アースデイ川越 in 昭和の街のオンラインワークショップの開催	かわごえ環境ネット、アースデイ・イン・川越実行委員会	①住み続けられるまちづくりを	市民	22回目を迎えた「アースデイ川越」が、コロナ禍によりオンライン主体のイベントとなった。活動に協力しているかわごえ環境ネットとしてこのイベントに出展し、リアルタイムで『「川越の自然」バーチャルツアー』と『みつけてみよう!!みんなのおうちからつながる世界』という2つのテーマのオンラインワークショップを開催し、市民のSDGsへの意識付けを図った。また、当日の動画を編集して配信している。	小瀬 博之	総合情報学科
64	レギオ	総合情報学部（情報オリンピック日本委員会共催）	④質の高い教育をみんなに	埼玉県、東京都を中心とした中高生	情報オリンピック日本委員会は2009年度から、地域密着型の学習支援講習会「レギオ」(Regional Training Centerの略称)を開講しています。レギオとは、情報オリンピック予選参加を目指す生徒に対して、プログラミングとアルゴリズムの基礎的なトレーニングを行う講習会です。実践的なトレーニングを通じて、プログラミングやアルゴリズムの効果的な独習方法を身につけていただくのが目的です。	土田 賢省	総合情報学科
65	NHK Eテレ	クリエイティブネクサス	④質の高い教育をみんなに	NHK視聴者	番組制作協力 中高生が楽しく英語を学習するためのヒントを提供する番組で、英単語などの効果的暗記法について、なぜ語呂合わせや連想などが効果的であるのかについて専門である神経科学の知識から解説した。	児島 伸彦	生命科学科
66	Maoris発達促進サークル	一般社団法人Maoris	③すべての人に健康と福祉を	Maoris発達促進サークルメンバー	発達障害児の保護者のサークル会報誌に脳神経科学に関するコラム執筆		
67	Environmental Toxicology	Environmental Toxicology, Japan and Asia regional associate editor	①住み続けられるまちづくりを	国内外の研究者	国際学術専門誌の編集者として、アジア・日本を代表する研究者として編集作業に貢献した。		
68	the Republic of Palau	The 25th Anniversary Organizing Committee for a seminar focusing on Sustainable Development Goals (SDGs), and especially of SDG 14, or Life below Water, the Republic of Palau.	⑮陸の豊かさを守ろう	パラオ共和国国民および日本国民	パラオ共和国の駐日全権大使の指名により、パラオ共和国独立25周年記念した持続可能な開発目標(SDGs)、特にSDG 14、または水面下での生物に焦点を当てたセミナーの25周年記念組織委員会に、魚類毒性の専門家として貢献した。	柏田 祥策	応用生物科学科
69	アクアデミア（ミネラルウォーター専門スクール）／アクアソムリエマスターコース	一般社団法人日本アクアソムリエ協会	⑥安全な水とトイレを世界中に	レストランオーナー等	一般社団法人日本アクアソムリエ協会によって資格認定されるアクアソムリエマスターの資格取得のための受講コース。アクアソムリエはミネラルウォーターに関する基礎知識や専門知識はもちろん、水を通じて積極的に社会と関わりあっていくための実践力を身につけ、自然環境保全や保護に貢献する活動などを行うことができる。	佐藤 順	食環境科学科

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
70	和食の出前授業	一般社団法人和食文化国民会議	④質の高い教育をみんなに	小学生、幼稚園児	ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」の保護・継承活動の一環として全国の学校にて和食に関わる有識者による出前授業を実施。	露久保美夏	食環境科学科
71	連載コーナー担当	朝日小学生新聞	④質の高い教育をみんなに	小学生	家庭でできる調理科学に関するコンテンツを「つゆくほ研究員のキッチンラボ」コーナーとして連載。		
72	メディア出演・監修	各種メディア	④質の高い教育をみんなに	一般市民	複数のテレビ番組、新聞などのメディアにて出演、取材、監修に対応。		
73	区立保育園給食調理士研修会	江戸川区	④質の高い教育をみんなに	保育園給食調理士	「和食」の特徴や地域の食文化などの話、乳幼児期の味覚の形成などに関する講演。		
74	和食文化継承人材育成研修	農林水産省	④質の高い教育をみんなに	栄養士、保育士	子どもたちや子育て世代に対して和食文化を伝える中核的な人材を3か年かけて各都道府県に育成するために実施。		
75	全国子ども和食王選手権	農林水産省	④質の高い教育をみんなに	小学生	日本人の伝統的な食文化である「和食」やふるさとの「郷土料理」に対して子ども達の関心と理解を育むことを目的に実施。		
76	給食施設研修会	坂戸保健所	③すべての人に健康と福祉を	病院、高齢者施設、児童福祉施設、社会福祉施設、事業所等の給食施設 従事者、地域活動栄養士	「給食施設における調理と減塩対策」の講師として、給食の調理における食塩濃度の変動を実験結果を示しながら解説した。また、給食に多い「野菜たっぷり汁物」の調理中における、食塩濃度の計測方法についてアドバイスし、食塩濃度計の数値にふり回されない適塩での汁物提供の作業改善を提案した。	辻 ひろみ	健康栄養学科
77	令和2年度 さいたま市民大学 食と健康コース	さいたま市	③すべての人に健康と福祉を	一般市民	『学んで実践！賢く食べて健康に～心も体もほっとできる毎日の食事～』というタイトルに沿って、食と健康に関して注目の情報を提供するとともに、氾濫する情報に流されない方法を学び、自らに適した食事法を探すことを目的とする。	塩原 明世	健康栄養学科
78	自立支援介護に関するウェブ事例検討会	株式会社社愛誠会	③すべての人に健康と福祉を	福祉施設経営者と職員	首都圏エリアを対象に毎月1回、静岡県エリアを対象に毎月1回、それぞれ年間を通して実施した。基礎知識及び組織マネジメントに関する講義と、事例検討を組み合わせ実施した。	古川 和稔	生活支援学科
79	講演会	韓国カトリックサンジ大学	③すべての人に健康と福祉を	カトリックサンジ大学の学生	カトリックサンジ大学(韓国)から依頼を受けて、高齢者福祉とリハビリテーションに関する講義を実施した。		
80	東洋大学キャンパス	ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻	④質の高い教育をみんなに	小学4年～6年生	子ども支援学専攻の中期計画の一環として、隔週で大学構内において、福祉や教育に関わる資格の取得を目指す学生が中心となり、朝霞市内の小学生を対象とした学習支援・遊び支援・相談支援活動を行う。	内田 塔子	生活支援学科 子ども支援学専攻
81	渥美半島自然学習バスツアー・自然学習フォーラム	渥美半島生態系ネットワーク協議会	⑮陸の豊かさを守ろう	一般市民	渥美半島(愛知県)の自然を保全するために、外来種や希少種に関する観察会や講演会を実施する。	後藤 尚弘	情報連携学科

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	担当者氏名	所属学科等
82	インド太平洋地域向け日米産業制御システムサイバーセキュリティウィーク	経済産業省および(独)情報処理推進機構 後援：米国土安全保障省	⑨産業と技術革新の基盤をつくる	インド太平洋地域から招聘した研修生40名(各国の政策担当者や重要インフラ事業者等)	インド太平洋地域のサイバーセキュリティ能力向上および連携強化のため経済産業省が開催した「サイバーセキュリティウィーク」において、コロナ禍でも実施可能な産業制御システムに関する遠隔セキュリティ演習環境を国内で初めて開発し、その講師を務めた。インド太平洋地域とはサプライチェーンを共有しており、産業制御システムセキュリティや安全な産業基盤に関して国際的な共通理解の醸成に繋がった。	満永 拓邦	情報連携学科
83	和光市プロジェクト2020	経済学部総合政策学科	⑪住み続けられるまちづくりを	和光市、和光市民	和光市からの委託に基づき地方創生の手法であるアセットマッピングを実践。総合政策学科3年生6名でチームを組成し、市民チーム5チームをリードして、市内の資源や課題を抽出し、提言をまとめて最終的にはオンライン市民ワークショップを開催。	根本 祐二	経済学研究科

〈事務局等〉

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	事務局名
1	東洋大学白山地域振興懇話会「白山哲理塾」の事務	白山地域振興懇話会(本学及び地域団体等との協働)	④質の高い教育	社会人、経営者、商店主、学生、児童等	総務課は、東洋大学白山地域振興懇話会事務局となっている。白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施。企画立案者(近隣住民等)から企画書の提出を受け、学内外で実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料。	総務課
2	東洋大学現代学生百人一首	広報課	該当無し	国内外の小中高生、大学生、大学院生など	短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のものもの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表。	広報課
3	ビジネス英語プログラム	国際課	④質の高い教育	ビジネスパーソン	①BEST Program ビジネスパーソンを対象に、英語でのプレゼンテーション、会議、交渉など特定のスキルにフォーカスした実践的講座。年5期開講。いずれのプログラムも本学で「Business English Communication」科目を担当する非常勤講師が担当。SGUで掲げる「全世代グローバル教育」一環として実施。	
4	Toyo Achieve English 出張英会話講師派遣(文京区施設)	東洋グローバルサービス株式会社(TUGS)	④質の高い教育	文京区民	(1) 文京福祉センター江戸川橋 初級、中級の2レベルにて60歳以上の文京区民を対象に3ヶ月ごとに全14回の英会話講座を提供。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言時期は休講したが、それ以外の時期は対面にて開講。 (2) 文京アカデミア講座 社会人を主な対象とした初級、中級者向けの英会話。毎週国内外のトピックスについて英語でディスカッションする。2020年度は全てオンラインにて開講。 (3) リアン文京障がい者支援施設 障がい者を対象に初級英会話を提供。1回90分の1回完結型講座。	国際課

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	事務局名
5	Toyo Achieve English 各種英会話講座	東洋グローバルサービス株式会社 (TUGS)	④質の高い教育	近隣住民	※ SGU で掲げる「全世代グローバル教育」一環として実施。 (1) 大人向け英会話講座 海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (2) ジュニア向け英会話講座 主に近隣の小・中・高校生向けに開講する、海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (3) 夏休み英会話講座 大人向け、ジュニア向けに夏休みに5日間連続で開講する英会話講座。 (4) 春休み英会話講座 大人向け、ジュニア向けに春休みに5日間連続で開講する英会話講座。 (5) 季節に関連した子供向け英語イベント ハロウィンやクリスマスの時期に近隣の子供向けの英語イベントを実施。	国際課
6	省インフラ研究会	PPP研究センター	①住み続けられるまち	民間企業	迫り来るインフラの老朽化、高齢化・少子化社会、国・地方の財政難の問題に正面から取り組み、持続可能なインフラ、公共サービスのあり方を追求するために、2013年9月に「省インフラ研究会」を立ち上げた。本研究会では、長期的な日本の都市構造、財政、人々の住まい方を見直し、「物理的なインフラに頼らず、質の高い生活を維持」できる新しい社会のあり方を検討。	
7	東洋大学重点研究推進プログラム「開発途上国における生活環境改善による人間の安全保障の実現に関する研究」	国際共生社会研究センター	⑥安全な水とトイレ	水衛生事業に関わるフィールド・スタッフ13名 (タンザニア)	北脇秀敏：国際学部国際地域学科・国際共生社会研究センター長。国際貢献と研究とを一体化させ、産官学連携も取り入れた実践的研究を行い、アジア、アフリカ、中南米、太平洋の開発途上国の生活環境の改善に取り組む。	
8	世田谷区との協働研究	福祉社会開発研究センター	③健康と福祉	世田谷区住民及び関係職員	森田明美：社会学部社会福祉学科・福祉社会開発研究センター員。地域で孤立しがちな子どもや家庭支援を社会福祉などの制度を使って支援するため、システムやプログラムの開発を行う共同研究を実施。母子生活支援施設、生活保護受給家庭、保育所利用家庭の親と子の困り感を理解するためのツールの開発、その活用を広げ、実践を積み重ねて当事者主体の実践を進める。当事者が課題解決に向けて意欲をもって暮らしを進める支援を展開し、自分らしい人生を送ることができる親子支援。	研究推進課
9	井上助成「被災地における子供と子育て家庭の居場所づくりに関する継続的な取り組み支援研究-当事者参加型支援モデルを手掛かりにして」	人間科学総合研究所・森田明美	③健康と福祉	東日本大震災の被災地で育った子どもや若者、子育て中の親	森田明美教授 (社会学部) 代表。東日本大震災被災地の子育て家庭の総合的な支援が可能となる居場所づくりが急務であり、被災地では、当事者参加型の居場所づくりは取り組まれることがなかった為、支援システム構築の居場所づくりを進めた。	
10	アウトリーチによる相談支援および相談員研修活動	人間科学総合研究所	③健康と福祉	全国各地の発達相談を担う相談員	心身の障害や疾病をもつ子どもや成人、被災地の子どもなど、相談機関に出向くことが難しい地域での相談支援、また発達相談に携わる教育・福祉施設職員に対する研修を実施。	
11	若手研究チーム「子どもの権利条約の具体化に関する研究」	人間科学総合研究所	③健康と福祉	本学教員・院生・一般参加者	子どもの権利条約の具体化とその課題を検討する公開研究会を実施し、社会啓発を行う。	

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	事務局名
12	発達臨床相談室	人間科学総合研究所	③健康と福祉	近隣住民、一般相談者	「人間の生涯発達に関する諸問題（カウンセリングを含む）について総合的な研究を行う」ことを目的。	研究推進課
13	ICT教育研究プロジェクト	現代社会総合研究所	④質の高い教育	本学教職員、学外有識者、小中高生、大学生、佐賀県武雄市小中学校	代表：松原聡教授（経済学部）、メンバー：本学教員4名、客員研究員2名、有識者6名。本研究ではICT教育推進の必要性とその効果を検証するスキームの研究を進めてきました。その上で、教育全般における教育の目標やアクティブラーニングといった教育方法と、ICT/AIの活用について総合的に明らかにしてきました。今年度はコロナ禍におけるオンライン教育について本学でアンケート調査を行い実証研究。	
14	スポーツの現代的課題（アスリートのセカンドキャリア）	現代社会総合研究所	⑧働きがい、経済成長	本学教職員、学外有識者、関連団体、競技者および関連者	榊原圭子准教授（社会学部）を中心とした本学教員5名が東洋大学でアスリートとして活躍し、現在は異なる職業に就いている卒業生を対象にインタビュー調査を行い、明らかになった課題について、その広がりを確認するためのインターネットのモニターを対象として質問紙調査を行い、分析。	
15	水環境ネットワーク研究会	現代社会総合研究所	⑥安全な水とトイレ	本学教職員、学外有識者、関連企業	SDGs実現に向けて水環境分野の役割は大きく、先進国では上下水道の公共インフラの老朽化・更新・災害への対策が課題。他方、途上国では上下水道の公共インフラの整備が不十分であり、公衆衛生上の観点からも治水と利水の両面からの対応が急がれる。アカデミックな観点から水環境分野を中心とし、ネットワーク産業における最適な施設規模や整備手法、各所の制度改正を多面的、具体的に提案。	
16	IRチーム・澁澤健太郎教授（経済学部）	現代社会総合研究所	⑧働きがい、経済成長	本学教職員、学生、大阪府	近年、日本では特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（IR推進法）が国会を通過し、複数の地方自治体が、カジノ運営などについて手をあげている。過疎化や高齢化、財政的に厳しい多くの地方自治体は、IR推進による経済効果や地域創生の役割を期待している。本研究は立候補している自治体を訪問し、意見交換や現地視察。	
17	「安全保障研究会」(Seeds支援研究)	現代社会総合研究所	⑩平和と公正	本学教職員・学外有識者、団体	国内外でインド太平洋地域におけるグローバルな講義の安全保障問題が重要視されてきている中で、当該地域の安定と持続的発展のための分析枠組みが必要であるという認識の下、当該「分析枠組みの構築」を目指す。	
18	公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	東洋学研究所	④質の高い教育	研究者、学生、教員、一般市民	広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所定例の研究発表例会、共同研究のプロジェクトにおける研究発表会やパネルディスカッション、講演会、シンポジウム等を公開。また、学外の研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催し、東洋学の研究公開。	
19	中核人材育成WEBセミナー	産学協同教育センター	⑨産業と技術革新	企業・自治体	自治体や企業の人材の将来を担う若手人材の教育・技術向上を目指した、最新の学問・技術の講義をWEB上で実施。	
20	特別講演会	現代社会総合研究所	④質の高い教育	本学教職員、学生、関連企業	本研究所では学外有識者を招き、幅広い知識や技術を学び、理解を深めるための情報を得る場として、特別講演会やシンポジウム、セミナーを開催。	

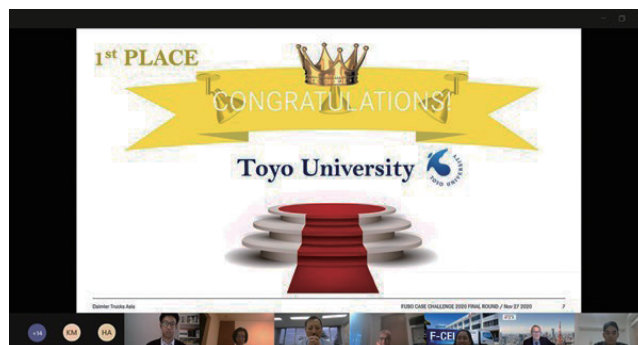
No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	事務局名
21	オンライン公開シンポジウム「歴史資料と中国華北地域—農耕・遊牧の交錯とその影響—」	アジア文化研究所	④質の高い教育	関係者、学生、一般市民	本公開シンポジウムは井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト（代表：千葉正史／文学部教授）を中心とした研究者3名による基調講演と2名のコメンテーターによる歴史資料と遊牧勢力について議論。シンポジウムにより、学生や一般の方にも幅広い知識や理解を深める場として活用してもらうこと、開催後にはACRI Research Paper Seriesとして冊子を刊行し広く内外の研究所、図書館に配布。	研究推進課
22	工業技術研究所 講演会	工業技術研究所	⑨産業と技術革新	企業、自治体、関係団体、一般市民	「運動による健康維持 ～健康寿命の延伸とそのメカニズム～」をテーマにした講演会をWeb上でのオンデマンド型オンライン方式にて実施。	
23	工業技術研究所 研究発表会	工業技術研究所	⑨産業と技術革新	企業、自治体、関係団体、一般市民	企業等との産学連携活動の推進を目的とする研究発表会をWeb上でのオンデマンド型オンライン方式にて実施。	
24	技術相談	工業技術研究所	⑨産業と技術革新	企業、自治体、関係団体	企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談を実施（無料、今年度は主にWeb会議ツールを利用しWeb技術相談として実施）。	
25	オンライン公開フォーラム「ビジネスチャンスを生む「僑郷」への帰国—中国浙江省青田県の事例から—」	アジア文化研究所	⑧働きがい、経済成長	関係者、学生、一般市民	「僑郷」をテーマに、井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト（代表：山本須美子／社会部教授）を中心とした研究者による報告と議論。「海外移住の歴史と現状—青田僑郷輸入商品の開業—」「帰国者のライフヒストリー分析—インタビュー調査から—」と題する報告が行われ、その後はオンライン開催の特性を生かした幅広い国籍の参加者を交えた質疑応答。	
26	井上円了記念博物館共催 企画展・動画公開「日本万国博覧会までの軌跡—EXPO'70開催50周年の回顧—」	アジア文化研究所	④質の高い教育	関係者、学生、一般市民	井上円了記念博物館共催、本学附属図書館の協力のもと、図書館とアジア文化研究所が所蔵する貴重資料など約50点を展示した企画展。今回の展示会ではコロナ禍のため、限定公開となり、多くの人に観てもらうため、展示内容の動画を解説交えて作成し東洋大学YouTubeにて公開。更に展示品とその解説を掲載した図録『日本万国博覧会までの軌跡—EXPO'70開催50周年の回顧—』を2020年12月31日に発行し、広く内外の研究所・図書館への配布。	
27	動画公開「日本万国博覧会までの軌跡—EXPO'70開催50周年の回顧—」12月開催のシンポジウムを見据えて 回顧・問題提起編	アジア文化研究所	④質の高い教育	関係者、学生、一般市民	公開国際シンポジウムを12月に控え、井上円了記念博物館の協力の元、アジア文化研究所の野間信幸所長ほか研究員2名、博物館学芸員の北田氏を迎え、改めて「日本の博覧会におけるアジア表象の推移—日本国際万国博覧会50周年を契機として—」を主題とする問題を提起。その様子を【ご挨拶】【概説】【対談】の3タイトルに分け、本学公式YouTubeに一般公開。学生や一般の方にも幅広い知識や理解、興味を深める場として活用。	
28	オンライン公開シンポジウム「日本の博覧会におけるアジア表象の推移—(1)西アジア・イスラーム世界の表象」	アジア文化研究所	④質の高い教育	関係者、学生、一般市民	博覧会におけるアジア表象の推移として、主に西アジア・イスラーム世界の表象にスポットを当て、イスラーム研究者らを中心とした報告と議論。本研究所研究員による基調講演と、本研究所客員研究員による「回教圏展覧会における『回教』の表層化について」及び「中国におけるイスラーム世界の地域表層—1900年代～1940年代を中心に—」と題する発表や、参加者や傍聴者を交えて討論。この内容はACRI Research Paper Seriesとしてまとめ、刊行し、広く内外の研究所・図書館への配布。	

No.	事業名称	事業実施主体	代表的SDGs	主な対象者	事業概略	事務局名
29	大学等と連携した観光経営人材育成事業	国際観光学部	該当無し	東京都在住・在勤で観光事業に従事している社会人	森下晶美：国際観光学部国際観光学科。2018年度より東京都と連携して事業を行い、2020年度にて終了。本学は、地域活性化に不可欠なインバウンド観光を中心に講義・ワークショップ・現地見学等を通じて、観光地域づくりに役立つ知識やネットワーク構築の機会を提供。	産官学連携推進課
30	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊（小瀬教授、川越総務課）	⑮陸の豊かさ	一般市民、本学学生・教職員	一般市民、本学学生・教職員が協働で川越キャンパス内の森林保全活動。また、学外者を対象とした木工教室、学外での環境イベント出展等の活動も。	川越事務部総務課
31	第25回 東洋大学・鶴ヶ島市連携スポーツ講習会	鶴ヶ島市	③健康と福祉	川越市および近隣の住民	小河教授（理工学部）が、『「ランニングのセルフマネジメント」～自分の適切なランニングスピードを知ろう～』をテーマに、ランニングタイムや心拍数から1人1人にあったランニングスタイルについて講習。	川越事務部教学課
32	子ども大学あさか	朝霞市教育委員会・特定非営利活動法人アンサーズネット・一般社団法人朝霞青年会議所・本学	該当無し	朝霞市の小学4～6年生	ライフデザイン学部は当事業の一員。子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもの育てるため、本学等を会場として、大学教授や地域の専門家等が講師となり、子どもの知的好奇心を刺激する「はてな学」「ふるさと学」「生き方学」という3つの分野の講義や実習体験を提供する事業。大学生がボランティアとして多数参加し、子どもたちを全面的にサポート。※2020年度はコロナ禍によりオンライン講座実施。	朝霞事務課
33	群馬県若い世代食育推進協議会実践活動	食環境科学部健康栄養学科	④質の高い教育	地域住民・板倉東小学校児童	群馬県若い世代食育推進協議会の活動の一環として、食環境科学部健康栄養学科井上広子教授を中心に、群馬県の食文化や食育について学ぶ運動に協力。2020年度はコロナ禍のため、健康栄養学科の学生の郷土料理についてまとめ、郷土料理について興味、知識を深めるための冊子を作成して小学校に配布。	板倉事務課
34	オンデマンド運動教室	板倉町・本学	③健康と福祉	板倉町中高年女性	板倉町住民の健康維持・向上を目的とした運動支援、特に女性の高齢期の転倒骨折予防の目的で、食環境科学部食環境科学科高橋珠実准教授を中心とした運動教室。2020年度はコロナ禍のため、オンデマンド配信型で実施。準備体操、筋力トレーニングなど60分の内容を計10回行った。	板倉事務課



社会貢献活動Pick up-①「国際学部・情報連携学部」

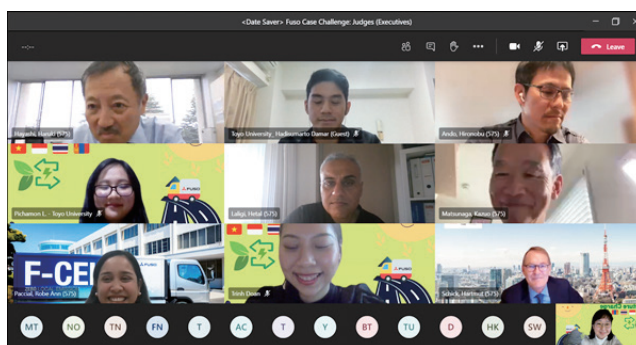
「ふそうケースチャレンジ2020」で GINOS と INIAD の学生が優勝



2020年11月27日に行われた「ふそうケース・チャレンジ2020」（ダイムラー・トラック・アジア主催）本選考にて、東洋大学 GINOS（国際学部グローバル・イノベーション学科）と INIAD（情報連携学部）の学生から成る「チーム東洋（指導：ルネ・カラズ准教授）」が1位に輝きました。「チーム東洋」がこのコンテストで優勝するのは二年連続です。

メンバーである Damar Masato さん（INIAD、4年）、Trinh Doan さん（GINOS、4年）、Pichamon Lertsakuncharoen さん（INIAD、4年）、そして Uyakhan-Egshig Molomjants さん（GINOS、2年）は、何カ月もの準備期間を経て、ふそうトラックの上にソーラーパネルを設置し、ブロックチェーン技術によるピア・ツー・ピアのエネルギー取引システムによって生成されたエネルギーを供給する「Future Charge」という、幅広い可能性を秘めたプロジェクトについてプレゼンテーションを行いました。

チームはこのコロナ禍にあっても、準備期間から大会当日に至るまで、オンラインを通じて、調整・相談・コラボレーションを行いました。メンバー4人はそれぞれ異なる国の出身で、4つのユニークな個性がクリエイティブと持続可能な未来への情熱で結ばれ、今回の優勝につながりました。



- 1位：東洋大学 “Peer-to-Peer: Energy Trading System”
- 2位：山梨学院大学 “Re-Truck”
- 3位：東京国際大学 “The Idea: Domino Effect Blueprint”

ルネ・カラズ准教授のコメント

コンペに参加する喜びは、功績よりも、努力することにあります。もちろん、その上で勝つことはさらに喜ばしいことです。

私は2年連続で、2つの才能あるチームを指導し、ビジネスプランのコンテストである「ふそうケース・チャレンジ2020」で優勝できて本当によかったと思います。GINOSとINIADは比較的新しい学部で、スタートアップのようなものなので、なおさらこの結果がとても誇らしいです。私たちは、イノベーション、起業家精神、多文化主義に焦点を当てた我々のプログラムがいかに優れているのか示さなくてはなりません。今回の受賞は、その小さな一歩です。

今年の課題は、三菱ふそうがさらにサステイナブル(持続可能)な未来に貢献するためにはどうすればいいのか、新しいアイデアを出すことでした。私は、学生の多くがサステナビリティについて非常に関心を持っていることを知っています。「チーム東洋」からコーチングを依頼され、最初の草稿を読んだとき、私は彼らが目標を達成するための手助けをしたいと思いましたし、大会に向けての「コツ」を教えたいと思いました。私は東洋大学で起業家精神について講義しており、クリエイティブなワークショップを開催したり、ビジネスコンテストやハッカソンで審査員を務めたりした経験もあります。そのため、何か彼らの役に立てることはないかと思いました。今年のコンペは100%オンラインで準備しましたが、そのことにより新たな課題とチャンスが生まれました。ほとんどの仕事は彼らがしてくれましたが、結果として「Future Charge」という素晴らしいソリューションを開発することができたことを嬉しく思っています。フランス語の古いことわざに「NEVER TWO WITHOUT THREE (2度あることは3度ある)」というのがありますが... 来年を楽しみにしています。



社会貢献活動Pick up-② 「国際観光学部」

国土交通省『水の里の旅コンテスト 2020』で 森下ゼミが「優秀賞」を受賞

国土交通省が主催する『水の里の旅コンテスト2020』の学生部門で国際観光学部の森下ゼミ（3年生）が「優秀賞」を受賞しました。

このコンテストは、全国の水源地域や水文化の保全等に取り組む地域等「水の里」の魅力を全国に伝え、活性化することを目指した「水の里応援プロジェクト」の一環として行われている旅行企画コンテストで、50を超える応募作品の中から見事、学生部門の「優秀賞」に輝きました。

応募した企画は「AT旅 五感で感じる北東北～温故知新・北東北の歴史などから過去、現在、未来を見据えよう～」をタイトルに、インバウンド向けの東北地方のアドベンチャートラベルを提案したもので、審査委員からは「これまでの観光に対する問題点、地域の状況や、対象とする旅行者層の動向などをよく調べており、なおかつチャレンジングな企画。費用や実際に対象となるインバウンド層を呼び込むには課題も想定されるが、これから必要とされる旅の様式だと考えられるので、何らかの形で実現されることを期待したい。」という高い評価を得ました。





社会貢献活動Pick up-③ 「理工学部」

第25回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会

2020年11月7日、鶴ヶ島市運動公園サブグラウンドにおいて、『「ランニングのセルフマネジメント」～自分の適切なランニングスピードを知ろう～』をテーマに、第25回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会を開催しました。

この取り組みは、2009年4月の川越キャンパス理工学部再編に伴い誕生した生体医工学科が、研究活動の成果をキャンパスの周辺地域の方々に役立てていただくことを目的とした企画で、埼玉県鶴ヶ島市教育委員会と共同で開始し今回で25回目の開催になります。

今回は、新型コロナウイルス感染症予防を徹底したうえで、小河教授(理工学部生体医工学科)がランニングタイムや心拍数から1人1人にあったランニングスタイルについて講習を行い、第1部10名、第2部6名の合計16名が参加しました。



第25回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会の様子



社会貢献活動Pick up-④ 「産官学連携推進センター」

東京都北区と連携し、Google マイビジネスへの登録支援

中挾 知延子教授(国際観光学部)は、「東京都北区と学校法人東洋大学との包括協定推進に関する覚書」(2019年2月14日締結)に基づき、東京都北区の令和元年度外国人ウェルカム商店街事業に協力し、Google マイビジネスへの登録マニュアルを作成しました。

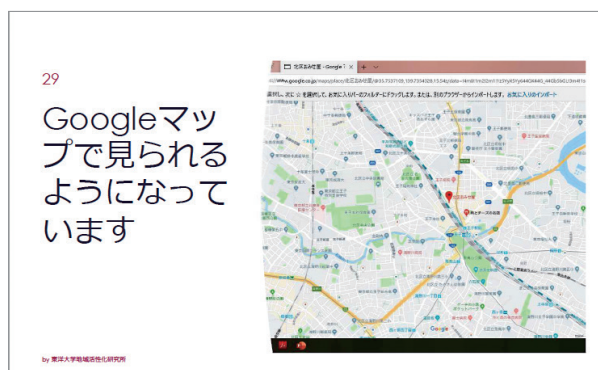
Google マイビジネスとは？

Google にお店の情報を登録することでお客様に見つけてもらいやすくなり、顧客増加につながるサービスです。登録は無料で、商品の写真や店舗の様子動画なども掲載可能で、お店のホームページ代わりとしても利用できます。

英語・中国語・韓国語など自動で70カ国以上の言語に翻訳可能であるため、外国人観光客でも簡単にお店を見つけることができます。

Google マップと連動しているため、お客様が今いる場所からお店まで自動で案内してくれます。

2020年8月17日北区公表 東洋大学の学生が複数の商店街に直接伺い、マニュアルを用いて多くの店舗で登録を行うことで、個店の魅力発信につなげることができました。





社会貢献活動Pick up-⑤ 「産学協同教育センター」 2020 年度中核人材育成 WEB セミナー

(1) 2020年度中核人材育成 WEB セミナー 「SDGs から考える企業のエネルギー問題」

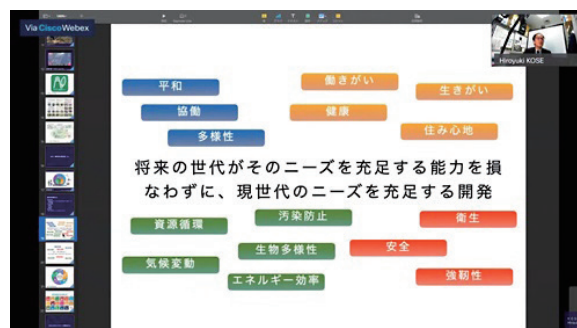
産学協同教育センターでは、12月5日(土)に2020年度中核人材育成 WEB セミナー「SDGs から考える企業のエネルギー問題」を開催しました。

2015年9月に国連で採択された文書「2030アジェンダ」において、17の目標と169のターゲットからなる2030年に達成すべき「SDGs」(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)が掲げられました。

「SDGs」は企業等組織の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)における ESG (環境、社会、ガバナンス) の取り組みにもつながり、企業価値の向上にも役立てられています。

このセミナーでは、SDGs を企業の取り組みとして採り入れたい方を対象に、SDGs におけるエネルギーを中心とした目標とターゲットを見ながら、企業が取り組むべきエネルギー問題について考えることを目的として開催されました。

当日は計30名の方が参加し、受講者からも活発な質問、意見交換がなされ、大変盛況のうちに終了しました。



(2) 2020年度中核人材育成 WEB セミナー 「消費者行動とマーケティング」

当センターでは、2021年1月14日(木)～1月20日(水)に2020年度中核人材育成セミナー「消費者行動とマーケティング」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴って生活様式が一変し、これまで順調に拡大してきた「コト消費」需要に陰りが出てきました。旅行やイベント・コンサートといった「コト消費」代表格への支出減少から、「モノ消費」に回帰するのではないかといった声も聞かれます。しかし実際には、景気の悪化が懸念される現状で「モノ消費」需要が拡大するとも思えません。ウィズコロナ時代にあっても、やはり「モノ消費」よりも「コト消費」を重視する必要があるようです。

このセミナーでは、たくさんの具体例を挙げながら「コト消費」を理解し、「トキ消費」や「イミ消費」といった新しい消費行動を表す言葉も交えながら、見えにくい消費者心理と、目に見える消費行動に基づいた新しいマーケティングについて考えることを目的とした開催されました。

当日は計41名の方が参加し、受講者からも活発な質問、意見交換がなされ、大変盛況のうちに終了しました。

The image shows two screenshots of a presentation slide. The left slide is the title slide, and the right slide is the table of contents.

Left Slide (Title):

- 消費行動とマーケティング
- 東洋大学 総合情報学部
武市三智子

Right Slide (Table of Contents):

- 本日の内容
- 1. はじめに
- 2. 「モノ」消費と「コト」消費
- 3. 新型コロナウイルスによる消費者行動の変化
 - コロナ禍における買物行動
 - コロナ禍における消費者セグメント
 - 巣ごもり消費の7タイプ
- 4. 「モノ」発想から「コト」発想へ
 - 市場を行動で捉え直す
- 5. 新しいマーケティング・フレームワーク
 - 新しいカスタマー・ジャーニー

地域活性化活動支援事業の概要

2016年度、社会貢献部門の活動における特徴として、地域活性化活動支援事業を新たにスタートさせた。2020年度は13企画応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となった。感染症の影響で現地へ向かうことができず、6企画実施を中止したため、2020年度は7企画が活動を行った。概要は以下のとおりである。

1. 事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

2. 支援金額及び採択件数の目安

- (1) 地方創生コース：キャンパスから100km以上の地方において、地域活性化活動をするものを対象。1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、30万円を上限とする。
- (2) 地域貢献コース：キャンパスから100km以内の地域において、社会貢献・地域貢献をするものを対象。1件当たり総活動費の最大50%以内で、かつ、5万円を上限とする。

3. 対象となる活動

国内の過疎地域、限界集落、農山村だけでなく、都市課題の解決や災害支援なども含め、国内外の多様な地域における教員と学生が共同して行う地域活性化活動。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

3. 年間スケジュール

2019年12月2日～2020年1月31日	募集期間
2020年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：13企画)
2020年3月26日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知(採択数：13企画)
2021年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2021年3月16日	報告会の実施(中止6企画を除く、7企画分報告予定)
2021年3月末まで	支援金額の支払い

4. 2020年度実績

応募企画数	採択企画数
13	13 (内6企画中止)

2020年度 地域活性化活動支援事業一覧

NO	教員名	学部名	活動名	活動場所
1	田中 雅敏	法学部	香川県さぬき市とアイゼンシュタット市（オーストリア）との姉妹都市交流協力	さぬき市 （オンライン実施）
2	箕輪 允智	法学部	矢祭町内川地区と箕輪ゼミの連携による地域復興・活性化の取組	オンライン交流のみで現地での活動は中止 （助成金なし）
3	左地 亮子	社会学部	熊本県阿蘇地方における地域活性化調査活動	中止
4	長津 一史	社会学部	在住外国人と協働する宮城県気仙沼の復興活動の支援	気仙沼市
5	佐藤 亜樹	社会学部	愛媛県大洲市でのみかん採取活動を通しての地域活性化支援	中止
6	岡本 郁子	国際学部	佐賀市中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援	中止
7	藪長 千乃	国際学部	能登ゼミ（「なにもない」意識を変えるヴィレッジ・プライドの共創）	中止
8	佐々木 茂	国際観光学部	南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅱ－アドベンチャー・ツーリズムの開発に向けて	南会津町
9	佐野 浩祥	国際観光学部	富士宮市における食文化振興プロジェクト	富士宮市
10	須賀 忠芳	国際観光学部	広島県呉市御手洗地区における地域活性化支援事業	呉市 御手洗地区
11	森下 晶美	国際観光学部	沖縄及び諸島における地域観光活性化のための観光人材育成と商品開発サポート（アドベンチャートラベルを用いて）	中止
12	神野 宏司	ライフデザイン学部	世代間交流型健康体操教室による地域在宅高齢者に対する健康づくり活動	朝霞市 （オンライン実施）
13	細谷 洋子	ライフデザイン学部	徳島西部防災拠点におけるレクリエーション活動支援	中止

香川県さぬき市とアイゼンシュタット市（オーストリア）との 姉妹都市交流協力

代表教員：田中 雅敏

法学部 法律学科

■活動内容

本年度の活動は、2019年度(採択1年目)の活動を発展させるものであった。香川県さぬき市は、唯一、海外都市としてオーストリア共和国・アイゼンシュタット市と姉妹都市協定を結んでいるが、その姉妹都市交流は数年来途絶えている。

2019年度は、活動初年度ということで、さぬき市の姉妹都市交流史や市民レベルの国際交流の意識の水準などを知るところから始めた。その上で、オーストリアを題材にした親子イベント(オーストリアのクリスマス飾りの工作)を実施した。2020年度は、前回好評だった親子イベントを再度実施する計画を立てていたが、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大のため、現地入りをする事が叶わなかった。

そこで、さぬき市と協議し、現地入りをせずにさぬき市民にオーストリアのことを伝え、異文化理解のきっかけを提供できる取り組みとして、さぬき市が運営しているコミュニティ放送(ケーブルテレビ)用の番組を制作し、それを放送してもらうこととした。

具体的な内容は後述するが、クリスマス文化を切り口にオーストリアを紹介するため、放送時期は2020年11月と決め、ゼミ生6名と教員1名で、2020年9月から10月にかけて制作した。

■活動の成果概要

①地方自治体は、国際交流にあてられる職員の数が限られており、さぬき市も例外ではない。昨年度(採択1年目)に引き続き、さぬき市の国際交流事業の実績になるような取り組みをすることを目的とした。

当初は、昨年度も好評だった、小学生をターゲットとしたクリスマスリースの親子工作イベントを予定していたが、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症が拡大し、現地入りすることは叶わなかった。そこで、遠隔でも可能な活動として、さぬき市コミュニティ放送(SCN)を通じた発信をすることとした。

番組は2本制作した。1本目は、さぬき市がオーストリアのアイゼンシュタット市と姉妹都市であることを紹介する5分番組である。これは、昨年度の「姉妹都市パネル展示」(於：さぬき市役所本庁舎ホール)を発展させたものである。2本目は、オーストリアのクリスマスを題材とし、キリスト教の精神が根づくオーストリアの文化を紹介する15分番組である。異文化理解のきっかけを提供することを目的とし、同時に、当初実施予定だったクリスマスリース工作の手順を映像で紹介するコーナーも設けた。

番組は、以下の日程で放送された(いずれも、2020年、さぬきデジタル12CH)。

1. 「教えて！オーストリア！」(5分番組)

11月17日(火)・18日(水)・19日(木)・20日(金) 一日6回リピート放送

2. 「オーストリアのクリスマス～姉妹都市アイゼンシュタットに思いを馳せて」(15分番組)

11月22日(日)・23日(月)・24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)・28日(土) 一日3回リピート放送

本取組は、割ける職員の少ないさぬき市の国際交流を、大学の知と大学生の力をもって、遠隔からサポートするものであり、本学の社会貢献活動に資するものであった。

②当ゼミは、ゼミ生のほとんどが法学部主催のドイツ研修参加者であり、ドイツ語圏に生活した経験を持つ、オーストリア研究のゼミである。ドイツやオーストリアの祝日のほとんどがキリスト教由来であること、大聖堂・教会をはじめとする街並みを構成する建造物にキリスト教の精神が満ちていること、個の多様性を重んじて社会が生き生きとしている様子などを実体験として感じている。そのような自分たちの経験をもとに、さぬき市民に対して異文化理解のヒントを提示し、また自分の住む市の国際交流にさらに関心を深めてもらうことを狙いとし、番組を制作した。番組は、プロが作るような本格的なものではないが、プレゼンテーションソフトを用いてスライドを作成し、そこにナレーションを別撮りして当てはめる作業、あるいは、クリスマスリース工作のパートでは、実際に工作の一部始終を実演した動画を撮るなど、班にわかれて担当した。

後日、さぬき市役所の担当者から、市民の声(感想)を届けていただいたので、紹介する：

「いろんなコーナーがあって楽しい」「飾りを作ってみたくなった」「オーストリアに行きたくなった」「秘書課にあった花器はオーストリアのものだったんだ。知らなかった!」「見ました!学生が制作したとのこと凄いですね」「オーストリアの世界遺産や、世界で住みやすい街とか、サウンドオブミュージックのロケ地だったことを初めて知りました」「去年の工作も楽しかった。オーストリアに行きたくなった!」

まだほんの数歩ではあるが、国際交流への意識の高まりの萌芽を感じることができた。

③今年度は、大学の教室(大学が指定する登校日のみ)や甫水会館内のスペース等をお借りして、必要最低限の人数に限定し、かつこまめな消毒や常時換気などに留意しつつ、動画の撮影や音声の収録を行った。動画の編集は、ゼミ生が自宅で作業した。動画編集ソフトはゼミで用意した。番組で使用するBGMの権利処理関係については、SCNの職員さんからレクチャーを受け、また本学法学部の知的財産法が専門の専任教員からも助言をもらい、公共放送で番組を発信するときに必要な法的知識も得ることができた。大学の社会貢献活動に資する、健全で、かつ、若い柔軟な発想で、活動ができたと自負している。



矢祭町内川地区と箕輪ゼミの連携による地域復興・活性化の取組

代表教員：箕輪 允智

法学部 企業法学科

■活動内容

当初計画では、

「本活動は、いわゆる PBL(Project Based Learning) の形を取ったゼミ活動である。Project として取り組んでいくべき課題は、「福島県矢祭町という人口減少に直面した地域で、数年間放置された小学校の廃校について周辺住民、及び町全体の合意を得つつ地域の活性化に資するように活用すべき策はないか。またその策が実現するように周辺住民と自治体行政と連携して取り組んでいく」ということです。そのために、①地域の自治体行政、地域住民と連携して調査活動(事前調査、現地調査含む)を行い、②調査をもとに廃校活用プランを構想し、③自分たちで作ったプランの実施に直接参加していくこととなる。

これらの過程の中で、廃校活用をはじめとする様々な地域活性化に向けた全国各地の事例を学習していくと共に、具体的にプランを構想・実施していく過程の中で直面するであろう、合意形成や費用ねん出の難しさをはじめとする様々な課題に立ち向かっていく困難さや葛藤を、地域住民と地域の自治体行政の職員と共に考え、体感していきたい。

廃校の利活用という課題は当該地域で課題となっているものでもあるが、全国的に人口減少が進む中で公共施設の再編が必要となる中で、同様の課題を有するところも少なくない。そのような課題である中で、学生が参画することで一定の成果ないし進捗をみることができるのであれば、当該地域のみならず、社会的なインパクトともなると考えられる。

2019年度は他機関(福島県「大学生等による地域創生推進事業」) 支援も活用し、計3回の訪問と白山祭出店による地域産品 PR などの活動を行い、4つの廃校活用案の提案を地域に対し行った。また、活動の中では地域の見どころスポットの探索や、清掃活動、台風19号の影響により詰まってしまった用水路の土砂の除去作業などを実施し、地域からも一定の評価と信頼を得られたものと考えている。

2020年度はさらに発展的な活動として、地域づくりに具体的に資する活動を行っていきいたいと考えている。具体的には、廃校利用案のブラッシュアップ、内川小学校周辺地域での植樹・植花活動を通して地域の見どころづくり、内川地域を拠点とした見どころ探索ルートマップづくり、アクティビティ開発などである。廃校のリフォーム・リノベーションの実施については多額の資金を必要とするため、箕輪ゼミの活動だけで解決するのが難しい。一方で、活動実績を積み重ね地域における信頼を高めていくことが地域内での合意形成を進めていくことや、国・県などの補助事業が利用できる可能性といったものは、いつ生じるかわからないという側面もある。事前に十分な準備として様々な案を構想していたり、実績となる活動を積み重ねていくことが、チャンスが発生した場合にいち早く効果的な取り組みができるようにしていくためにも重要であり、2020年度はそのような意味でも重要な意味を持つ活動になってくると考えている。」

としていたが、コロナ禍で現地訪問を行うことができなかった。そこで現地訪問をすることが

できるようになった場合、廃校校舎などを利用して、すぐに現地活動に取り組むことができるよう、前期はその活動提案の作成、後期は提案に基づいて現実的に実施できるように、動画を作成しての活動案内、及び受け入れ先とその動画を一緒にみることで、今後の活動展開を考えることとした。

■活動の成果概要

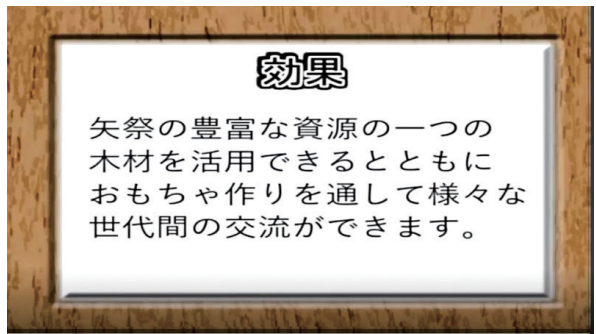
本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地での活動を行うことができなかった。その中でもやれることを考えた結果、前期は「新型コロナウイルス感染症拡大が収束した後に、学校や地域資源を用いて地域の子どもたち等と一緒に活動できること」をテーマに学生を4班に分け、それぞれの提案を作成し、提案内容について受け入れ先の矢祭町、やまつり清流の里協議会の方々に対してオンラインで発表・交流会を実施し、その提案内容について議論を深めた。

後期は前期の提案内容をもとに、それらを具体化させるため、各班で2本(計8)本、実演も踏まえて作成し、オンラインでの現地との交流、映像の提供を行うこととした。動画の作成にあたっては、今後交流を想定している矢祭町内の小学校児童でも理解でき、廃校拠点としたアクティビティ実施の参考になるようにしていくことを想定した。作成した動画の主なテーマは次の通りである。

- ・砂金採り実演動画
- ・生物・草等の標本づくり
- ・地元の木材を想定した椅子づくり
- ・地元の名産品であるゆずの加工品作成(芳香剤、ケーキ、ゆずドリンク)
- ・魚つかみ取り・処理
- ・飯盒炊飯、包丁を使わないバーベキュー準備
- ・枯山水づくり
- ・地元の木材を想定した木のおもちゃ作り


現地との交流は、それぞれの班が1本目、2本目を完成させた際に2度 Webex を用いて意見交換・地域との交流を行った。意見交換においては、現地の状況を踏まえたアドバイスや実現可能性、改善点などについて議論した。

現地の矢祭町においては日常的に通学可能な範囲に大学等の高等教育機関が無く、高校も町内に無いということもあり、高校進学の際に福島市などで下宿通学する高校生も一定層いるとのことある。すなわち、大学生の年代にあたる層の人口が抜けてしまっている状態であり、また、小学生や中学生の目下の成長モデルとなる存在が地域に居ないというものである。このような状況で、大学生と小学生等が触れ合って一緒に活動できるようなことが地域からも要望されており、それらの活動を行うことは、いわゆる条件不利地域における社会貢献活動であるとも考えられ、学生の参画が非常に効果的であるものと言えるだろう。今後も、当初の活動目的・対象であった廃校校舎を拠点として利用し、地域との交流を深めていくことが矢祭町での地域社会への貢献、中山間地域、条件不利地域のことを実感としてなかなか得ることができない学生にとっての有効な体験学習になると考えられる。



今回作ったのはこの3つ!!

1. ゆずの芳香剤
2. ゆずチーズケーキ
3. ゆずドリンク




在住外国人と協働する宮城県気仙沼の復興活動の支援

代表教員：長津 一史

社会学部 社会文化システム学科

■活動内容

今年度は、新型コロナ禍のため現場での活動は11月半ばの1回に限られた。具体的な活動は、以下の通り。

11月14日、気仙沼港岸壁にてインドネシア人船員が乗船する遠洋延縄漁船を訪問。24人のうち20人がインドネシア人である。これらの船員から、遠洋漁船での就労環境について話を伺った。後、気仙沼まち・ひと・しごと交流プラザ「ピアセブン」にて、インドネシアパレード組織者の鈴木敦雄氏(気仙沼市商工会議所)から、コロナ感染状況下での同市の国際交流事業について話を伺った。同時に、来年度の同パレードへの参加可能性についても尋ねた。なお、8月1日予定されていた同パレードはコロナ感染拡大のため、中止になっている。後、陸前高田市の「東日本大震災津波伝承館」を訪問。その後、同市市議の福田利喜氏に同市の復興の進捗状況ならび震災後の大学ボランティアの受入状況について話を伺う。11月15日、気仙沼市議・三浦友幸氏から同市の復興の進捗状況と震災後に生じた他の社会問題について検討会をおこなった。同市議によれば、震災後10年近くになり、家族の崩壊、子どもの貧困、不登校の増加等の問題が顕在化するようになっている。これらに対するボランティアが今後必要になるとのことであった。後、気仙沼市内水産加工場で働くインドネシア人技能実習生(3組)から、新型コロナ下での就業状況とそれに関わる悩みについて話を聞いた。SNSで本学学生との関係を構築。今後も協力しあうことを約束した(参加者計14人、うち本学学生12名、教員2名)。

■活動の成果概要

本活動の目的は、本学学生人が気仙沼の市民・外国人と協働して気仙沼の復興活動を支援することにある。現在気仙沼市には、632人の外国人が居住する。東日本大震災から8年を経た同市では、復興と町おこしのために外国人との協業が不可欠になっている。なかでも最大の外国人人口229人のインドネシア人技能実習生との共生関係を構築することは、同市にとってきわめて重要な課題になっている。

本活動はこうした課題を念頭に、現場で①「インドネシア人・市民との対話・交流」②「町おこし事業(港まつり)への共同参加」③「知的インフラ(図書館)の整備」の3点に重点をおいた活動を行う予定であった。しかし、新型コロナ禍のため現場に出かけることは困難であった。今年度は、新型コロナ感染状況が若干、おさまりをみせた11月に1度、現地を訪問し、①「インドネシア人・市民との対話・交流」に貢献するまでにとどまった。訪問時には、現地の水産加工会社から協力をえて、インドネシア人技能実習生6名と面談し、日本での就労にかかる困難や市内での生活にかかる問題点などについて話を伺った。同時に、気仙沼市商工会議所のインドネシアパレード組織者、気仙沼市・陸前高田市市議を訪問して、外国人技能実習生雇用と震災復興の経緯・現状について話を伺った。昨年度同様、震災後の若年人口の減少が顕著な同市では、本学学生の精力的な参加は地域の人びとに大きく歓迎された。とりわけ来年度の港まつり「イ

インドネシアパレード」への参加には強い期待が寄せられた。新型コロナ感染が終息した後は、ぜひとも訪問したい。短いながらも、インドネシア人技能実習生との直接対話を通じて得られた知見は、今後、本学学生が気仙沼市の外国人と協働して復興・町づくりを進めていくうえで大きな意味を持つ。

東京から気仙沼市への交通アクセスは決して良いとはいえないが、今年度はGo To事業、JRの旅行活性化プランにより学生の旅費の負担は軽減された。残額については、参加学生が自費努力によりプロジェクトに参加した。本プロジェクトによる資金面での支援は、そうしたかれらのボランティア精神を支える重要なサポートになっている。かれらの参加は、震災から10年を迎えボランティア・来訪者が減少している同市の「復興後の町づくり」を支援するうえできわめて大きな価値を有する。



南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅱ ーアドベンチャー・ツーリズムの開発に向けてー

代表教員：佐々木 茂

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

佐々木茂ゼミナールでは2018年度より、福島県南会津町をフィールドに活動を行っている。2020年度は新型コロナウイルスの影響で現地を訪れる回数が激減してしまったが、その分Web会議システムを利用して地域とのコミュニケーションを継続的に行った。農業をテーマに絞り南会津町の特産品である南郷トマトの付加価値向上を目指して4月から論文制作を開始した。その結果、論文制作によってブランディングを用いた地域の新しい魅力創出の提案を町に行うことができた。来年度は昨年に現4年生が提案した内容と併せて実現に向けた活動を進めたいと考えている。

■活動の成果概要

佐々木茂ゼミでは、新型コロナウイルスの影響により、予定していた南会津町役場や地域住民へのヒアリングや、現地の見学等が困難であった。そこで、南会津町の総合政策課の星良菜氏ご協力のもと、南会津町の道の駅や木賊地区の温泉、南郷トマトの選果場等の写真撮影や現場状況をヒアリングした。南会津町の南郷トマト生産組合副会長とJA会津よつばの職員から、南郷トマトの生産や選果についてと課題について話し合う場を設け、ヤンマー論文制作にあたり、南郷トマトブランドの消費者と生産者側に理解の相違があると仮定することになった。南会津町の宿泊業経営者らからは、南会津町の問題抽出から課題解決までのプロセスの考え方や露地栽培について御教示いただいた。

11月に南会津を訪れ、南郷トマトの提案が現実的に可能かどうかについて確認の目的で視察した。

1日目は南郷トマトを生産している(株)アグリファームを訪問した、トマト農家から栽培に関するご説明をいただいた。論文では商品にすることができない緑色のトマトをブランディングするという提案を行ったが、実際にここで初めて緑色のトマトを食べさせていただいた。次に木賊集落を訪問した。ゼミでは福島県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に参加しており、中山間地域である木賊集落の復興に取り組んでいる。木賊集落が抱える問題としては、観光資源である温泉が低温のため灯油を購入して沸かしているが、地域住民からの費用の徴収が困難になり、赤字が続いている現状だ。今回の訪問ではまず、集落の住民に集まってもらい、温泉を沸かすための小水力発電システムと建設のためのクラウドファンディング(CF)を提案した。CFでは地域の物品を返礼品にしたいと考えているため、地域の手作り工芸品も確認した。そして、ここでのディスカッションを機に地域の人たちが全国の先進地域の視察に行くこととなった。次に、南会津町の職員や事業者が集まっていたいただき、私たちの論文を発表した。たくさん指摘もいただき、新規提案について好感触を得た。

2日目、農産物の加工を行っている(株)土っ子田島ファームを訪問。湯田社長によると緑

色のトマトの商品開発は既に行っていた。しかし生産量も取り扱いも少ないのだという。しかしこれは緑色のトマトの希少性でもあるためブランディング戦略を活用できると考えている。湯田氏も緑色のトマトのブランド化に興味を持っていただいたため新規提案の実現可能性を感じることができた。

合宿の際に、役場の方から南会津町館岩地区で、コロナの影響によりイベントの中止が相次ぎ、昨年度収穫した蕎麦が43t残っていることを伺った。そこで、館岩地区の蕎麦の在庫超過についても検討することにした。蕎麦以外の活用方法を考え、新しい町の商品としての提案を行った。佐々木茂教授ご協力のもと、(株)インテリジェントプランナー代表取締役原田祐介氏と面談し、同社と館岩地区が連携をし、ガレットを使った新商品開発について提案をした。現在は、蕎麦粉の状態や製粉方法について南会津町の製粉会社と意見のすり合わせを行っている。



第30回ヤンマー学生懸賞論文の部 優秀賞受賞

富士宮市における食文化振興プロジェクト

代表教員：佐野 浩祥

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

本年度はコロナ禍の中での活動を余儀なくされ、4月から11月にかけては、富士宮市の現状や食のまちづくり事例などについて文献調査およびオンラインでのインタビュー調査を中心に進めた。12月12日に6名の学生が日帰りでの現地調査を実施し、富士宮市観光協会や富士山世界遺産センター等の施設を訪問しヒアリングを実施したほか、レンタサイクル(E-Bike)の試乗、中心市街地の視察などを行った。その後、学生による食文化振興と中心市街地活性化に関する提案をとりまとめ、2021年1月27日、地元関係者に広く声をかけ、オンラインでの報告会を実施した。報告内容については好意的な反応が多く、また、今後の活動についての意見も複数いただき、来年度の活動に向けた素地をつくることができた。

■活動の成果概要

本年度の現地調査は、12月12日の6名の学生による日帰り調査にとどまる。富士宮市観光協会において観光ボランティアガイドによる説明をうかがい、富士山世界遺産センターでは学芸員による施設説明を受けた。うち3名は、市街地の宿泊施設(ゲストハウス掬水)にてE-Bikeに試乗し、E-Bikeによる広域観光の可能性について検討するために様々なルートをまわった。他の学生は、朝霧高原などの郊外の観光エリアに移動し、道の駅あさぎり高原や、まかいの牧場など、観光施設の担当者に広くインタビュー調査を実施するとともに、訪問者に対するアンケート調査(年齢・性別・出発地・観光目的・訪問場所など)を実施し、もともと郊外部に偏重している観光客の市街地への誘導を図るための潜在的マーケットについて把握することができた。また、浅間大社をはじめとする市街地の観光資源や商店街などの視察調査を実施した。

以上の現地調査に加えて、6月30日に実施した富士宮市観光協会事務局長の土井一浩氏に対するインタビューでコロナによる富士宮市観光への影響や市・協会によるコロナ対策事業について把握し、10月6日に実施したゲストハウス掬水の田村琳子氏に対するインタビューでコロナによる宿泊事業への影響と対策、民間事業者による連携状況について把握することができ、以上の一連の調査にもとづく調査報告を通して、今後の取り組みに向けて富士宮市のカウンターパートとの信頼関係を醸成できたこと、そして学生によるビジョンや社会実験の提案に対して、ある程度の地元側の理解を得ることができたことが、昨年度に引き続き、今年度の活動の主な成果と言えよう。学生が主体となることによって、様々な関係者と接触することができた他、学生ならではの斬新なアイデアによって地元住民の関心をひくことができた。また、学生中心の発表会を実施することで、地元新聞にも大きく取り上げていただき、地元住民にも広く周知することができた。



広島県呉市御手洗地区における地域活性化支援事業

代表教員：須賀 忠芳

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

ゼミ活動として、指導教員(須賀)が引率し、ゼミ学生3年次15名で活動に取りくんだ。主な活動地域は、瀬戸内海交通の要衝で、江戸期港町の景観を今に伝え、重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている広島県呉市御手洗地区である。活動目的は、過疎化が急激に進行する当地区の活性化のために何が必要かを考察するとともに、実現可能な観光施策を提言することである。当該目的の達成のために、11月6日(金)から8日(日)にかけて現地調査を行い、現地を概観するとともに、現地の状況について、聞き取り調査を行った。また、事前に考察した内容を現地で発表することにも取り組んだ。現地での調査内容をふまえて、12月11日(金)には、調査結果の発表報告会を実施した。あわせて、年度末には、調査内容を含めた論説をまとめることができ、今後、地元の方々に提示させていただく予定である。

■活動の成果概要

現地調査では、地区内を概観するとともに、呉市文化振興課担当者、地元の「重伝建を考える会」会長を含む役員の皆様から聞き取り調査を行い、豊富な歴史文化資源を持ちながらも、地域住民の都市部への流出と少子高齢化のために地域の過疎化が進む当地の概況について認識を深めることができた。現地調査をふまえて、より現実的な、地域活性化のための観光施策の提言に取り組み、12月11日(金)には、調査に関する成果と観光施策提言につながる内容を発表する調査発表報告会をオンライン形式で実施した。当該発表報告会には、新原芳明呉市市長にもご参加いただくとともに、前出の文化振興課担当者に加えて、呉市産業部副部長、呉市総務部秘書広報課課長、呉市産業部観光振興課課長補佐、呉市産業部海事歴史科学館学芸課学芸員ら、当地の地域振興、観光施策に直接関わっていらっしゃる呉市役所の皆様、御手洗地区の地域住民の皆様、また、呉市東京事務所所長、及び、呉市とゆかりも深く地域活性化において共通の課題を有する、京都府舞鶴市、長崎県佐世保市、神奈川県横須賀市の各東京事務所の皆様にもご参加いただいた。その際、学生発表について、皆様からご講評をいただき、学生の提示した観光施策について、学生目線からの興味深い内容であるとともに、実効性のある施策の提案であるとして、評価していただくことができた。その後、当該発表会において頂戴したご意見をふまえて観光施策提言内容を精査し、年度末に刊行したゼミ論集において、活動全体についてまとめることができた。今後は、当ゼミにおける提言内容を地元の方々に提示させていただき、改めて検討いただく予定である。

こうした取り組みは、過疎地域における観光施策支援としての本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、大きな成果を得るものともなったと思われる。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかけられる強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。同時に、学生が提示した観光施策について、当地の皆様からも大いに関心を持って

ただくことができた。次年度以降は、当該施策の実践について、本学学生がどのように取り組むことができるかを課題として、取り組んでいきたいと考える。

当事業については、交通費・宿泊費等は自己負担で、学生の経済的負担は大きなものがあった。こうした中で、今回、交通費・宿泊費について、補助、支援いただくことで学生の経費負担分も大きく軽減され、学生にとって、より参加しやすく、教育的効果は各段に高まったものと思料される。



世代間交流型健康体操教室による 地域在宅高齢者に対する健康づくり活動

代表教員：神野 宏司

ライフデザイン学部

健康スポーツ学科

■活動内容

2020年10月から2021年1月に計7回、地域在宅高齢者のグループと連携し17名の高齢者に対して非対面オンラインでの健康体操教室を開催した。各回の開催に先立ち教員と学生がストレッチ体操、レジスタンス体操、音楽に合わせて行う簡単なリズム体操、および歌いながら左右の手足を非対称に動かす認知機能刺激プログラムを考案した。その上で動画DVD、解説資料を作成し配布した。各回実施時には学生がオンライン上で説明および見本を行い、同時に説明する学生以外の学生は参加者の実施の様子を分担して確認し、体操間に設けたグループワークタイムにプログラムを習得できるよう個別にサポートした。

■本活動を実施する意味

地域の健康を考える上で近年ソーシャルサポート、ソーシャルネットワークの影響、重要性を指摘する研究が多くみられる。大都市圏に居住する高齢者は地方在住者と比較してソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク機能が弱い傾向にあることから、孤立化・閉じこもりの危険性が高く、対策の必要性が強く言われている。本学は社会福祉、地域保健の分野で大きな実績を有している。この都市部における高齢者の孤立化、閉じこもり対策という課題は地域貢献を重要な課題と位置づける本学、本学部の教員ならびに学生にとって貢献できるテーマと考えられる。そのような背景を踏まえ、本活動は健康の維持に関心が集まりやすい体操を高齢者と親和性の高い、孫世代に当たる学生とともに実践することを通じてセルフケアの技術の習得を促し、さらに参加者が自身の近隣住民に対して啓発を行うことを通じて地域でのソーシャルサポート、ネットワークの構築を計る意図を有しており、本学のこれまでの実績に新たな貢献が出来るものと考えている。

活動の一つは参加者自身の健康に役立つ健康課題をテーマとして知識の提供である。二つ目に日常生活でできる解決策の提示とそれを習得する機会の提供である。本活動において教員と学生が各回、レジスタンストレーニング、ストレッチングおよび音楽に合わせて左右非対称に手足を動かす体操プログラムを指導および習得を補助するプログラムを行った。参加者は平均年齢70歳という高齢者であることを理解しつつ、習得過程での失敗を明るい雰囲気と和ませることを学習している本学部の学生との交流でこそ行えうる講座の形式であったといえよう。本年度の活動は新型コロナウイルス感染症の流行拡大への対応策としてオンラインを通じた指導を試みた。ただ、一方向での指導では体操の要点が伝わったかを確認できないこと、またソーシャルネットワークを促したいという意図を満たせないことから双方向性オンライン形式をとり、一回90分の教室時間中に学生と参加者が小グループに分かれて要点の理解や質問への回答、雑談をするための時間を3-5回設定した。小グループのメンバーは当日冒頭の顔合わせを設定し、その日はグループメンバーを固定すること、学生はアドバイス情報をトヨネット

エースに共有することによりアドバイスに一貫性をもたせるように配慮した。また、毎回参加者に対して指導する学生、フォローした学生に対する評価コメントをアンケートフォームに書き込むよう依頼した。その書込を学生と振り返りに活用した。参加者からは「外出、集合形式で実施した場合に新型コロナウイルスに対する感染が不安を伴う昨今、体を動かしたいものの何をどうして良いかわからないという中で良い機会となった」、「学生と会話すると元気が出る」と好評を得たと同時に「オンラインなら開催場所までの距離、移動時間を気にすることなく参加できることがわかった」、「オンラインでの企画を自分たちでも考えたい」と、オンラインでの活動に新たな可能性を感じたという意見が寄せられた。今回の試みは今春より朝霞キャンパスから赤羽台キャンパスへ移転する本学科にとっても示唆を得られた活動であったと感じている。それでもお互いの顔が見える関係、人となりを感じることができると関係の構築が鍵となることを感じる機会ともなった。

一般的に大都市圏に在住する住民は人間関係の構築に苦慮している事が報告されている。と同時に近隣に新たな友人関係を求めていることが示唆されている。ここに学生が間に入り仲を取り持つことで参加者同士の会話や交流が促進されたといえる。同時に参加する高齢者から見ると指導される相手が学生であることから孫と接しているような親しみやすさとともに自身の失敗に恥ずかしさを感じずに参加できるという学生ならではの利点に対する肯定的な反応が得られた。また、学生にとっても家族以外の年齢の離れた人とのコミュニケーションを通じて専門的な内容を分かりやすく説明するための説明方法に工夫が必要という振り返りが見られ、社会人基礎力の育成を図れる貴重な経験となったといえる。

本年度は朝霞市役所の担当課が新型コロナウイルス対応のために参加を得ることはできなかったが、参加者が市役所担当者の本活動の様子を知らせていただいている。今後、新型コロナウイルスの流行が収まった後にはオンラインと対面の両方向から市民活動による地域住民の健康づくり活動に参画していきたいと考えている。

社会貢献活動助成・表彰制度

■東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰

2019年度より社会貢献部門の活動における新たな取り組みとして、学生の社会貢献に対する活動助成と個人の活動を含む学生の社会貢献活動に対する表彰を行う制度を設立した。これは、2018年度まで本学学生支援課で行っていた表彰制度を一部引き継ぐ形で作られたもので、学生の社会貢献活動のサポートをするボランティア支援室が社会貢献センター内にできたことによる。社会貢献センターにおいては2年目となる2020年度の概要は以下のとおりである。

なお、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、学生の「課外活動」が大幅に制限されることとなった。

そのため、活動内容を大幅に変更することが余儀なくされ、結果的に「中止」を選択する団体が多かった。

「Web」を中心とするなどの対応策がまだ確立していない時期であったこともあり、代替案を出すことが難しく、2021年度においても課題となっている。

I. 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業

1. 目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

2. 助成対象

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト(ボランティア活動を含む。)で、次の2区分による活動を対象とする。

また、本学の学生(大学院生を含む。以下同じ)が活動する団体で、1団体あたり本学学生が最低3名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。ただし、ゼミ活動は対象外とする。

(1) 新規活動助成

- ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。
- イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

- ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。
- イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

3. 助成内容

(1) 新規活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による第1次審査(書類審査結果発表)、第2次審査(プレゼン審査)

Ⅱ. 社会貢献活動による表彰

1. 表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)

(2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

2. 表彰内容

表彰の内容は次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。

(1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。

(2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

Ⅲ. 年間スケジュール

●学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2020年1月4日～2月28日 募集期間(第1次)

3月中 社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考(申請数:8団体)

第1次書類選考結果通知(第1次通過団体数:8団体)

第2次プレゼン審査(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

3月31日 決定通知(採択数:8団体)

5月20日～6月30日 追加募集期間(第2次)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため「課外活動」が中止となり、応募者無し

2021年2月末まで 各採択企画の報告書および決算書提出締切

2021年3月16日 報告会の実施(活動できなかった7団体除く1団体が報告予定)
3月末まで 支援金額の支払い

●社会貢献活動による表彰

2020年12月1日～2021年1月8日 募集期間
2021年2月 社会貢献センター運営委員会にて書類選考
結果通知
3月16日 表彰式・報告会

IV. 2020年度実績

●プロジェクト助成

応募数 8団体
採択数 8団体(内6団体中止)

●表彰

応募数 個人2名、3団体
受賞数 個人1名、3団体

2020年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会

東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 及び社会貢献活動に対する表彰の概要（抜粋）

●目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

●助成対象となるプロジェクト活動

(1) 新規活動助成

- ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。
- イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

- ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。
- イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

●助成内容

(1) 新規活動助成

- ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

- ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

2020年度実績 応募 8団体 採択 8団体
(内6団体は新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

社会貢献活動による表彰

●表彰の対象

- (1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)
- (2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)
- (3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ、本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

●表彰内容

- (1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。
- (2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

2020年度実績 応募件数 5件(個人2名/3団体) 受賞数 4件(個人1名/3団体)

2020年度 採択団体および表彰者

■学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

応募数 8 団体／採択数 8 団体（内6 団体中止）

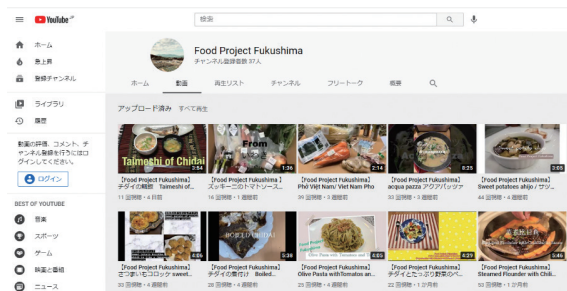
2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、『対面』での活動が大きな制限を受ける中、「Web」を用いる等の対応を求められる一年となった。そのため、『対面』を主とする活動は残念ながら中止になった。「Web」での活動ができた2 団体のみの報告となった。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成 採択団体活動紹介

団体名：Food Project Fukushima

【活動概要】

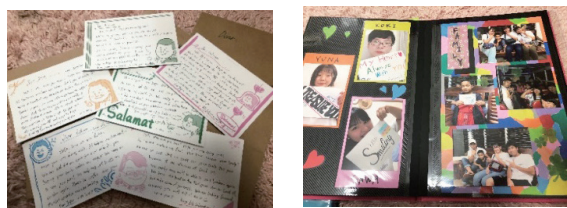
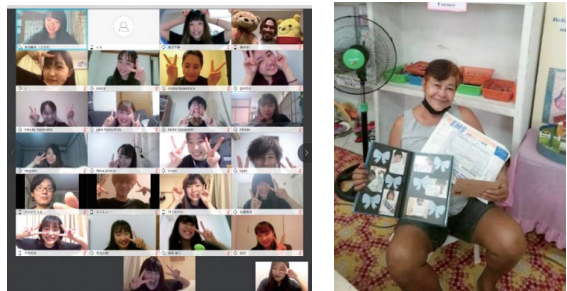
いわきの食の安全を多言語で発信するプロジェクトである。いわきの有機栽培農家とオーリーブプロジェクトから、食材を参加者の自宅に直接配送してもらい、動画を作成、YouTube にアップする。動画掲載は、10 月から開始することとなった。現在までに、60 本を超える動画を発信している。



団体名：国際ボランティアサークル Salamat

【活動概要】

今年度は活動拠点であるフィリピン・セブ島へ渡航することができませんでしたが、オンラインの環境をうまく使い、工夫して活動を継続してきました。支援地域へ送ったアルバムにはサークルメンバーからのメッセージ写真をのせ、これまでの写真から思い出を振り返られる心のこもったアルバムを郵送しました。これまで作り上げてきた信頼関係を失わず、コミュニケーションをとることを大切に活動を行いました。



■社会貢献活動による表彰

応募数 個人2名、3団体／受賞数 個人1名、3団体

社会貢献活動等プロジェクトと同様に新型コロナウイルスの影響から「対面」での活動は難しく、「Web」を用いる等「非対面」の活動で募集した。

社会貢献活動による表彰 受賞者活動紹介

個人の部

受賞者：寺田 一世さん（情報連携学部3年）

【活動概要】

私の出身元である富山県の新型コロナウイルス感染症対策サイトを富山県庁と連携し開発・運営しています。富山県による公式情報と客観的な数値をわかりやすく伝えることで、富山県にお住まいの方や、富山県内に拠点を持つ企業の方、富山県を訪れる方が、現状を把握して適切な対策を取れるようにすることを目的としています。



団体の部

受賞者：Brand New Toyo (BNT)

【活動概要】

今年度、これまでとは異なる学生生活を送る事になった東洋大生向けに、オンラインで4年生や同学年の学生と交流を持てる場を創りました。計41人の学生が参加し、東洋でチャレンジできる事や留学、卒業後のキャリア等について話す事で、学生の背中を押す事ができました。中には実際にインターンに申し込む学生も現れました



受賞者：佐々木茂ゼミナール 30 期

【活動概要】

南会津町の活性化と「南郷トマト」の新しい価値を地域内外に認知させるために、「南郷トマト」の魅力を発信していくブランディングについて論じた共同論文を執筆。

執筆後、提案を実行できるかどうか、実際に南会津町に足を運び調査をし、提案の実現に向けて、町の方と複数回のミーティングを行った。



受賞者：お友達プロジェクト LEAF（高山研究室）

【活動概要】

私たちは津久井やまゆり園という障害者施設で、利用者の方と多彩な活動をしています。この活動で私たちと利用者の方は、ボランティアでもなく援助者でもない、「お友達」という関係です。そのため、時間の過ごし方や交流の仕方など枠にとらわれない活動ができ、日々可能性を感じています。

Bさんとの交流

・きっかけ

園の職員の方がBさんと学生の**パイ役**になって下さり、Bさんが「嵐」が好きなことを知る。

・リモート前

Bさん自身が嵐のDVDを見ていることから一緒にDVDを見るために学生が2つのDVDを持参し、BさんどのDVDを見るか選んでもらう。

・リモート後

お互いが持っている雑誌を画面越しに一緒に見て交流をする。
Bさんが嵐のDVDを見る時のもっと楽しめるように一緒にうちわを作る。

・うちわの作成

予めうちわに貼る写真と装飾を学生が用意し、2回に分けて画面越しにBさんに貼るものを決めてもらう。

1回目→Bさんの**意思表出**が上手くいかず、**寂しい装飾**になってしまう。

2回目→1回目の反省を活かし、やり方を変更。**カラフルな装飾**になった。

1回目↓

2回目↓



被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業

■本事業の概要

2018年度は、大阪府北部地震にはじまり、平成30年7月豪雨、台風21号災害、北海道胆振東部地震など、災害救助法の適用を受ける自治体が相次ぐ大規模災害が多発した。

また毎年のように、夏期は、豪雨災害が国内のいずれかの場所で発生するなど、大規模災害発生は珍しいことではなくなっている。

このことを受け、東洋大学では、出身県が被災した場合に、復興のために行動する学生を支援する取り組みの一環として、被災地域でボランティア活動を行う際の経費一部助成を行うこととなった。

2019年度においては、問い合わせや結果的に対象外となる学生からの申込みはあったものの、実際に活用された実績はなかった。

2020年度に向けて、制度設計の一部見直しとして、助成対象の「『出身県』が被災している学生」という限定や周知方法の見直しを検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、「学外での課外活動が禁止」となり、募集を中止した。

I 被災地支援 ふるさとボランティア活動助成の目的

被災地でボランティア活動を行う際の経費を一部補助することで復興のために行動する学生を支援する。

II 助成対象

出身県が過去3年間において被災している東洋大学生で、帰省時など出身地での災害ボランティア活動を計画している方。(1人年度内1回まで申請可能)

III 助成内容

助成対象は、往復の交通費(10,000円上限)

IV. 2020年度スケジュール

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、「学外での課外活動が禁止」となり、募集中止

V. 2020年度実績

中止のため 0件

VI. 今後の課題

2019年度の際に課題としていた助成対象の「『出身県』が被災している学生」という限定や周知方法の見直しを検討していきたい。

社会貢献センター 外部評価

社会貢献センター 外部評価

2019年度より、外部評価者を招き、社会貢献センター長、運営委員他とともに評価をいただくことになっていましたが、2019年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、書面での評価となりました。

日 時	2020年3月
場 所	新型コロナウイルスの影響により事前面談の上、書面での回答
外部評価	市川 享子氏（東海大学 健康学部 講師）

I 判 定：S

S	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A	おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総 評

貴学は井上円了を創設者とし、「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して生涯活動の支援を伝統としている。創設者の志「大学の教育を広く民衆に届ける」が大学教職員や社会に広く浸透し、社会貢献センターがその中心的な推進役を果たしている。

今年度は新型コロナ感染拡大により、春期講座の開催が見舞われるなどの困難に直面していたが、秋以降は教育委員会や学校、保育園などの機関と連携し、使命を積極的に果たそうとしていたことを高く評価する。こうした継続的な研修、講座により、社会貢献室が掲げるテーマを、幅広い世代と共有広めている様子が伝わってくる。

遠隔での研修、講座が社会に浸透している時代において、今後遠隔での講座の開催の可能性をさらに探っていただければと考える。

Ⅲ 概評及び提言

1. 理念・目的

〈概評〉

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか。

社会貢献を大学の第3の使命と位置づけ、社会に開かれた大学を体現する中心的機関として、大学側の積極的な支援を基盤に多方面に活動を広げていることはセンターの強みであり、高く評価できる。

一方で昨年度にも記載した内容ではあるが、大学の使命となる教育と研究がセンターの進める公開講座や出張事業、ボランティア支援の活動と関連づけが明示されていないことから、今後はサービス・ラーニングのような社会貢献と教育と統合した「教育プログラム／カリキュラムの開発」やアメリカの大学で進められている研究と社会貢献を有機的に結び付けた Engaged Campus（社会参画する大学）、Engaged Scholarship（社会参画する学術）のように、社会と学術との相互の関係づけをより明示することも期待したい。

② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか。

今年度は新型コロナ感染拡大の影響により、講座の数は抑えられてしまったが、SDGs のようなグローバル社会との関わり、人生100年時代の進展による新しいニーズへの対応も拡大、発展させている。人生100年時代において、今年度熱心に取り組まれた教育機関等との連携は大変重要な要素であるが、さらに、自治会や自治体などより地域に根差した機関や人々にも生涯学習の機会の可能性を探ることも検討してほしい。

③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

TOYO グランドデザイン」として社会貢献・社会連携部門の中期計画が立てられているが、コロナによるもたらされた影響によって、これまでとは異なる社会への発信、共有方法の可能性が示唆された。ポストコロナの生涯学習のあり方について、積極的な検討を進めモデルとなるような取り組みが示されることを期待したい。

さらに前年での記載内容と重複するが、TOYO グランドデザインで掲げられているテーマは現代社会における最重な課題であり、その実現が社会からも高く期待されていると思われるとともに、その浸透は教育的観点においても重要な影響をもたらすことが予想される。中期計画で示されている「活動のなかで奮闘する」は貴学独自の理念や特徴であり、その体現がより貴学の価値を高めるものと思われる。実施にあたっては社会貢献センターに加えて、学外、学外の複数の拠点やキーパーソン（各キャンパスや各部門で中心となる教職員や学生、地域関係者）を発掘し、目指す方向性を相互に確認・構築しながら、リソースも共有しながら展開することも効果的と思われる。

〈提言〉

長所
<p>創設者井上円了の思想・理念「余資なく、優暇なき者」をもとに受け継がれている社会貢献センターの伝統があり、社会とも広く共有されていること。新型コロナウイルス感染拡大によって、さまざまな事業が困難になるなか、社会のニーズに応えながら、講座や研修を実施できており、困難な状況においても、そのとき必要なテーマに応じて、社会貢献、生涯学習の支援を継続できていたことは特筆にあたる。</p>
改善課題
<p>前年度での指摘とも重なるが、社会貢献センターによる講座においてより双方向性を持たせること、在宅や海外に居住しても学習できる機会を広げるようなオンライン配信等のICTを活用した生涯教育の充実等、貴学の教育のさらなる浸透をはかるための支援について、時代に応じたさらなる工夫の可能性も考えられる。加えて、日本語や英語で学習できる外国人学生向けの講座（オンライン講座）が一部導入されることで、将来の学部生や大学院生などの留学生の獲得につながる可能性もあるのではないか。</p>



2020 年度
東洋大学 社会貢献センター一年報

発行 2021 年 7 月 28 日



Toyo University supports the Sustainable Development Goals



東洋大学

社会貢献センター（エクステンション課）

〒113-0021 東京都文京区駒込 1-10-2 浦水会館 1 階

TEL : 03-3945-7635